

EPSON

取扱説明書

Home Projector

EH-LS12000B

EH-LS11000W

マニュアル中の表示の意味	5	Trigger Out端子への接続	26
マニュアルの使い方と情報の探し方	7	有線LANに接続する	27
キーワードで検索する	7	有線LANに接続する	27
しおりから直接ジャンプする	7	有線LANを設定する	27
必要なページだけ印刷する	7	ケーブルカバーを取り付ける	29
ドキュメント類の最新バージョンを入手する	8	リモコンに電池を取り付ける	31
リモコンを操作する	8	リモコンを操作する	32
プロジェクターを使用する前に	9	プロジェクターの基本機能を使用する	33
プロジェクターの各部名称と働き	10	プロジェクターの電源を入れる	34
プロジェクターの各部名称 - 前面/上面	10	プロジェクターの電源を切る	36
プロジェクターの各部名称 - 背面	11	テストパターンを表示する	37
プロジェクターの各部名称 - 底面	11	設置モードを選択する	38
プロジェクターの各部名称 - インターフェイス	12	メニューから設置モードを変更する	38
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル	13	映像の位置を調整する (レンズシフト)	40
プロジェクターの各部名称 - リモコン	13	プロジェクターの傾きを調整する	42
プロジェクターを準備する	16	映像の形状を補正する	43
プロジェクターの設置	17	タテヨコ台形補正で映像のゆがみを補正する	43
輸送に関するご注意	18	Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する	44
プロジェクターの設置・取り付け	18	ポイント補正で映像のゆがみを補正する	46
投写距離	19	映像の大きさを調整する	48
セーフティーワイヤーを取り付ける	20	映像のピントを調整する	49
天吊り金具ELPMB22をお使いのとき	20	投写映像を切り替える	50
天吊り金具ELPMB30をお使いのとき	21	映像のアスペクト比を設定する	51
プロジェクターを接続する	23	映像のアスペクト比を切り替える	51
HDMIケーブルでビデオ機器と接続する	23	アスペクトモードの種類	51
HDMIケーブルでコンピューターと接続する	24	カラーモードを設定する	53
メディアストリーミング端末を接続する	24		
外部機器を接続する	25		
eARC/ARC対応AVアンプやスピーカーを接続する	25		

カラーモードを変更する	53	ESC/VP21コマンドを使用する	80
カラーモードの種類	53	ESC/VP21コマンドリスト	80
映像の画質を調整する	55	ケーブル配線	80
シャープネスを調整する	55	PJLinkについて	81
フレーム補間を設定する	56	メニューの設定	82
光源の明るさを設定する	57	プロジェクターメニューを操作する	83
映像の光量を調整する	57	ソフトキーボードを操作する	85
映像の解像感を調整する（イメージ強調）	58	ソフトキーボードで入力可能な文字	85
映像の色合いを調整する	60	映像調整メニュー	86
色温度を調整する	60	信号入出力メニュー	89
RGBを調整する（オフセット・ゲイン）	61	設置メニュー	92
ガンマを調整する	62	表示メニュー	94
色相、彩度、明度を調整する	63	動作メニュー	96
プロジェクターの便利な機能	65	管理メニュー	97
HDMIリンク機能	66	ネットワークメニュー	99
HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する	66	ネットワーク設定メニュー	99
映像を一時的に停止する	68	ネットワーク設定 - 有線LANメニュー	100
プロジェクターの設定をメモリーに保存する	69	ネットワーク設定 - プロジェクター制御メニュー	100
映像の詳細設定を行う	71	メモリーメニュー	102
色味を調整する（ユニフォーミティー）	71	初期・全体設定メニュー	103
セキュリティー機能	73	メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能）	104
プロジェクターのレンズとボタンをロックする	73	USBメモリーを使って一括設定する	104
ボタンロックを解除する	74	コンピューターを使って一括設定する	105
セキュリティーケーブルを取り付ける	74	一括設定でエラーが発生したときは	106
プロジェクターを監視および制御する	75		
Webブラウザーを使ってネットワークプロジェクターを制御する	76		
Web Controlの画面一覧	77		



プロジェクターをメンテナンスする	107	音声に関するトラブル	134
プロジェクターのメンテナンス	108	リモコン操作に関するトラブル	135
レンズを清掃する	109	HDMIリンクに関するトラブル	136
本機を清掃する	110	ネットワークに関するトラブル	137
エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする	111	Webブラウザを使って設定を変更できない	137
エアフィルターと吸気口を清掃する	111	付録	138
エアフィルターを交換する	113	オプション・消耗品一覧	139
液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）	116	設置用金具	139
ファームウェアを更新する	118	外付けオプション	139
USBストレージを使ってファームウェアを更新する	118	消耗品	139
コンピューターとUSBケーブルを使ってファームウェアを更新する	119	スクリーンサイズと投写距離	140
困ったときに	122	対応解像度	142
トラブルの対処方法	123	本機仕様	143
インジケータの見方	124	接続端子	144
ステータス表示を確認する	126	外形寸法図	145
ステータスに表示されるメッセージ	126	安全規格対応シンボルマークと説明	146
電源に関するトラブル	129	レーザー製品を安全にお使いいただくために	148
電源が入らない	129	レーザー警告ラベル	148
予期せず電源が切れる	129	用語解説	150
映像に関するトラブル	130	一般のご注意	152
映像が表示されない	130	使用限定について	152
映像がゆがむ	131	本機を日本国外へ持ち出す場合の注意	152
映像がぼやける	131	瞬低（瞬時電圧低下）基準について	152
映像の一部が表示されない	131	JIS C 61000-3-2適合品	152
映像にノイズが入る、乱れる	132	表記について	152
映像の明るさや色合いが違う	132	商標について	153
映像が上下反転して表示される	133	ご注意	153
映像と音声がずれる	133	著作権について	153

マニュアル中の表示の意味


安全に関する表示

本製品および取扱説明書には、製品を安全にお使いいただくために絵表示が使われています。

人体への危害や財産への損害を防ぐために、次の絵表示で表記された説明は、内容をよくお読みいただいた上で、説明に従ってお取り扱いください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

注意	注意して取り扱わないと、本製品の故障や損傷の原因となるおそれがある内容を記載しています。
	知っておくと便利な関連情報を記載しています。
【ボタン名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【Esc】ボタン
[メニュー名/設定名]	プロジェクターのメニューや設定の名称を示しています。 例： [映像調整] メニューを選択する。 ☛ [映像調整] > [カラーモード]
▶▶	関連事項を記載しているページを示しています。
☛	プロジェクターのメニューの階層を示しています。

▶▶ 関連項目

- 「マニュアルの使い方と情報の探し方」 [p.7](#)

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

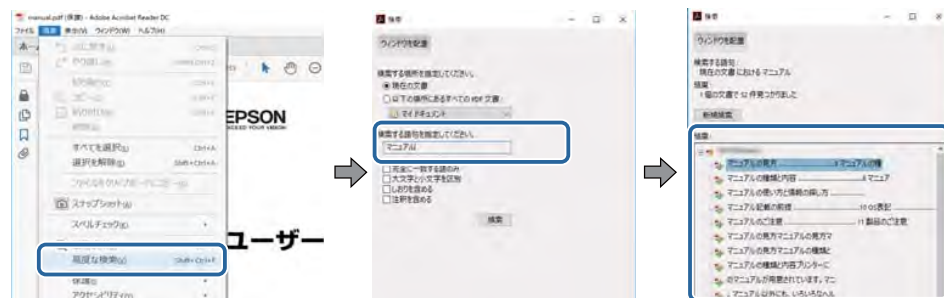
PDFマニュアルでは、探したい情報のキーワードから該当箇所を検索したり、しおりから直接ジャンプしたりすることができます。また、必要なページだけ印刷することもできます。ここでは、PDFマニュアルをコンピュータのAdobe Reader Xで開いた場合の使い方を説明します。

▶ 関連項目

- 「キーワードで検索する」 p.7
- 「しおりから直接ジャンプする」 p.7
- 「必要なページだけ印刷する」 p.7

キーワードで検索する

[編集] メニューの [高度な検索] をクリックします。検索ボックスに探したい情報のキーワード (語句) を入力して、[検索] をクリックします。キーワードの該当箇所が一覧で表示されます。表示された文字列をクリックすると、該当ページにジャンプします。

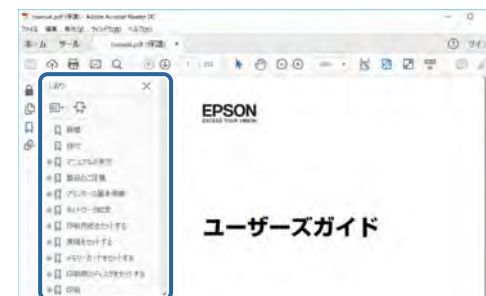


しおりから直接ジャンプする

タイトルをクリックするとそのページにジャンプします。+または>をクリックすると下の階層のタイトルが表示されます。ジャンプ前のページに戻りたいときは、キーボードで以下の操作をします。

- Windows : [Alt] キーを押したまま←キーを押します。

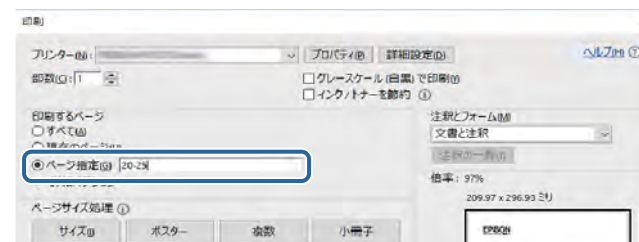
- Mac OS : commandキーを押したまま←キーを押します。



必要なページだけ印刷する

紙で読みたいページだけを抜き出して印刷できます。[ファイル] メニューの [印刷] をクリックして、[印刷するページ] の [ページ指定] で印刷したいページを指定します。

- 連続したページの指定は、開始ページと終了ページの間にハイフンを入れます。
例 : 20-25
- 連続していない複数ページの指定は、ページをカンマで区切ります。
例 : 5,10,15



説明書や仕様書の最新バージョンは、EPSONのWebサイトからダウンロードできます。

dreamio.jp/doc/にアクセスし、機種名を入れてください。

プロジェクターを使用する前に

本機の各部名称について説明します。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称と働き」 [p.10](#)

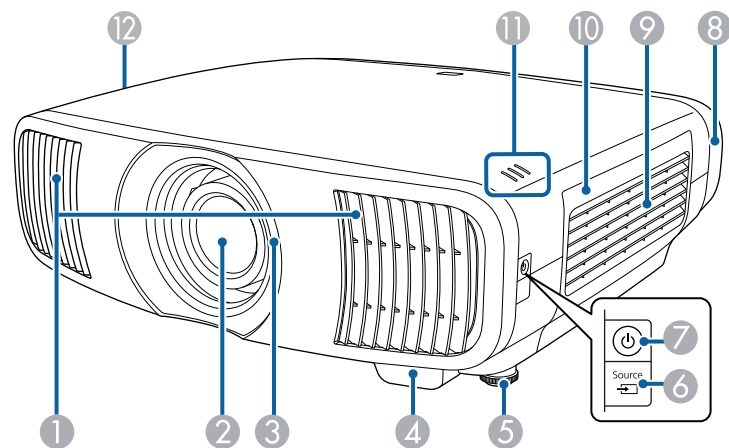
本機の各部名称とその働きについて説明します。

本書では断りがながぎり、EH-LS12000Bのイラストを用いて説明しています。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの各部名称 - 前面/上面」 p.10
- 「プロジェクターの各部名称 - 背面」 p.11
- 「プロジェクターの各部名称 - 底面」 p.11
- 「プロジェクターの各部名称 - インターフェイス」 p.12
- 「プロジェクターの各部名称 - 操作パネル」 p.13
- 「プロジェクターの各部名称 - リモコン」 p.13

プロジェクターの各部名称 - 前面/上面



名称	働き
① 排気口	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 ⚠ 注意 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
② 投写レンズ	ここから映像を投写します。
③ レンズシャッター	本機の電源オン/オフに連動して自動的に開閉します。
④ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。
⑤ フロントフット	机上に設置したときに、フットを伸縮させて映像の左右の傾きを調整します。
⑥ 【Source】 ボタン	入力ソースを切り替えます。
⑦ 電源ボタン/インジケーター (⏻)	本機の電源をオン/オフします。 本機に電源が供給されているときに点灯します。
⑧ ケーブルカバー (EH-LS12000B)	ケーブルを接続した背面の接続端子部のカバーです。
⑨ 吸気口 (エアフィルター)	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。
⑩ エアフィルターカバー	エアフィルターの清掃・交換時に開閉します。
⑪ インジケーター	本機の状態を表示します。
⑫ 吸気口	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。

▶ 関連項目

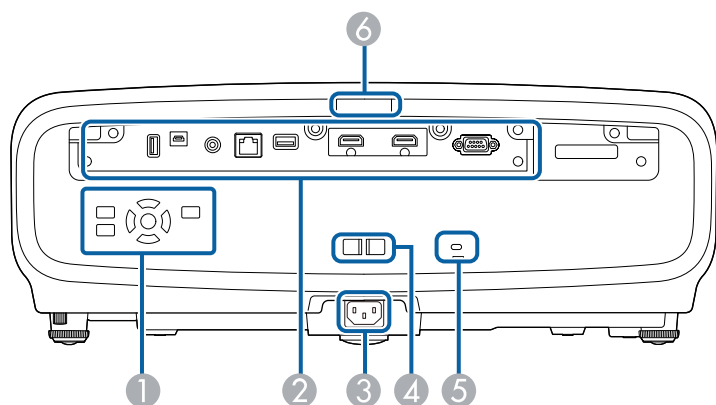
- 「インジケーターの見方」 p.124

- 「リモコンを操作する」 p.32
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 p.111
- 「ケーブルカバーを取り付ける」 p.29

▶ 関連項目

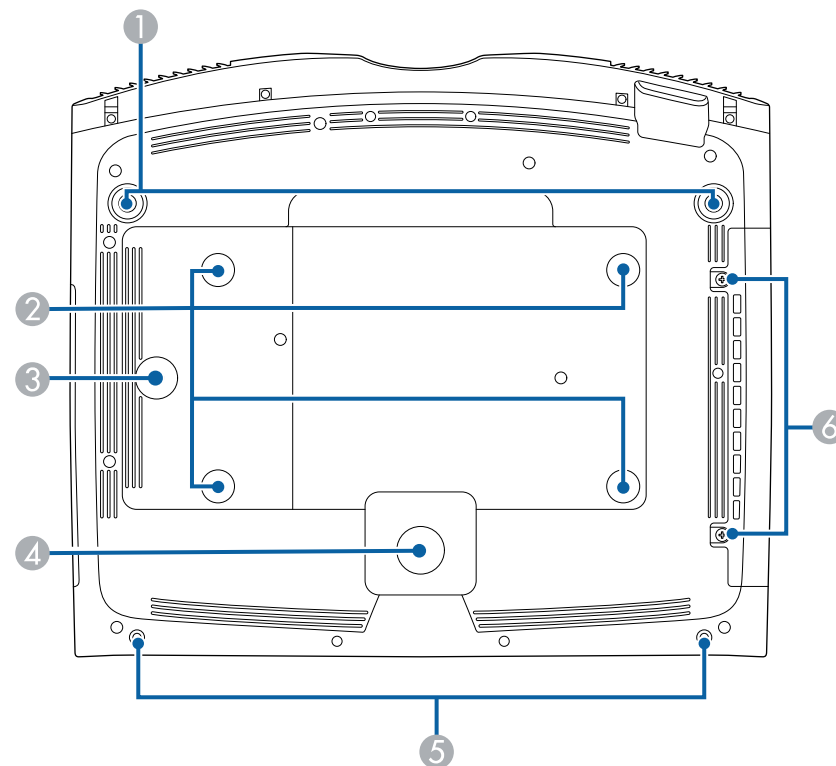
- 「セキュリティーケーブルを取り付ける」 p.74
- 「プロジェクターの各部名称 - インターフェイス」 p.12

プロジェクターの各部名称 - 背面



名称	働き
① 操作パネル	本機の操作をします。
② インターフェイス	外部機器を接続します。
③ 電源端子	電源コードを接続します。
④ ケーブルホルダー	ケーブル類を固定するための市販の結束バンド(ケーブルタイ)を通します。
⑤ セキュリティー slots	Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティー slots です。
⑥ リモコン受光部	リモコン信号を受信します。

プロジェクターの各部名称 - 底面



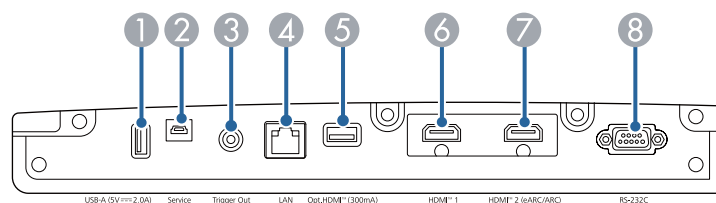
名称	働き
① フロントフット	机上に設置したときに、フットを伸縮させて映像の左右の傾きを調整します。

名称	働き
② 天吊り金具固定部 (4箇所)	本機を天井から吊り下げるときは、オプションの天吊り金具をすべての固定部を使用して取り付けます。
③ ワイヤークランプ固定部	オプションの天吊り金具を取り付けるときは、落下防止のため、カラビナをここに取り付け、セーフティーワイヤーを通します。
④ リアフット	机上に設置したときに、本体を支えます。
⑤ ネジ穴 (ケーブルカバー用)	ケーブルカバーを固定するためのネジ穴です。
⑥ エアフィルターカバー固定ネジ	エアフィルターカバーを固定するネジです。

▶▶ 関連項目

- 「セーフティーワイヤーを取り付ける」 [p.20](#)
- 「プロジェクターの傾きを調整する」 [p.42](#)

プロジェクターの各部名称 - インターフェイス

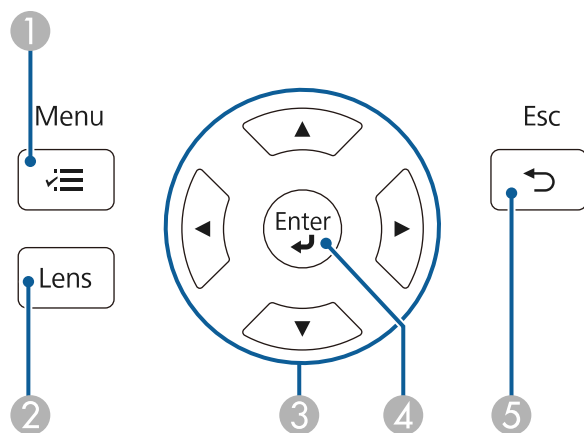


名称	働き
① USB-A (5V===2.0A) 端子	メディアストリーミング端末に電力を供給します。USBメモリーを接続して、エラーログや操作ログを保存します。 一括設定機能でメニュー設定をコピーするときや、ファームウェアを更新するときに使います。 以降はUSB-A端子と記載します。
② Service端子	一括設定機能でメニュー設定をコピーするときや、ファームウェアを更新するときに使います。
③ Trigger Out端子	電動スクリーンなどの外部機器に接続します。
④ LAN端子	LANケーブルを接続して、ネットワークに接続します。
⑤ Opt.HDMI (300mA) 端子	光HDMIケーブルの給電端子を接続します。すべての機器の接続を保証するものではありません。お使いの機器で動作をご確認のうえ、使用してください。
⑥ HDMI1端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 この端子はHDCP 2.3に対応しています。
⑦ HDMI2 (eARC/ARC) 端子	HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。 この端子はHDCP 2.3に対応しています。 この端子はHDMI eARC/ARCに対応しています。
⑧ RS-232C端子	RS-232Cケーブルを接続して、コンピューターから本機を制御します。(通常はこの端子を使用する必要はありません。)

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターを接続する」 [p.23](#)

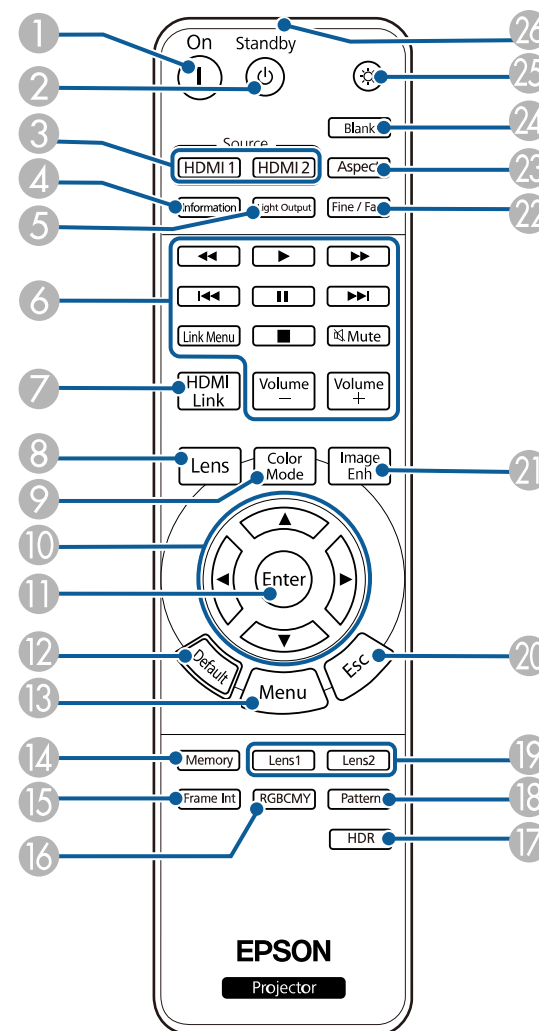
プロジェクターの各部名称 - 操作パネル



名称	働き
① 【Menu】 ボタン (☰)	メニュー画面を表示/終了します。
② 【Lens】 ボタン	映像のサイズ、ピント、投写位置を調整します。
③ 上下左右ボタン	メニューやヘルプの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。 直前に使用した [幾何学歪み補正] の調整画面 (EH-LS12000B)、または [タテヨコ台形補正] の調整画面 (EH-LS11000W) を表示します。
④ 【Enter】 ボタン (↵)	メニューやヘルプの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⑤ 【Esc】 ボタン (↶)	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。

- 「映像の大きさを調整する」 p.48
- 「映像のピントを調整する」 p.49

プロジェクターの各部名称 - リモコン



▶ 関連項目

- 「メニューの設定」 p.82

名称	働き
① 【On】 ボタン	本機の電源を入れます。
② 【Standby】 ボタン	本機の電源を切ります。
③ 【HDMI1】、【HDMI2】 ボタン	HDMI1端子とHDMI2 (eARC/ARC)端子からの映像に切り替えます。
④ 【Information】 ボタン	[情報表示] 画面を表示します。
⑤ 【Light Output】 ボタン	[レーザーライト出力] 画面を表示します。
⑥ 再生操作ボタン	HDMI CEC規格対応の機器を操作します。
⑦ 【HDMI Link】 ボタン	[HDMIリンク] 画面を表示します。
⑧ 【Lens】 ボタン	映像のサイズ、ピント、投写位置を調整します。
⑨ 【Color Mode】 ボタン	[カラーモード] 画面を表示します。
⑩ 上下左右ボタン	メニューの表示中に押すと、メニュー項目を選択します。
⑪ 【Enter】 ボタン	メニューの表示中に押すと、選択項目を決定して、次の階層に進みます。
⑫ 【Default】 ボタン	選択した設定を初期値に戻します。
⑬ 【Menu】 ボタン	メニュー画面を表示/終了します。
⑭ 【Memory】 ボタン	[メモリー] メニューを表示します。
⑮ 【Frame Int】 ボタン	[フレーム補間] の強度を設定します。
⑯ 【RGBCMY】 ボタン	RGBCMYの各色に対して色相、彩度、明度を調整します。
⑰ 【HDR】 ボタン	[ダイナミックレンジ] 調整画面を表示します。
⑱ 【Pattern】	[テストパターン] 画面を表示します。

名称	働き
⑲ 【Lens1】、【Lens2】 ボタン	[レンズポジション] 設定で [メモリー1]、[メモリー2] に保存されたレンズポジションを呼び出します。
⑳ 【Esc】 ボタン	実行中の機能を終了します。 メニューの表示中に押すと、前のメニュー階層に戻ります。
㉑ 【Image Enh】 ボタン	[イメージ強調] 画面を表示します。
㉒ 【Fine/Fast】 ボタン	[映像処理] 画面を表示します。
㉓ 【Aspect】 ボタン	[アスペクト] 画面を表示します。
㉔ 【Blank】 ボタン	映像を一時的に停止します。再開するときには、再度このボタンを押します。
㉕ イルミネーション ボタン	このボタンを押すと、リモコン上のボタンが約10秒間光ります。暗がりでもリモコンを操作するとき便利です。
㉖ リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

▶▶ 関連項目

- 「投写映像を切り替える」 [p.50](#)
- 「メニューの設定」 [p.82](#)
- 「カラーモードを設定する」 [p.53](#)
- 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.51](#)
- 「映像の大きさを調整する」 [p.48](#)
- 「映像のピントを調整する」 [p.49](#)
- 「映像を一時的に停止する」 [p.68](#)
- 「HDMIリンク機能」 [p.66](#)
- 「テストパターンを表示する」 [p.37](#)
- 「フレーム補間を設定する」 [p.56](#)
- 「光源の明るさを設定する」 [p.57](#)
- 「映像の解像感を調整する (イメージ強調)」 [p.58](#)
- 「色相、彩度、明度を調整する」 [p.63](#)

- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.69](#)

プロジェクターを準備する

プロジェクターの準備方法を説明します。

▶ 関連項目

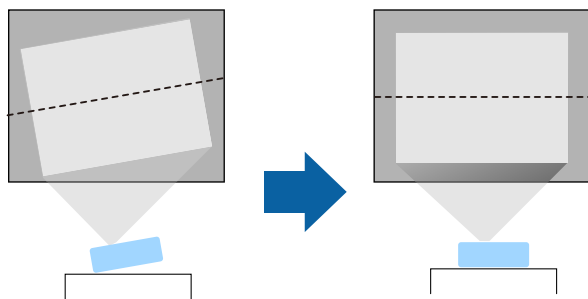
- 「プロジェクターの設置」 [p.17](#)
- 「セーフティワイヤーを取り付ける」 [p.20](#)
- 「プロジェクターを接続する」 [p.23](#)
- 「有線LANに接続する」 [p.27](#)
- 「ケーブルカバーを取り付ける」 [p.29](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.31](#)

平らな場所にプロジェクターを置いて映像を投写します。

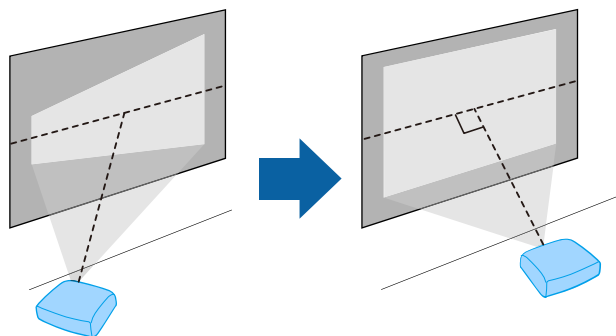
位置を固定して使用する場合は、天井にプロジェクターを取り付けることもできます。天井からプロジェクターを吊り下げるときは、オプションの天吊り金具が必要です。

プロジェクターの設置位置を決めるときは、以下の点に注意してください。

- プロジェクターは水平で安定した場所に置くか、本製品に対応した金具を使用して取り付けます。



- 通気のためにプロジェクターの周囲に十分なスペースを確保します。通気の妨げになるものをプロジェクター上面や周囲に置かないでください。
- 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。



⚠ 警告

- 天井からプロジェクターを吊り下げるときは、天吊り金具の取り付けが必要となります。プロジェクターを正しく設置しないと、落下により破損やけがの原因となることがあります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターにそれらの溶剤が付着すると、プロジェクターのケースが割れ、プロジェクターが落下するおそれがあります。
- 天吊り金具とプロジェクターの取り付け不備は、プロジェクターの落下事故につながるおそれがあります。天吊り金具は、プロジェクターの取扱説明書で指定されている天吊り固定部すべてを使用して確実に固定してください。また、十分強度のあるワイヤーなどを使ってプロジェクターと金具を固定してください。本機に対応したエプソン指定の金具を使用してください。
- 湿気やホコリの多い場所や、油煙や湯気が当たる場所（調理場所、ご家庭のキッチン、加湿器の近くなど）にプロジェクターを設置しないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、油によりプロジェクターの外装ケースが劣化し、天吊り設置したプロジェクターが落下するおそれがあります。

外装ケースの劣化・破損によりプロジェクターの落下が想定される環境例

- 油煙が多い場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- 溶剤、薬品が揮発している空間（工場、実験室など）
- 油、洗剤、薬品などが付着する場所（工場、調理場所、ご家庭のキッチンなど）
- アロマオイルを頻繁に焚く場所（リラクゼーションルームなど）
- イベント演出などのスモーク（油成分以外も含む）や、泡が多い場所（イベント演出装置の周辺など）

⚠ 警告

- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- ホコリや塵の多い場所で使用・保管はしないでください。投写映像の品質が劣化したり、エアフィルターや投写レンズにホコリが詰まって、故障や火災につながる可能性があります。
- 不安定な場所や荷重範囲を超える場所には設置しないでください。落下や転倒によりけがや事故の原因となります。
- 高い場所に設置するときは、地震などの非常時の安全確保と事故防止のため、ワイヤーなどを用いて落下防止策を施してください。正しく設置しないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- 塩害が発生する場所や、温泉の硫黄ガスなどの腐食性ガスが発生する場所には設置しないでください。腐食による落下の原因となることがあります。また、本機の故障の原因となることがあります。

注意

- 本機を標高1,500 m以上の場所で使用するときは、[設置]メニューの[高地モード]を[オン]にして、本機の内部温度が適切に調節されるようにしてください。
- 湿気やホコリの多い場所、たばこなどの煙が当たる場所への設置は、できるだけ避けてください。

▶ 関連項目

- 「輸送に関するご注意」 p.18
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.18
- 「投写距離」 p.19

輸送に関するご注意

本機内部にはガラス部品や精密部品が数多く使われています。輸送の際には、衝撃による故障防止のため、次のように取り扱ってください。

- 接続している機器はすべて取り外します。
- 【Lens】ボタンでレンズ位置を中心に戻します。レンズが中心位置にない状態で輸送すると、レンズシフトの機構が破損するおそれがあります。
- レンズシャッターが閉まっていることを確認します。
- 長距離を輸送するときや、運送業者に依頼される場合は、本機を緩衝材で保護し、頑丈な箱に入れて、精密機器であることを表記してください。
- 修理のため本機を輸送するときは、ご購入時の箱に入れるか、本機を緩衝材で保護してください。精密機器であることを表記してください。

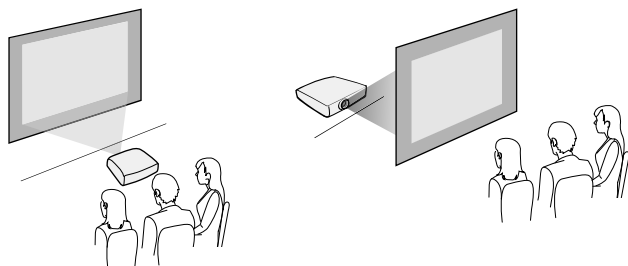


輸送中に発生したトラブルについては責任を負いかねますので、ご了承ください。

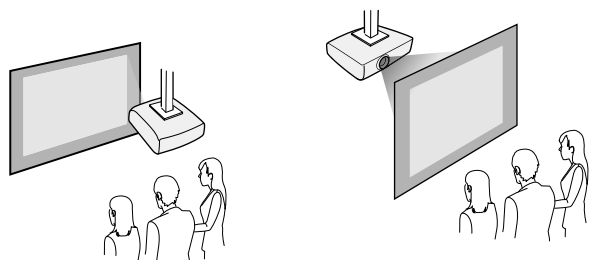
プロジェクターの設置・取り付け

本機は以下の方法で設置・取り付けできます。

フロント/リア



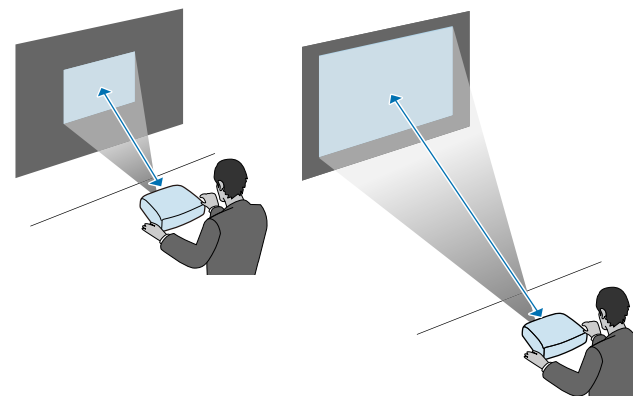
フロント・天吊り/リア・天吊り



設置する場所や方法に合わせて、[設置]メニューで[設置モード]を選択します。必要に応じて、[動作]メニューの[方向ボタン反転]をオンにします。

▶▶ 関連項目

- 「設置モードを選択する」 p.38



▶▶ 関連項目

- 「スクリーンサイズと投写距離」 p.140

投写距離

本機からスクリーンまでの距離に応じて、映像の大きさが決まります。本機をスクリーンから遠ざけるほど、投写される映像は大きくなります。スクリーンサイズと投写距離を参考にして、本機からスクリーンまでのおおよその距離を決めてください。

本機を天吊り設置するときは、落下防止用のセーフティーワイヤーを取り付けます。

⚠ 警告

セーフティーワイヤーは、必ずエプソン純正の天吊り金具に同梱されているものをご使用ください。セーフティーワイヤーは、別途セーフティーワイヤーセット ELPWR01としてもお買い求めいただけます。

▶ 関連項目

- 「天吊り金具ELPMB22をお使いのとき」 p.20
- 「天吊り金具ELPMB30をお使いのとき」 p.21

天吊り金具ELPMB22をお使いのとき

以下の手順でセーフティーワイヤーを取り付けます。

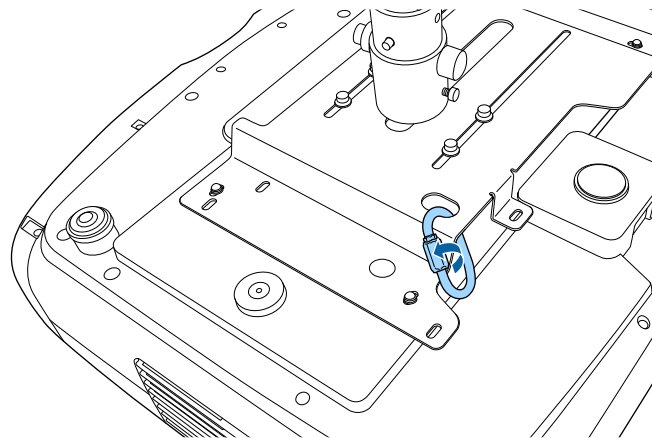
事前に天吊り金具（ELPMB22）が確実に本機に取り付けられていること、また、セーフティーワイヤーセットの以下の同梱品がそろっていることを確認してください。

- セーフティーワイヤー×1
- カラビナ×2
- ワイヤークランプ×1
- 取付用ネジ（M4×10mm）×1

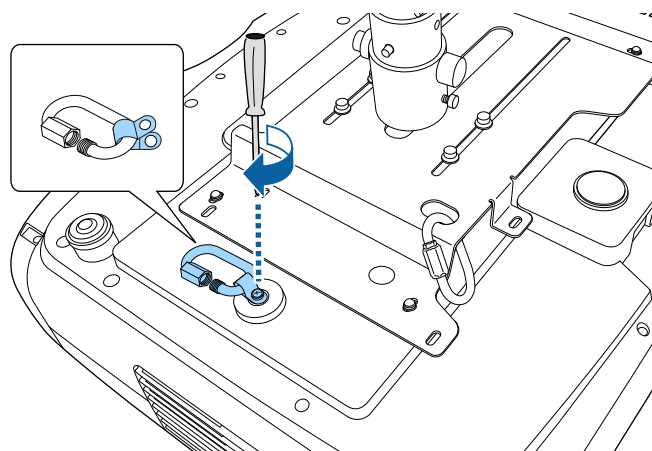


天吊り金具ELPMB22について詳しくは『天吊り金具 ELPMB22/ELPMB23 取扱説明書』をご覧ください。

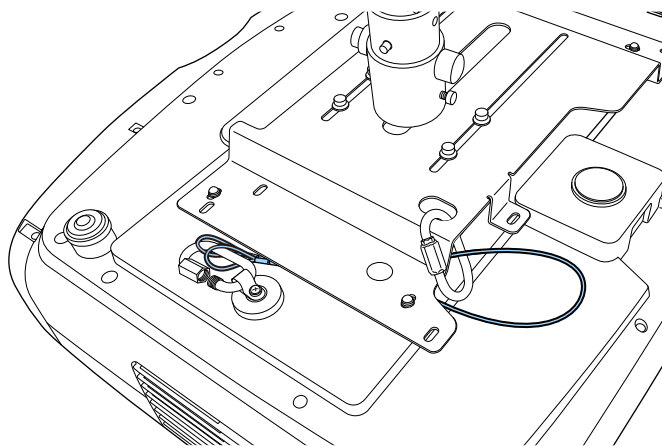
- 1 天吊り金具にカラビナを通して、カラビナを締めます。



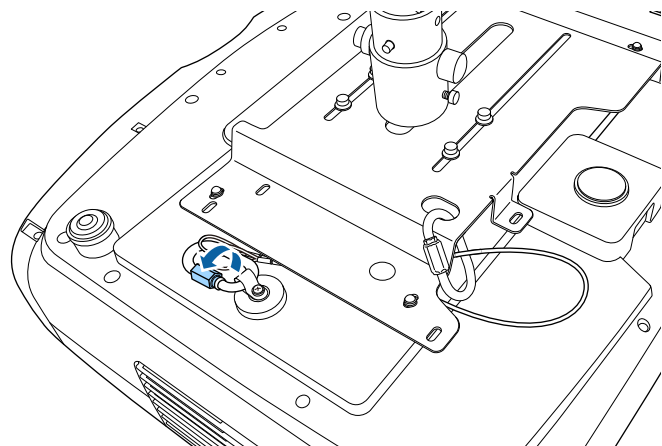
- 2 もう一つのカラビナにワイヤークランプを取り付け、ワイヤークランプをプロジェクターのワイヤークランプ固定部に取付用ネジで固定します。



- 3** セーフティワイヤーを天吊り金具側のカラビナに通して、両端をプロジェクター側のカラビナに取り付けます。



- 4** カラビナを締めます。



▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.8

天吊り金具ELPMB30をお使いのとき

以下の手順でセーフティワイヤーを取り付けます。

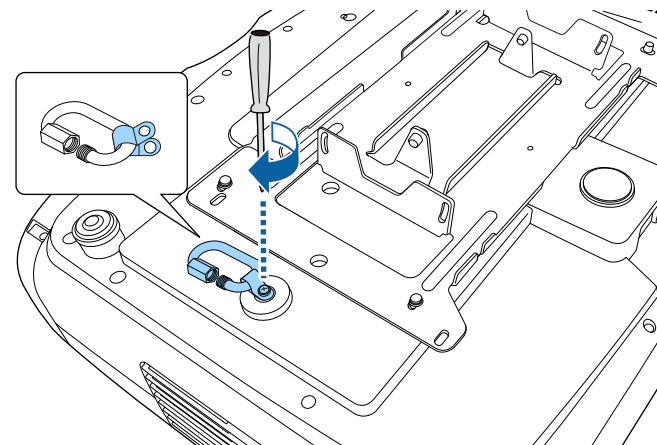
事前に天吊り金具（ELPMB30）のプロジェクター取付金具が確実に本機に取り付けられていること、また、セーフティワイヤーセットの以下の同梱品がそろっていることを確認してください。

- セーフティワイヤー×1
- カラビナ×2（ELPMB30で使用するカラビナは1つです。）
- ワイヤークランプ×1
- 取付用ネジ（M4×10mm）×1

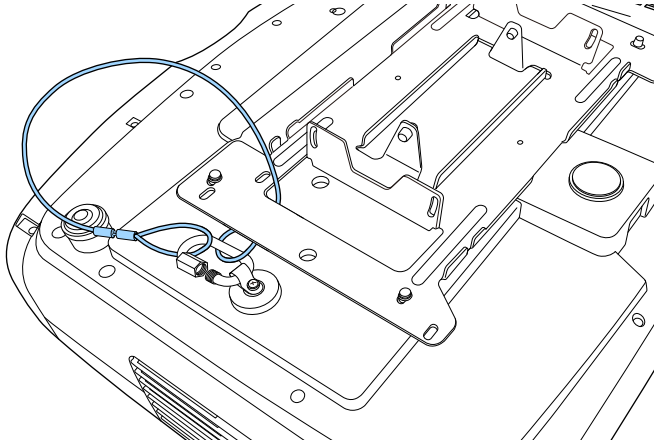


天吊り金具ELPMB30について詳しくは『ELPMB30 User's Guide』をご覧ください。

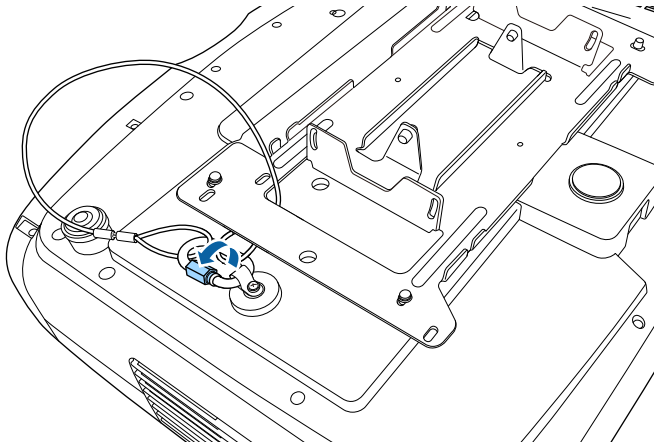
- 1** カラビナにワイヤークランプを取り付け、ワイヤークランプをプロジェクターのワイヤークランプ固定部に取付用ネジで固定します。



- 2** セーフティワイヤーを天吊り金具に通して、両端をカラビナに取り付けます。



- 3** カラビナを締めます。



▶▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

プロジェクターと映像機器の接続方法を説明します。

注意

接続する前に、使用するケーブルのコネクターの形状と向きを確認してください。形状が合わないコネクターを無理に端子に押し込まないでください。お使いの機器、プロジェクターの破損や故障の原因となります。



本機に同梱されているケーブルは『かんたん操作ガイド』で確認できます。同梱されていないケーブルは、オプション品または市販品をお買い求めください。

▶ 関連項目

- 「HDMIケーブルでビデオ機器と接続する」 p.23
- 「HDMIケーブルでコンピューターと接続する」 p.24
- 「メディアストリーミング端末を接続する」 p.24
- 「外部機器を接続する」 p.25
- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.8

HDMIケーブルでビデオ機器と接続する

HDMI端子を搭載したビデオ機器を使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとビデオ機器を接続できます。

注意

あらかじめビデオ機器の電源を切ってください。ビデオ機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。

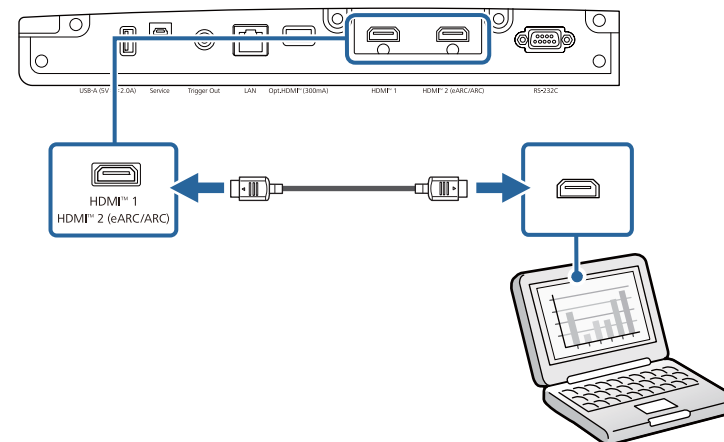
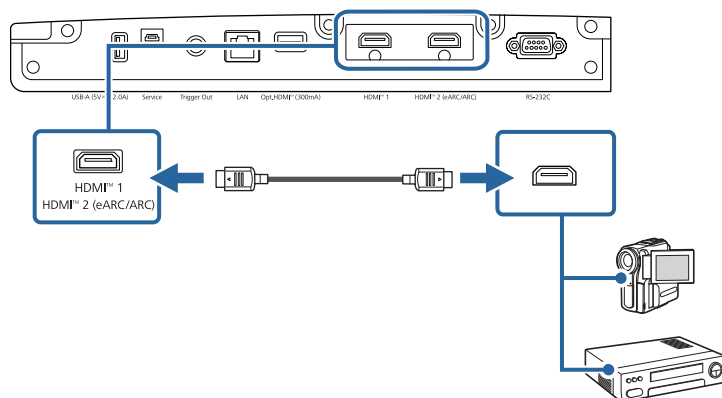


- 接続する機器の端子が特有の形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- 使用するケーブルは、接続するビデオ機器の出力信号によって異なります。
- ビデオ機器によっては、数種類の信号を出力できます。出力できる信号の種類は、お使いのビデオ機器に同梱の取扱説明書で確認してください。
- 4K 120Hzなどの40 Gbps伝送帯域の信号を投写するときは、ウルトラハイスピードのHDMIケーブルをお使いください。適合していないケーブルを使用すると、正しく表示できないことがあります。映像が正しく表示されないときは、[信号入出力]メニューの[EDIDモード]の設定を変更してください。
 - ☛ [信号入出力] > [EDID] > [EDID (HDMI1)] > [EDIDモード]
 - ☛ [信号入出力] > [EDID] > [EDID (HDMI2)] > [EDIDモード]

1 ビデオ機器のHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。

2 ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子のどちらかに接続します。

USB給電ケーブル付きの光HDMIケーブルをお使いのときは、給電ケーブルをOpt.HDMI (300mA)端子に接続してください。



HDMIケーブルでコンピューターと接続する

HDMI端子を搭載したコンピューターを使用しているときは、HDMIケーブルでプロジェクターとコンピューターを接続できます。

- 1** コンピューターのHDMI出力端子にHDMIケーブルを接続します。
- 2** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のHDMI端子のどちらかに接続します。
USB給電ケーブル付きの光HDMIケーブルをお使いのときは、給電ケーブルをOpt.HDMI (300mA)端子に接続してください。

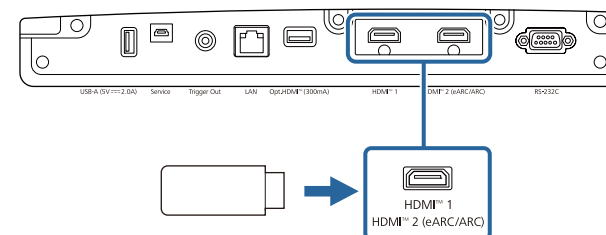
メディアストリーミング端末を接続する

メディアストリーミング端末を本機のHDMI端子に接続します。USB給電ケーブルを接続すると、プロジェクターからメディアストリーミング端末に電力を供給できます。

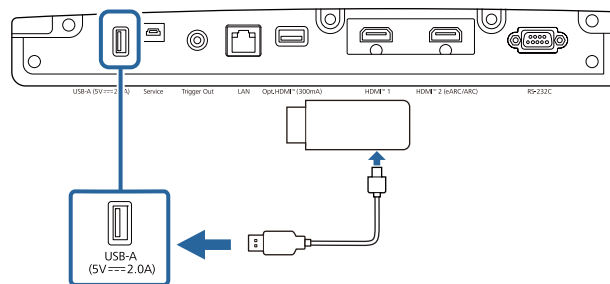


メディアストリーミング端末の接続方法や動作条件はお使いの機器によって異なります。詳しくは機器の取扱説明書をご覧ください。取扱説明書に従わないと、正常に動作しないことがあります。

- 1** メディアストリーミング端末をHDMI端子に接続します。



- 2 USB給電ケーブルを本機のUSB-A端子に接続します。
- 3 給電ケーブルのもう一方のコネクタをメディアストリーミング端末に接続します。



外部機器を接続する

プロジェクターに外部出力機器を接続します。

▶▶ 関連項目

- 「eARC/ARC対応AVアンプやスピーカーを接続する」 p.25
- 「Trigger Out端子への接続」 p.26

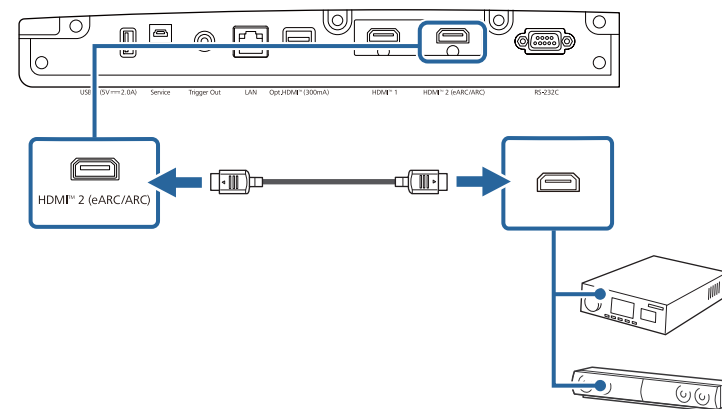
eARC/ARC対応AVアンプやスピーカーを接続する

HDMI端子を搭載したAVアンプやサウンドバーなどの外部スピーカーを使用しているときは、イーサネット対応のHDMIケーブルを使って、これらの機器に音声を出力できます。



- 本機にAVアンプを接続しているときは、[HDMIリンク]を[オン]に設定します。
☞ [信号入出力] > [HDMIリンク] > [HDMIリンク]
- eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

- 1 AVアンプやスピーカーのHDMI出力端子 (eARC/ARC対応) にHDMIケーブルを接続します。
- 2 ケーブルのもう一方のコネクタを本機のHDMI2 (eARC/ARC)端子に接続します。



- 3 必要に応じてAVアンプやスピーカーの設定をしてください。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

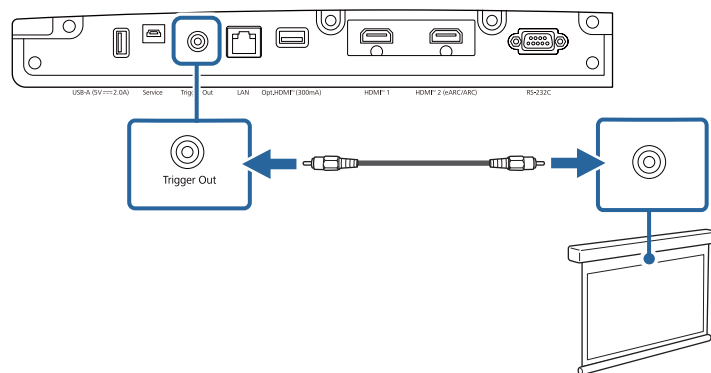
▶▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 p.8

Trigger Out端子への接続

トリガー信号に対応した電動スクリーンなどの外部機器に接続することができます。外部機器に本機の電源の状態（オン/オフ）などを伝えるため、電源が入っている間、この端子から12Vの信号（最大200mA）が出力されます。

- 1** ステレオミニプラグオーディオケーブルを外部機器のTrigger端子に接続します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 2** ケーブルのもう一方のコネクターを本機のTrigger Out端子に接続します。



- 3** [動作] メニューの [トリガーアウト] を設定します。

ネットワーク経由でプロジェクターを監視、制御することができます。ネットワーク機能を使用するには、プロジェクターをネットワークに接続し、プロジェクターおよびコンピューターのネットワーク設定をします。



[Web制御パスワード] が設定されていないときは、ネットワークの設定を保存する際にパスワードの設定を求められます。画面の指示に従ってパスワードを設定してください。

▶ 関連項目

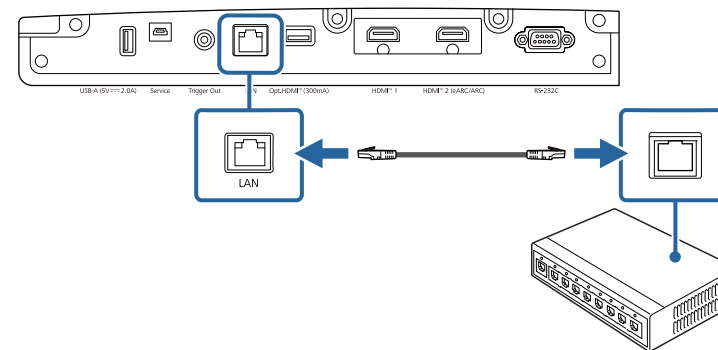
- 「有線LANに接続する」 [p.27](#)
- 「有線LANを設定する」 [p.27](#)

有線LANに接続する

プロジェクターを有線LANに接続するには、100Base-TXまたは10Base-Tネットワークケーブルを使用します。誤作動防止のために、カテゴリ5以上のシールド付きケーブルをお使いください。

- 1** LANケーブルをネットワークハブ、スイッチ、またはルーターに接続します。

- 2** ケーブルのもう一方のコネクターをプロジェクターのLAN端子に接続します。



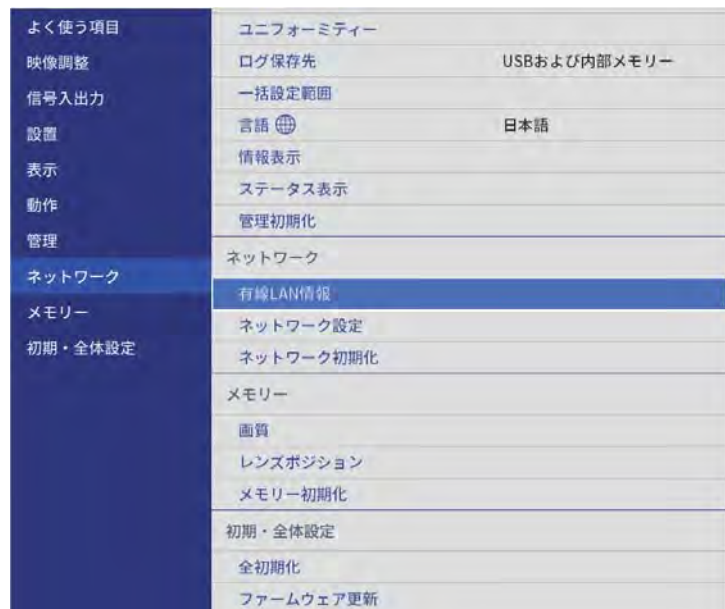
有線LANを設定する

ネットワークでコンピューターを使用するには、事前にプロジェクターのネットワーク設定が必要です。

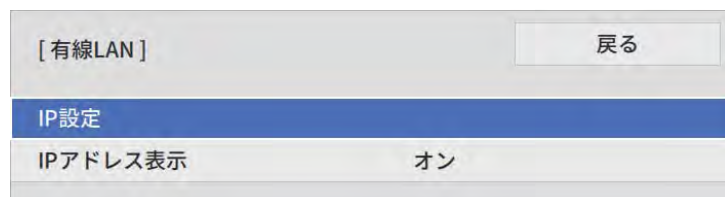


設定の前に、LAN端子にLANケーブルを接続し、プロジェクターを有線LANに接続してください。

- 1** 【Menu】 ボタンを押し、[ネットワーク] を選択して【Enter】 ボタンを押します。



- 2** [ネットワーク設定] を選択して【Enter】 ボタンを押します。
- 3** [プロジェクター名] にネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。半角英数字16文字以内で入力します。
- 4** [有線LAN] を選択して【Enter】 ボタンを押します。



- 5** 必要に応じてプロジェクターにIPアドレスを割り当てます。
- DHCPを使用できるネットワークの場合は、[IP設定] を選択し、[DHCP] を [オン] にします。
 - DHCPを使用できないネットワークの場合は、[IP設定] を選択し、[DHCP] を [オフ] にして、プロジェクターの [IPアドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイアドレス] を入力します。
- 6** 設定したIPアドレスがネットワーク情報画面に表示されないようにするには、[IPアドレス表示] を [オフ] に設定します。
- 7** 設定が終わったら、[ネットワーク設定] の画面に戻り、[設定] を選択します。画面の指示に従って設定を保存し、メニューを終了します。



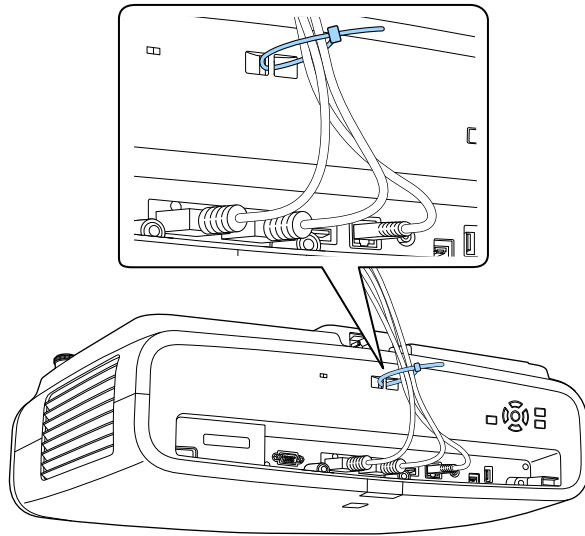
[Web制御パスワード] が設定されていないときは、ネットワークの設定を保存する際にパスワードの設定を求められます。画面の指示に従ってパスワードを設定してください。

▶▶ 関連項目

- 「ネットワーク設定メニュー」 [p.99](#)

同梱のケーブルカバーを装着して、ケーブル類を目立たなくすることができます（EH-LS12000B）。

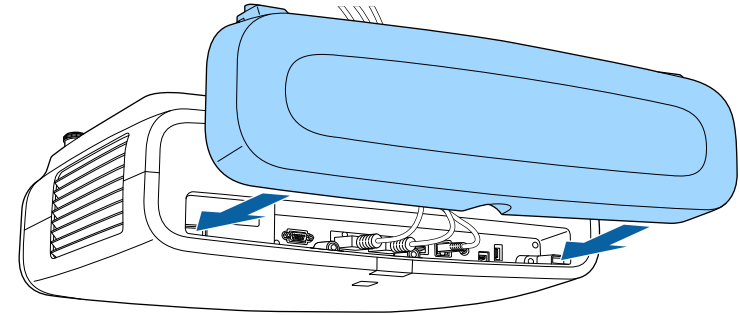
- 1 底面を上にしてします。
- 2 市販の結束バンドなどをケーブルホルダーに通し、ケーブル類を束ねます。



⚠ 注意

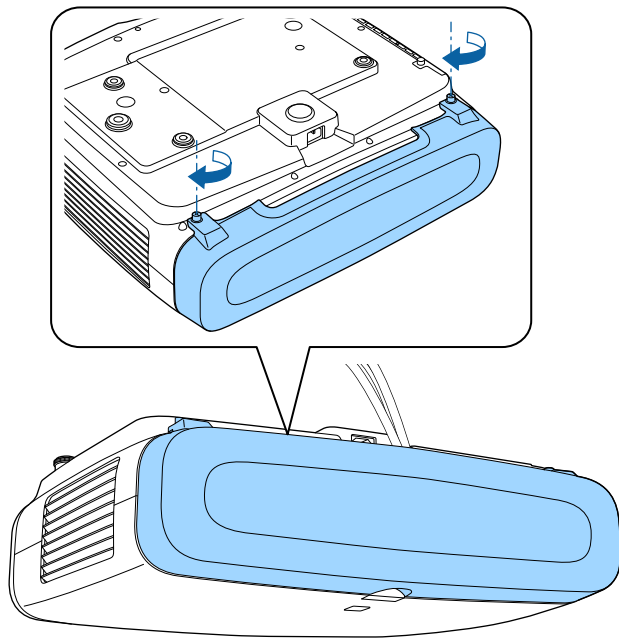
電源コードとその他の接続ケーブルを束ねないでください。火災の原因となることがあります。

- 3 ケーブルカバーの切り込みにケーブルを通して、ケーブルカバーをプロジェクターに取り付けます。



ケーブルカバーのネジが本機のネジ穴に合うよう、本機より少し上から移動させてケーブルカバーを取り付けます。

- 4** ケーブルカバーのネジを締めます。



ケーブルカバーを外すときは、ネジをゆるめます。

本機に付属の単3形電池2個をリモコンに取り付けます。

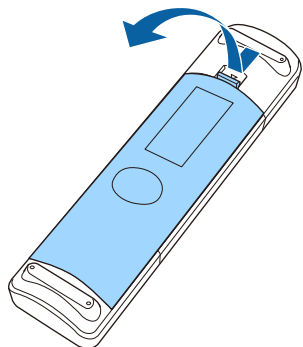
注意

電池を取り扱う前に、『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。



電池がなくなったら電池を交換してください。リモコンには、単3マンガン電池またはアルカリ電池2個を使用します。

1 電池カバーを外します。

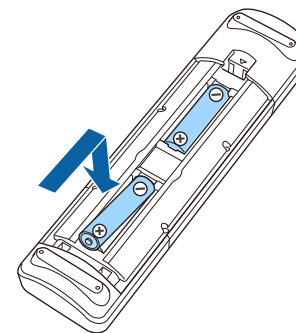


2 古い電池が入っていれば取り外します。



使用済みの電池は、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

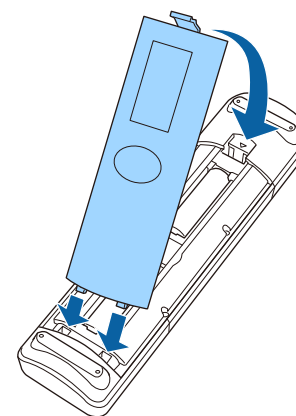
3 電池の + と - の向きを確認してリモコンにセットします。



警告

電池ホルダー内の表示を確認して、(+) (-) を正しく入れてください。電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

4 電池カバーを閉め、カチッと音がするまで押し込みます。



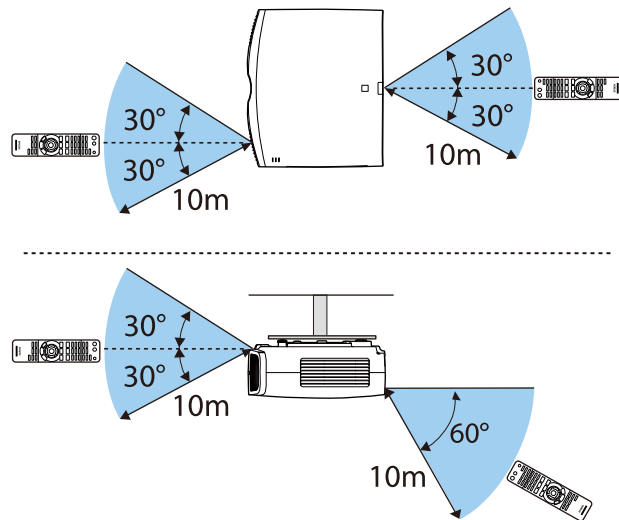
▶▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 p.32

リモコンを操作する

リモコンを使用して、室内の離れた場所からプロジェクターを操作できます。

リモコンは、本機のリモコン受光部に対して下図の角度で使用してください。



- 蛍光灯の強い光や直射日光が当たる環境ではリモコンを使用しないでください。プロジェクターが反応しないことがあります。リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外しておきます。

プロジェクターの基本機能を使用する

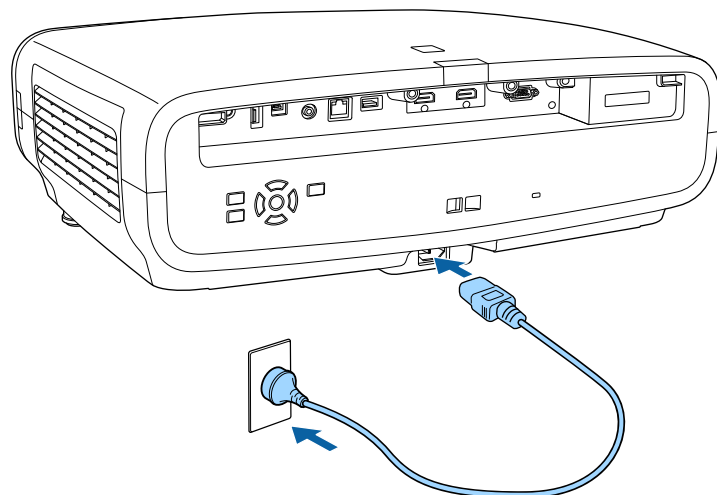
プロジェクターの基本機能を説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.34](#)
- 「プロジェクターの電源を切る」 [p.36](#)
- 「テストパターンを表示する」 [p.37](#)
- 「設置モードを選択する」 [p.38](#)
- 「映像の位置を調整する（レンズシフト）」 [p.40](#)
- 「プロジェクターの傾きを調整する」 [p.42](#)
- 「映像の形状を補正する」 [p.43](#)
- 「映像の大きさを調整する」 [p.48](#)
- 「映像のピントを調整する」 [p.49](#)
- 「投写映像を切り替える」 [p.50](#)
- 「映像のアスペクト比を設定する」 [p.51](#)
- 「カラーモードを設定する」 [p.53](#)
- 「映像の画質を調整する」 [p.55](#)
- 「映像の色合いを調整する」 [p.60](#)

プロジェクターの電源を入れた後、使用するコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。

1 本機とコンセントを電源コードで接続します。



⚠ 警告

必ず接地接続を行ってください。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

本機はスタンバイ状態になります。スタンバイ状態は、プロジェクターに電力が供給されていて、電源が入っていない状態です。

2 プロジェクターの電源ボタン、またはリモコンの【On】ボタンを押して本機の電源を入れます。

レンズシャッターが開き、ステータスインジケータが青色に点滅します（ウォームアップ状態）。ウォームアップが終わると、ステータスインジケータが青色に点灯します。



- 最初に本機の電源を入れたときには、初期設定ウィザードが表示されます。上下左右ボタンと【Enter】ボタンを使って、ピント、設置モード、言語を設定してください。
- 初期設定では、プロジェクターのメニュー画面は黒で表示されます。本書では断りがない限り白い画面を用いて説明しています。メニューのカラーテーマは「表示」メニューの「メニューカラー」で変更できます。

映像が投写されないときは、以下を試してください。

- 接続されているコンピューターまたはビデオ機器の電源を入れます。
- ノートパソコンを使用するときは、コンピューターの画面出力を切り替えます。
- DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- プロジェクターの【Source】ボタンを押します。
- 投写したい入力ソースに対応するリモコンのボタンを押します。

⚠ 警告

- 投写中は本機のレンズをのぞきこまないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様の行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 投写中に本などで投写光を遮らないでください。投写光を遮ると、光の当たった部分が高温になって溶けたり、やけどや火災の原因になります。また、反射した光でレンズ部が高温になり、本機が故障する原因となります。投写を中断するときは、本機の電源を切ってください。



〔動作〕メニューの〔ダイレクトパワーオン〕が〔オン〕に設定されているときは、本機に電源コードを接続したときに自動で電源が入ります。停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると、本機の電源がオンになりますのでご注意ください。

▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.96](#)

使用後にプロジェクターの電源を切ります。




- 本機を長くお使いいただくために、使用しないときは本機の電源を切ってください。光源の寿命は、メニューの設定、環境条件、および使用状況によって異なります。投写映像の明るさは、使用時間の経過にもなって低下します。

- 1** プロジェクターの電源ボタン、またはリモコンの【Standby】ボタンを押します。

シャットダウン確認画面が表示されます。

電源を切りますか？

はい :  ボタンを押す

いいえ: 他のボタンを押す

- 2** 再度プロジェクターの電源ボタン、またはリモコンの【Standby】ボタンを押します。(電源を切らないときは、他のボタンを押しません。)

光源がオフになり、レンズシャッターが閉じて、ステータスインジケータが消灯します。

- 3** 本機を搬送または保管するときは、すべてのインジケータが消灯していることを確認してから電源コードを抜いてください。

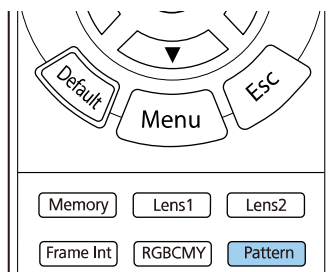
テストパターンを表示させて、投写映像を調整できます。



テストパターン表示中には調整できない項目があります。これらの項目は、映像機器から実際に映像を投写して調整してください。

1 本機の電源を入れます。

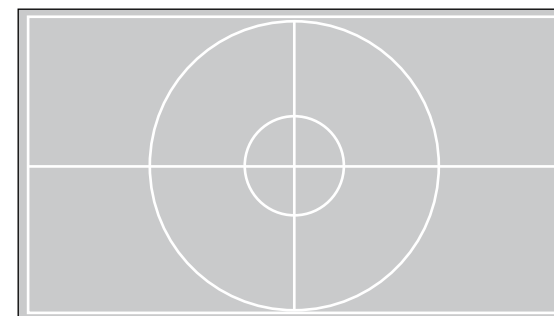
2 リモコンの【Pattern】ボタンを押します。



テストパターンは [設置] メニューからも表示できます。

3 次のいずれかを選択します。

- [表示位置調整]：映像機器を接続せずにテストパターンを表示します。



- [カラーアイソレーション:R]：入力映像のうち、R（赤）成分のみを表示します。
- [カラーアイソレーション:G]：入力映像のうち、G（緑）成分のみを表示します。
- [カラーアイソレーション:B]：入力映像のうち、B（青）成分のみを表示します。



カラーアイソレーションを表示するときは、ビデオ機器を接続して映像を投写してください。

4 映像を調整します。

5 テストパターン表示を終了するには、再度【Pattern】ボタンを押します。

プロジェクターの設置方法によって、設置モードを変更します。

- [フロント] (初期設定) : 机上に設置して、スクリーンの正面から投写します。
- [フロント・天吊り] : 天吊り設置して、映像を上下反転して投写します。
- [リア] : リアスクリーンの裏側から映像を左右反転して投写します。
- [リア・天吊り] : 天吊り設置して、リアスクリーンの裏側から映像を上下左右反転して投写します。

▶ 関連項目

- 「メニューから設置モードを変更する」 p.38
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 p.18

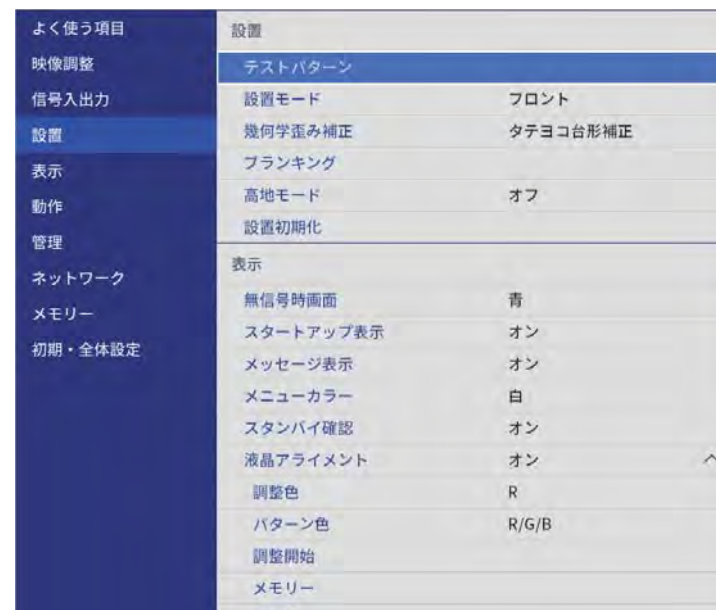
メニューから設置モードを変更する

メニューから設置モードを変更して、映像を上下左右反転します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

- 2 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。

- 3 [設置] を選択して【Enter】ボタンを押します。



- 4 [設置モード] を選択して【Enter】ボタンを押します。

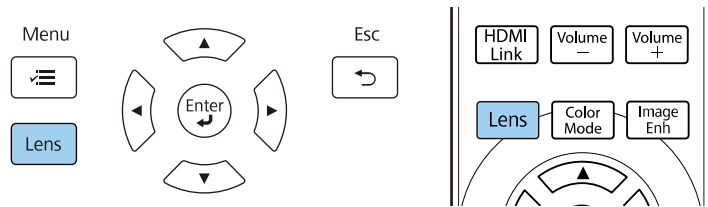
- 5 お使いの環境に合わせた設置モードを選択して【Enter】ボタンを押します。



- 6** 【Menu】 ボタンまたは【Esc】 ボタンを押してメニューを終了します。

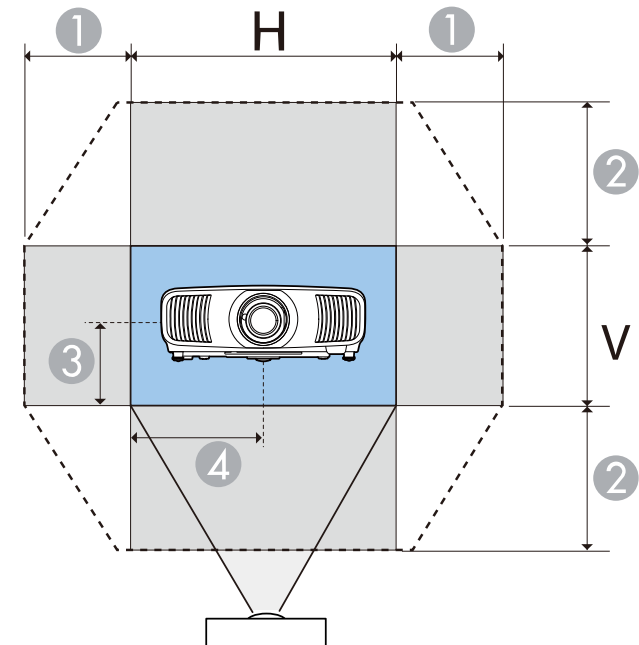
本機を投写面に対して平行に設置できないときや、映像の位置を調整したいときは、レンズシフト機能を使って映像の位置を上下左右に移動します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを押します。



- 3 画面に「レンズシフト調整」と表示されるまで【Lens】ボタンを押します。

- 4 操作パネルまたはリモコンの上下左右ボタンを押して、映像の位置を調整します。



- 1 最大可動領域（ヨコ）： $H \times 47\%$
- 2 最大可動領域（タテ）： $V \times 96\%$
- 3 投写映像の1/2（タテ）
- 4 投写映像の1/2（ヨコ）



映像を上下、左右の両方とも最大値まで移動することはできません。

- 5 終了したら、操作パネルまたはリモコンの【Esc】ボタンを押します。

注意

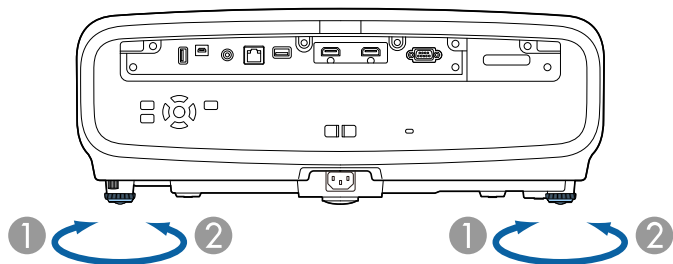
- 本機を輸送するときは、レンズ位置を中心に戻してください。レンズが中心位置にない状態で輸送すると、レンズシフトの機構が破損するおそれがあります。
- レンズ可動部に指を挟まないようにしてください。けがの原因になることがあります。



- 画面の位置を上下方向に調整するときは、画面を下から上に移動して調整し、終了してください。上から下に移動して終了すると、映像の位置が下にずれる場合があります。
- レンズが中心位置にあるときに、映像が最も鮮明になります。
- レンズ位置を中心に戻すには、操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを3秒以上長押しします。

机上に設置したときに、投写映像が水平方向に傾いている（左右で高さが違う）ときは、フロントフットで本機が水平になるように調整します。

- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 映像が傾いているときは、フロントフットを回して左右の高さを調整します。



- 1 フットを伸ばす
- 2 フットを縮める

約3度まで角度を調整できます。

投写映像がゆがむときは、映像の形状を補正します。

▶ 関連項目

- 「映像の形状を補正する」 [p.43](#)

スクリーンの正面にプロジェクターを設置して、水平にすることで、傾きやゆがみのない映像を投写できます。スクリーンに対して斜めにプロジェクターを設置したり、上下に傾けて設置したりしたときは、映像の形状を補正します。

補正後は、映像が少し小さくなります。

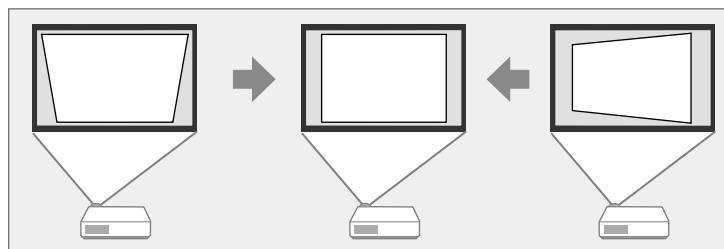
投写映像の画質を維持するためには、プロジェクターの設置位置を調整して映像サイズや形状を調整することをお勧めします。

▶ 関連項目

- 「タテヨコ台形補正で映像のゆがみを補正する」 p.43
- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.44
- 「ポイント補正で映像のゆがみを補正する」 p.46

タテヨコ台形補正で映像のゆがみを補正する

〔タテヨコ台形補正〕メニューを使用して、映像のゆがみを補正します。



映像を補正できる条件は、投写角度が上下左右約30°以内のときです。

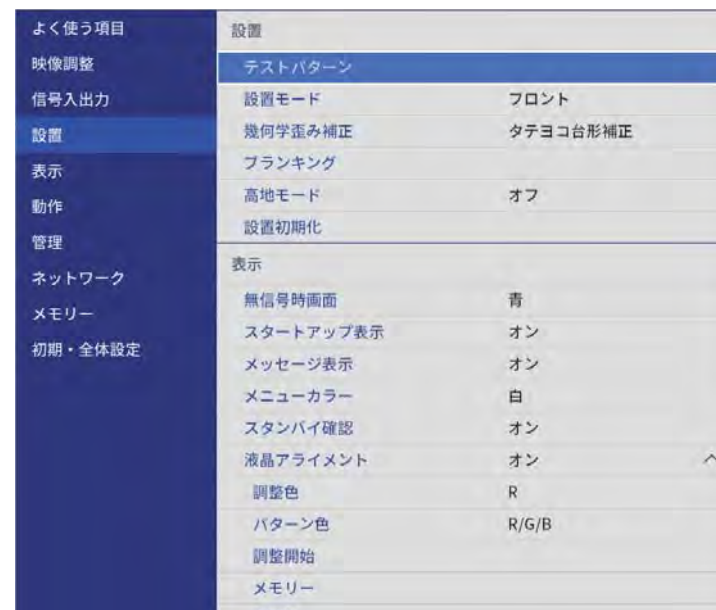


- 他の補正方法と組み合わせて使うことはできません (EH-LS12000B)。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。

3 〔設置〕を選択して【Enter】ボタンを押します。

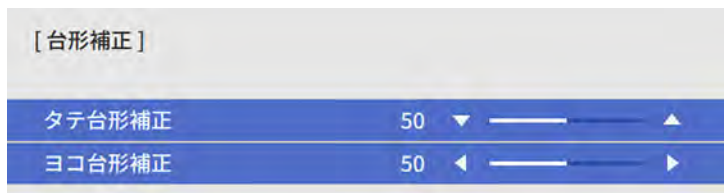


4 〔幾何学歪み補正〕を選択して【Enter】ボタンを押します (EH-LS12000B)。

〔幾何学歪み補正〕画面が表示されます。

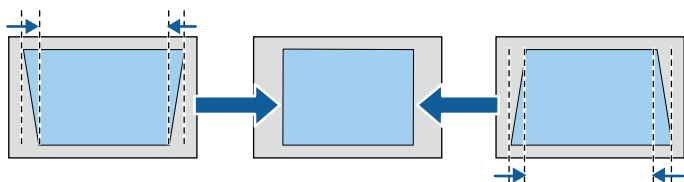
5 〔タテヨコ台形補正〕を選択して【Enter】ボタンを押します。必要に応じて〔はい〕を選択して【Enter】ボタンを押します。

〔タテヨコ台形補正〕調整画面が表示されます。

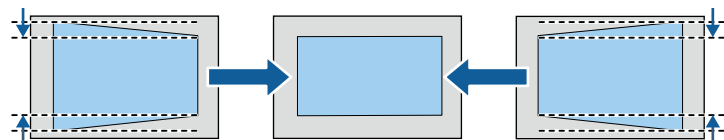


6 操作パネルまたはリモコンの上下左右ボタンで補正方法を選択し、映像の形状を補正します。

- [タテ台形補正]



- [ヨコ台形補正]



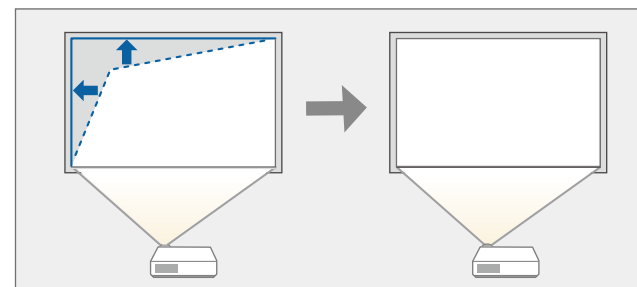
7 終了したら【Esc】ボタンを押します。
補正後は、映像が少し小さくなります。



コントロールパネルの矢印ボタンを押して、直前に使用した [幾何学歪み補正] の調整画面 (EH-LS12000B)、または [タテヨコ台形補正] の調整画面 (EH-LS11000W) を表示することもできます。

Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する

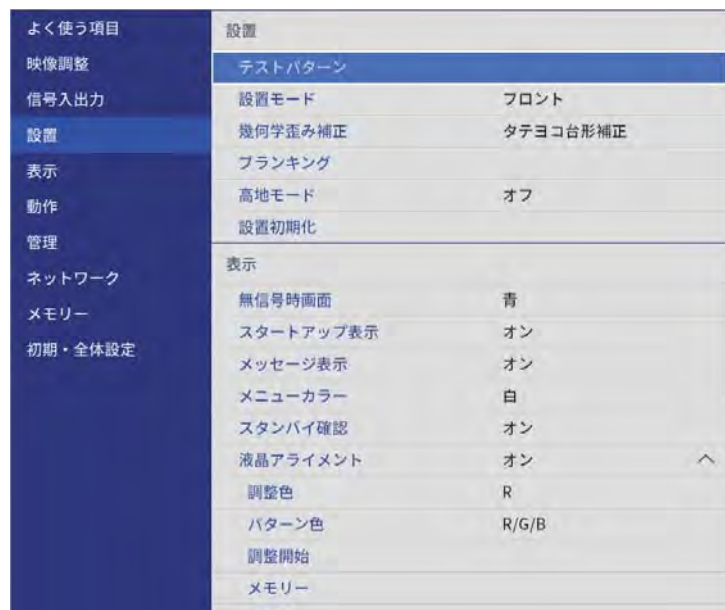
[Quick Corner] 機能を使用して、映像のゆがみと大きさを補正します (EH-LS12000B)。



1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。

3 【設置】を選択して【Enter】ボタンを押します。

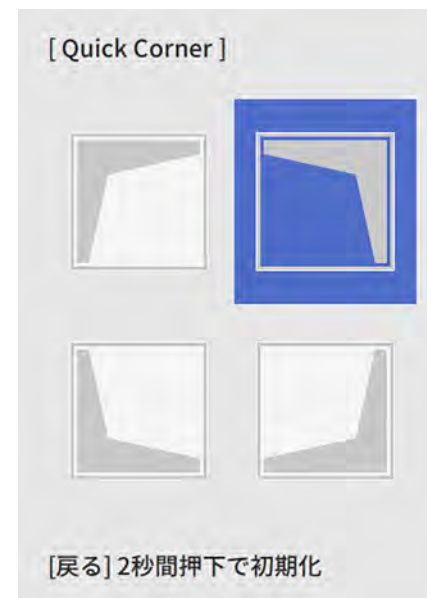


4 【幾何学歪み補正】を選択して【Enter】ボタンを押します。
【幾何学歪み補正】画面が表示されます。



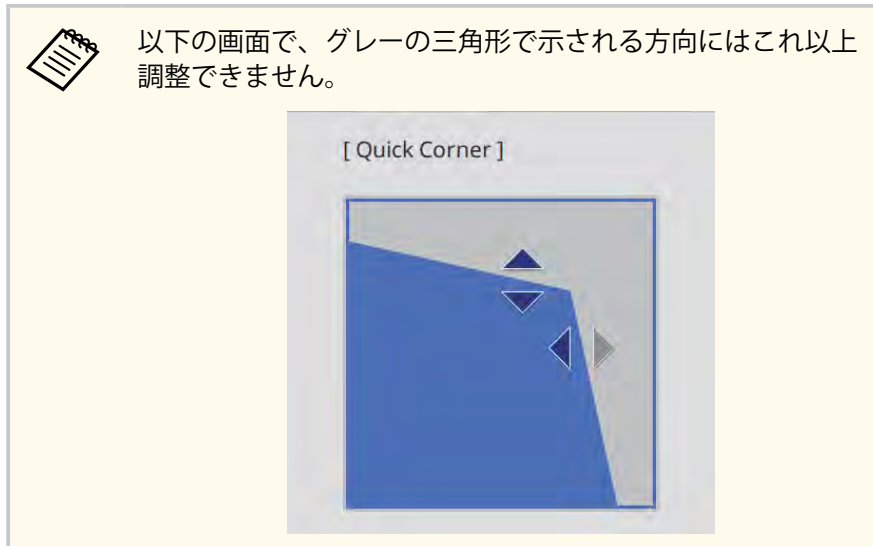
5 【Quick Corner】を選択して【Enter】ボタンを押します。必要に応じて【はい】を選択して【Enter】ボタンを押します。
エリア選択画面が表示されます。

6 上下左右ボタンを押して調整するコーナーを選択し、【Enter】ボタンを押します。



【Quick Corner】で補正した結果を初期化するには、エリア選択画面が表示されているときに【Esc】ボタンを約2秒間押し、【はい】を選択します。

7 上下左右ボタンを押して、映像の形状を調整します。
【Enter】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。



- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。
- 3** 【設置】を選択して【Enter】ボタンを押します。

よく使う項目	設置		
映像調整	テストパターン		
信号入出力	設置モード	フロント	
設置	幾何学歪み補正	タテヨコ台形補正	
表示	ブランキング		
動作	高地モード	オフ	
管理	設置初期化		
ネットワーク	表示		
メモリー	無信号時画面	青	
初期・全体設定	スタートアップ表示	オン	
	メッセージ表示	オン	
	メニューカラー	白	
	スタンバイ確認	オン	
	液晶アライメント	オン	へ
	調整色	R	
	パターン色	R/G/B	
	調整開始		
	メモリー		

- 4** 【幾何学歪み補正】を選択して【Enter】ボタンを押します。
【幾何学歪み補正】画面が表示されます。

8 手順6と7を繰り返して、調整が必要なすべてのコーナーを調整します。

9 終了したら【Esc】ボタンを押します。

Quick Corner実行後は、[設置]メニューの[幾何学歪み補正]が[Quick Corner]に設定されます。

次回、操作パネルの矢印ボタンを押したときは、エリア選択画面が表示されます。

ポイント補正で映像のゆがみを補正する

[ポイント補正]機能を使って、部分的に発生するわずかなゆがみを補正します。投写画像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します (EH-LS12000B)。



5 [ポイント補正] を選択して【Enter】ボタンを押します。必要に応じて [はい] を選択して【Enter】ボタンを押します。

6 [ポイント補正] を選択して【Enter】ボタンを押します。



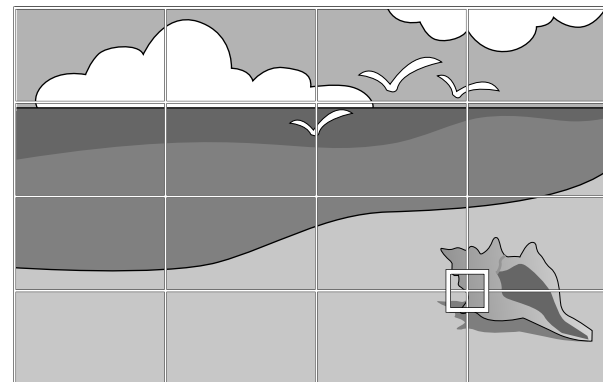
[Quick Corner] で映像のゆがみと大きさをだまかに補正し、[ポイント補正] で細かく調整します。

7 ポイントの数を選擇して【Enter】ボタンを押します。投写画面に格子が表示されます。

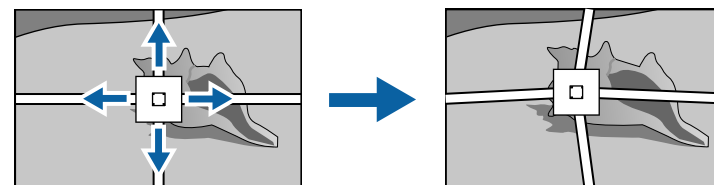


格子が見えにくいときは、【Esc】ボタンを押して、[ポイント補正] メニューの [パターン色] で色を変更します。

8 上下左右ボタンを押して補正するポイントを選択し、【Enter】ボタンを押します。



9 上下左右ボタンで映像のゆがみを補正します。



10 続けて他のポイントを補正する場合は、【Esc】ボタンを押して前の画面に戻り、手順8、9を行います。

11 終了したら【Esc】ボタンを押します。

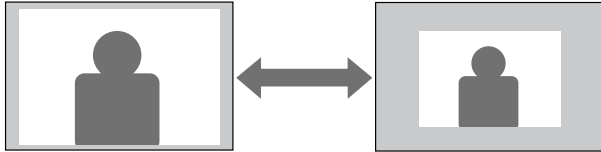


[ポイント補正] で補正した結果を初期化するには、[ポイント補正] で [初期化] を選択します。

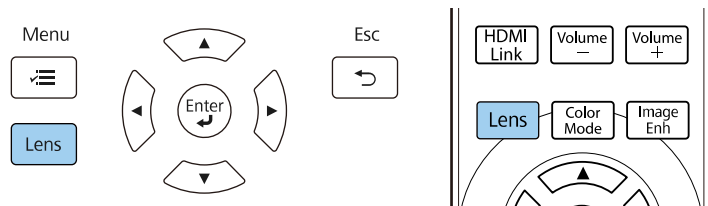
▶ 関連項目

- 「Quick Corner機能で映像のゆがみを補正する」 p.44

ズーム機能で映像の大きさを調整できます。

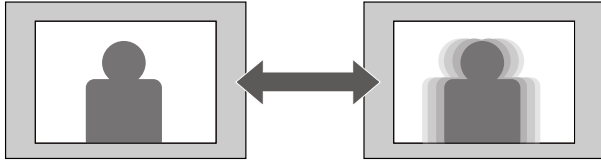


- 1 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2 操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを押します。

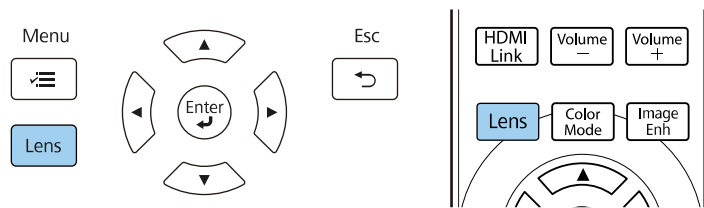


- 3 画面に [ズーム調整] と表示されるまで【Lens】ボタンを押します。
- 4 操作パネルまたはリモコンの左右ボタンを長押ししてサイズを調整します。
- 5 終了したら【Esc】ボタンを押します。

フォーカス機能でピントのズレを調整します。



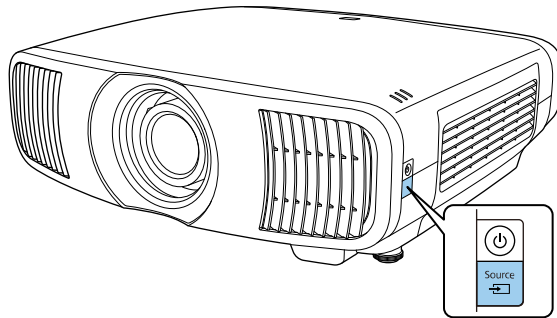
- 1** 本機の電源を入れて、映像を表示します。
- 2** 操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを押します。



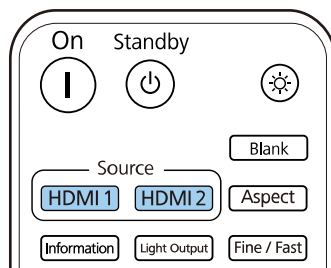
- 3** 画面に「フォーカス調整」と表示されるまで【Lens】ボタンを押します。
- 4** 操作パネルまたはリモコンの左右ボタンを長押ししてピントを調整します。
- 5** 終了したら【Esc】ボタンを押します。

コンピューターとDVDプレーヤーなど複数の機器をプロジェクターに接続しているときは、投写する映像を切り替えます。

- 1** 接続機器の電源が入っていることを確認します。
- 2** ビデオ機器の映像を表示するときは、DVDなどのメディアを挿入して再生します。
- 3** 次のいずれかの操作を行います。
 - 目的の機器からの映像が表示されるまで、プロジェクターの【Source】ボタンを押します。



- リモコンで、投写したい入力ソースのボタンを押します。



本機はさまざまな縦横比（アスペクト比）で映像を表示できます。通常は、接続機器からの入力信号によって映像のアスペクト比が決まります。映像をスクリーンに合わせるために、手動でアスペクト比を切り替えることもできます。

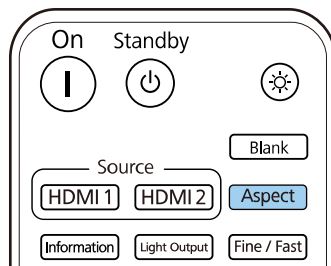
▶ 関連項目

- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.51
- 「アスペクトモードの種類」 p.51

映像のアスペクト比を切り替える

投写する映像のアスペクト比を切り替えます。

- 1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2 リモコンの【Aspect】ボタンを押します。



アスペクト比の一覧が表示されます。



- 3 お好みのアスペクト比を選択して、【Enter】ボタンを押します。
- 4 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。



選択できるアスペクト比は、接続機器からの入力信号によって異なります。

アスペクトモードの種類

接続機器からの入力信号に応じて、以下のアスペクト比を選択できます。



- 著作権法で保護されている映像をアスペクト機能で圧縮、引き伸ばし、分割などを行い、営利目的で公衆に視聴させた場合は、著作権者の権利を侵害するおそれがあります。

アスペクトモード	説明
オート	入力信号によってアスペクト比が自動的に設定されます。

アスペクトモード	説明
フル	入力信号のアスペクト比を維持せずに、投写エリア全体に映像を表示します。
ズーム	入力信号のアスペクト比を維持して、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。
アナモフィック*	市販のアナモフィックレンズを使用して、2.40:1のアスペクト比で映像を表示します。[信号入出力]メニューの [オーバースキャン] を [オフ] に設定してください。
Hスクイーズ*	市販のアナモフィックレンズを使用して、投写エリアの横幅に合わせて映像を表示します。

* EH-LS12000Bのみ

本機は、投写環境や映像の種類に応じて、明るさ、コントラスト、色を最適化するためのカラーモードを用意しています。環境や映像の種類に合ったカラーモードを選択できます。

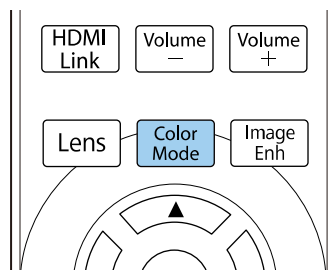
▶ 関連項目

- 「カラーモードを変更する」 p.53
- 「カラーモードの種類」 p.53

カラーモードを変更する

リモコンでカラーモードを変更して、映像を最適化します。

- 1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2 リモコンの【Color Mode】ボタンを押してカラーモードを切り替えます。



カラーモードの一覧が表示されます。



- 3 矢印ボタンでカラーモードを選択して【Enter】ボタンを押します。

- 4 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。



カラーモードは [映像調整] メニューの [カラーモード] でも設定できます。

カラーモードの種類

投写している映像の種類に応じて、以下のカラーモードを設定できます。

カラーモード	説明
ダイナミック	最も明るいモードです。明るさを優先したい場合に適しています。
ビビッド	色鮮やかにさまざまなコンテンツを楽しむ場合に適しています。
ブライトシネマ	明るい部屋で映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。

カラーモード	説明
シネマ	映画などのコンテンツを楽しむのに適しています。
ナチュラル	映像の色調整を行いたい場合に適しています。

投写映像の画質を細かく調整できます。

▶ 関連項目

- 「シャープネスを調整する」 p.55
- 「フレーム補間を設定する」 p.56
- 「光源の明るさを設定する」 p.57
- 「映像の光量を調整する」 p.57
- 「映像の解像感を調整する（イメージ強調）」 p.58

シャープネスを調整する

[シャープネス] で映像の輪郭の見え方を調整します。

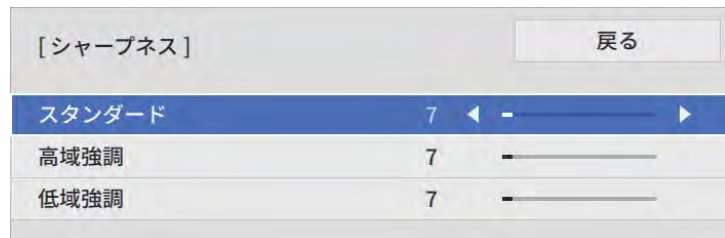
- 1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。

- 3 [映像調整] を選択して【Enter】ボタンを押します。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100%
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

- 4 [シャープネス] を選択して、以下のいずれかを選択します。
 - [スタンダード]：投写映像全体の輪郭を強調します。[高域強調] と [低域強調] も連動して調整されます（初期値の5に戻ります）。
 - [高域強調]：髪の毛や衣服の模様などの細かい部分を強調します。
 - [低域強調]：映像全体の輪郭や背景などを強調します。

- 5** 左右ボタンを押して、映像の輪郭を調整します。

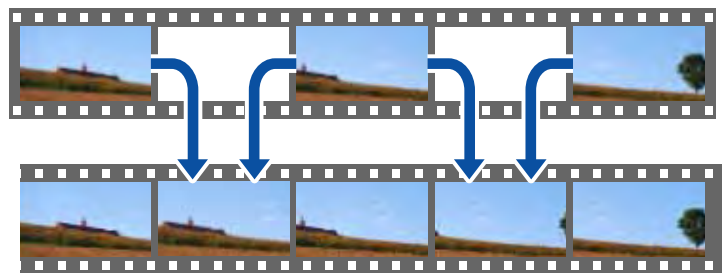


値を高くすると輪郭が強調され、値を低くするとソフトになります。

- 6** 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

フレーム補間を設定する

[フレーム補間] 機能を使って、前後のフレームから中間のフレームを自動生成して補間することで、動きの速い動画をなめらかに再生できます。

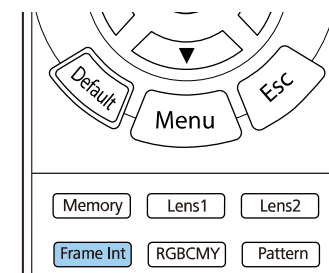


フレーム補間は以下の場合に有効です。

- [映像処理] が [きれい] のとき
- [信号入出力] > [映像処理]

- 入力信号が4K 100/120Hzでないとき。

- 1** 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2** リモコンの【Frame Int】ボタンを押します。



- 3** 補間レベルを選択して【Enter】ボタンを押します。



- 4** 終了したら、【Frame Int】ボタンを押します。

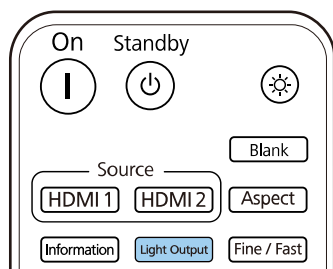


- 調整後の映像にノイズが入るときは、[フレーム補間] をオフに戻します。
- [フレーム補間] は [映像調整] メニューでも設定できます。

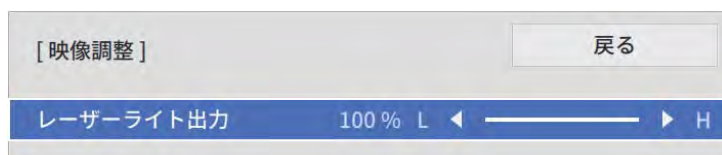
光源の明るさを設定する

光源の明るさを設定します。

- 1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2 リモコンの【Light Output】ボタンを押します。



- 3 左右ボタンで明るさを設定します。



- 4 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。



「レーザーライト出力」は「映像調整」メニューでも設定できます。

映像の光量を調整する

ダイナミックコントラストをオンにすると、映像の明るさに合わせてプロジェクターの光量を自動的に調整することで、コントラストを改善します。

- 1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。
- 3 「映像調整」を選択して【Enter】ボタンを押します。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100%
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

4 [ダイナミックコントラスト] を選択して【Enter】ボタンを押します。

5 以下のいずれかを選択して【Enter】ボタンを押します。

- [標準]：標準の光量調整を行います。
- [高速]：シーンが切り替わったとき、すぐに光量を調整します。



6 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

映像の解像感を調整する（イメージ強調）

映像の解像感を調整することで、質感や素材感のあるくっきりとした映像を表現できます。

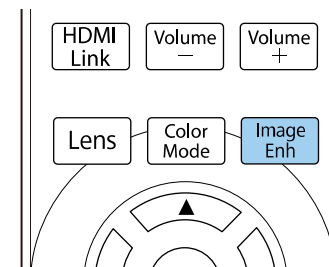


[ノイズリダクション]、[MPEGノイズリダクション] は以下の場合に設定できます。

- [映像処理] が [きれい] のとき
- [信号入出力] > [映像処理]

1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。

2 リモコンの【Image Enh】ボタンを押します。



3 [イメージ強調プリセット] を選択して【Enter】ボタンを押します。



4 プリセットを選択して【Enter】ボタンを押します。



プリセットに登録されている以下の項目の設定値が映像に反映されます。

- [ノイズリダクション]
- [MPEGノイズリダクション]
- [超解像]
- [自動コントラスト強調]

5 必要に応じて、[映像調整]メニューでそれぞれの設定値を個別に調整します。

- [ノイズリダクション]：映像のざらつきを抑えます。
- [MPEGノイズリダクション]：MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。
- [超解像]：解像度の低い映像を投写するときに、解像度を高めて映像のボケを軽減します。
- [自動コントラスト強調]：映像のコントラストを部分的に自動調整して、鮮やかでメリハリのある映像にします。



調整後、プリセットの設定値は上書きされます。

6 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。



[イメージ強調]は[映像調整]メニューでも設定できます。

投写映像の色合いを細かく調整できます。

▶ 関連項目

- 「色温度を調整する」 p.60
- 「RGBを調整する（オフセット・ゲイン）」 p.61
- 「ガンマを調整する」 p.62
- 「色相、彩度、明度を調整する」 p.63

色温度を調整する

映像全体の色合いを調整します。映像の青みが強すぎる、赤みが強すぎるなどのときに調整します。

- 1** 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2** 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。

- 3** 【映像調整】を選択して【Enter】ボタンを押します。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100%
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

- 4** 【ホワイトバランス】 > 【色温度】の順に選択して、【Enter】ボタンを押します。
- 5** 左右ボタンを押して、映像の色合いを調整します。



値を高くすると青みがかった映像になり、値を低くすると赤みがかった映像になります。



3,200K～10,000K（カラーモードが [ナチュラル] の場合）、または0～13（その他のカラーモードの場合）の範囲で設定します。

6 【Menu】 ボタンまたは【Esc】 ボタンを押してメニューを終了します。

RGBを調整する（オフセット・ゲイン）

R（赤） G（緑） B（青）の各色について、暗い部分（[オフセット]）と明るい部分（[ゲイン]）の明度を調整します。

- 1** 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。
- 2** 操作パネルまたはリモコンの【Menu】 ボタンを押します。

3 [映像調整] を選択して【Enter】 ボタンを押します。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100%
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

- 4** [ホワイトバランス] > [カスタム] の順に選択して、【Enter】 ボタンを押します。
- 5** 調整する色をR（赤）、G（緑）、B（青）から選択して、必要に応じて以下を調整します。
 - [オフセット]：映像の暗い部分の明度を調整します。
 - [ゲイン]：映像の明るい部分の明度を調整します。

[カスタム]		戻る
オフセットR	50	◀ —▶
オフセットG	50	—
オフセットB	50	—
ゲインR	50	—
ゲインG	50	—
ゲインB	50	—

値を高くすると明るくなり、値を低くすると暗くなります。

- ・ [オフセット]：明るくすると暗い部分の濃淡がはっきりします。暗くするとメリハリのある見え方になりますが、濃淡がわかりにくくなります。
- ・ [ゲイン]：明るくすると明るい部分が白っぽくなり、濃淡がわかりにくくなります。暗くすると濃淡がはっきりします。

6 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

ガンマを調整する

ガンマを調整することにより、接続機器の違いにより生じる投写映像の発色の違いを調整します。



シーンに応じて階調表現を最適化し、メリハリのある映像にするときは [シーン適応ガンマ補正] で映像を補正します。

1 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。

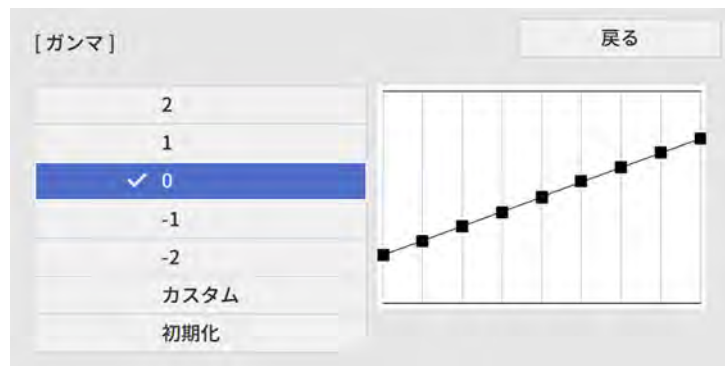
2 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。

3 [映像調整] を選択して【Enter】ボタンを押します。

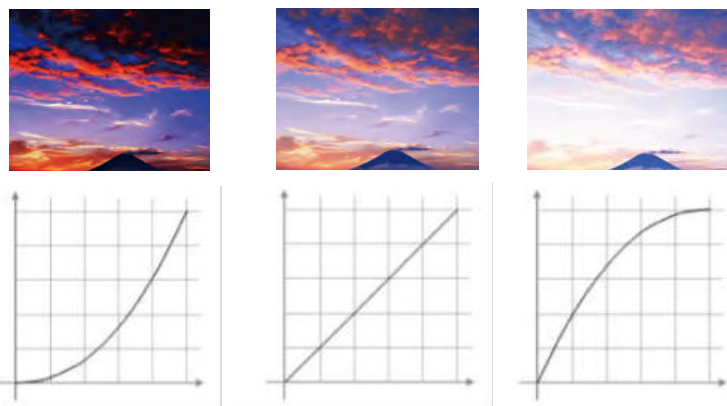
よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設定	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100%
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

4 [ガンマ] を選択して【Enter】ボタンを押します。

- 5** 補正值を選んで調整します。



数値が小さいほど、映像全体の明るさを抑えてメリハリのある映像になります。数値が大きいと、映像の暗い部分が明るくなり、明るい部分は色の濃淡が小さくなります。



- 6** 調整の精度を上げるには、[カスタム] を選択して【Enter】ボタンを押します。

- 7** ガンマ調整グラフで、左右ボタンを使って変更したい階調を選択します。選択された階調を上下ボタンで調整し、【Enter】ボタンを押します。



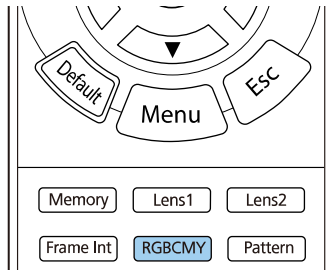
- 8** 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

色相、彩度、明度を調整する

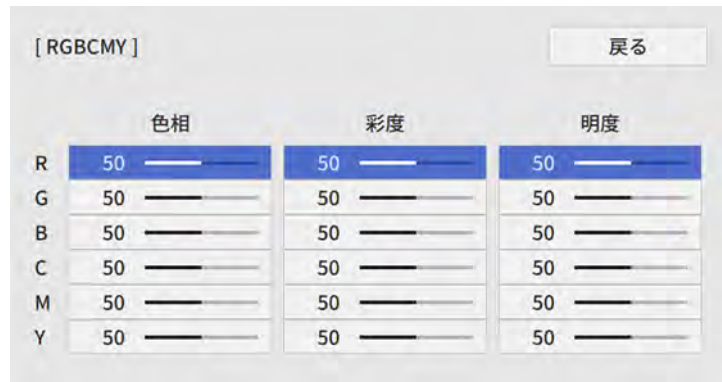
映像の色相、彩度、明度を調整します。

- 1** 本機の電源を入れて、投写する機器の映像に切り替えます。

2 リモコンの【RGBCMY】ボタンを押します。

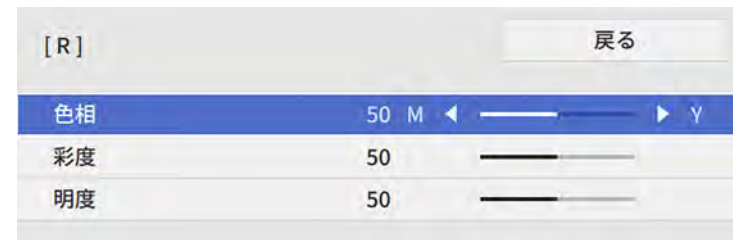


3 調整する色を選択して【Enter】ボタンを押します。



4 必要に応じて以下を調整します。

- [色相]：映像全体の色味を、青系～緑系～赤系へと調整します。
- [彩度]：映像全体の鮮やかさを調整します。
- [明度]：映像全体の明るさを調整します。



5 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。



[映像調整] メニューの [RGBCMY] でも設定できます。

プロジェクターの便利な機能

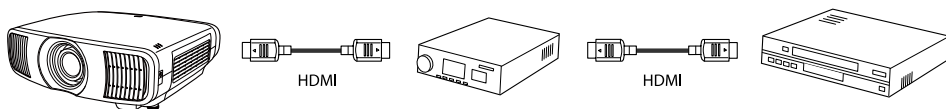
プロジェクターの各機能を使用します。

▶ 関連項目

- 「HDMIリンク機能」 [p.66](#)
- 「映像を一時的に停止する」 [p.68](#)
- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.69](#)
- 「映像の詳細設定を行う」 [p.71](#)
- 「セキュリティー機能」 [p.73](#)

本機のHDMI端子にHDMI CEC規格に対応したAV機器を接続すると、接続機器同士の連携動作が本機のリモコンで操作できます。

例：電源オン連動やAVアンプの音量調整など



- AV機器がHDMI CEC規格に対応していれば、中継するAVアンプがHDMI CEC規格に対応していなくてもHDMIリンク機能が利用できます。
- HDMI CEC規格で同時に接続できるプレーヤーは3台までです。

▶ 関連項目

- 「HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する」 [p.66](#)

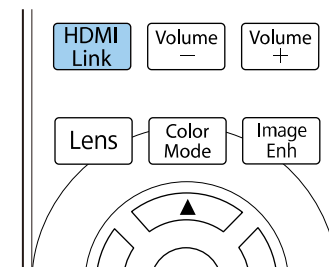
HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する

HDMIリンクを利用できる接続機器を選択して、HDMIリンク機能で機器を操作できます。



- HDMIリンク機能を使用するには、[信号入出力]メニューの[HDMIリンク]を[オン]に設定します。
 ▶ [信号入出力] > [HDMIリンク] > [HDMIリンク]
- 接続機器側の設定も必要です。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI CEC規格に対応していても動作しない接続機器や、動作しない機能があります。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- ケーブルがHDMIの規格に対応していないと動作しません。

1 リモコンの【HDMI Link】ボタンを押します。



2 [HDMIリンク]が[オン]に設定されていることを確認します。

3 [接続機器一覧]を選択して【Enter】ボタンを押します。

[HDMIリンク]	戻る
接続機器一覧	
HDMIリンク	オン ^
電源オン連動	双方向
電源オフ連動	オフ

4 HDMIリンクで操作したり、映像を表示したりする機器を選択して【Enter】ボタンを押します。



- HDMIリンクされている機器は左側のマークが青色になります。
- 機器名が取得できないときは空欄になります。

5 必要に応じて【Esc】ボタンを押して、HDMIリンクのオプション設定をします。

- [電源オン連動]：本機や接続機器の電源を入れたときに連動する操作を設定します。



- 本機の電源を入れたときに、接続機器の電源も入るようになるには、[PJ→接続機器]または[双方向]を選択します。
- 接続機器の電源を入れたときに、本機の電源も入るようになるには、[接続機器→PJ]または[双方向]を選択します。

- [電源オフ連動]：本機の電源オフに連動して、接続機器の電源も切るかどうかを設定します。



- [電源オフ連動]は、接続機器のCEC電源連動機能を有効に設定しているときのみ有効です。
- 録画中の機器など、状態によっては電源が切れないことがあります。

6 【HDMI Link】ボタン、または【Esc】を押してメニューを終了します。

本機のリモコンを使って接続機器の再生、停止、音量調整などの操作ができます。

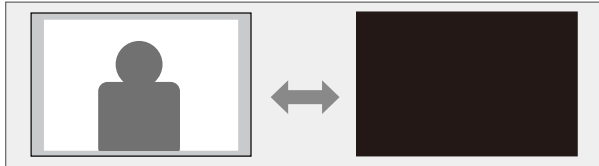


「信号入出力」メニューの「HDMIリンク」でも設定できます。

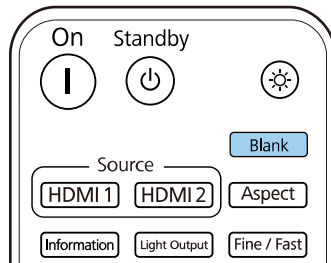
▶ 関連項目

- 「信号入出力メニュー」 [p.89](#)

投写中の映像を一時的に停止します。



1 リモコンの【Blank】ボタンを押して、映像を停止します。



2 投写を再開するときは、再度【Blank】ボタンを押します。

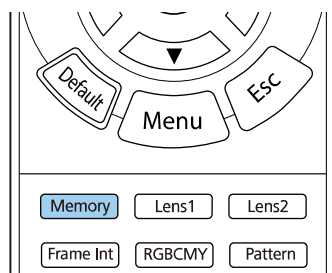


停止中も映像は進んでいるため、停止した場面から投写を再開することはできません。

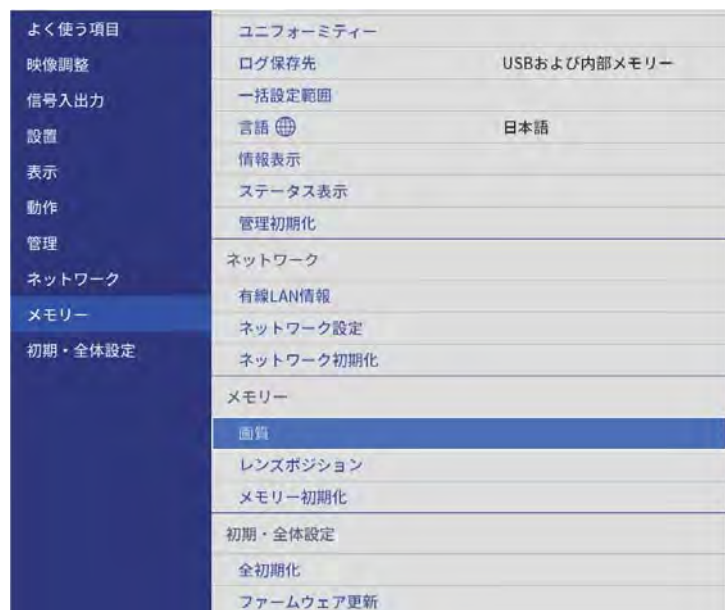
投写映像の設定値をメモリーに登録して、いつでも必要なときに呼び出すことができます。

1 本機の電源を入れて、映像を表示します。

2 リモコンの【Memory】ボタンを押します。



[メモリー]メニューが表示されます。



3 次のいずれかを選択します。

- [画質]：現在の投写映像の設定を本機のメモリーに保存します（10件まで保存できます）。



- 以下の設定を保存できます。
 - カラーモードごとに調整した [映像調整] メニューの設定
 - [設置] メニューの [ブランキング] の設定
 - メモリー保存時の カラーモードは、メモリー名の右側に表示されます。

- [レンズポジション]：現在のレンズの設定を本機のメモリーに保存します（10件まで保存できます）。



- 現在のズーム、ピント、レンズシフトの設定を保存できます。
- 【Lens1】 / 【Lens2】 ボタンを押すと、[Memory1] / [Memory2] に保存された設定を呼び出すことができます。

- [メモリー初期化]：[メモリー]メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

4 次のいずれかを選択します。

- [メモリー保存]：現在の設定を本機のメモリーに保存します（10件まで保存できます）。



すでに保存済みのメモリー名は青いマークで表示されます。保存済みのメモリー名を選択したときは、保存内容を消去して、現在の設定と置き換えます。

- [メモリー呼出]：保存したメモリーを呼び出して、現在の設定と置き換えます。
- [メモリー名称変更]：メモリー名を変更します。
- [メモリー削除]：選択したメモリーを消去します。
- [初期化]：メモリーを初期化します。

5 【Menu】ボタンまたは【Esc】ボタンを押してメニューを終了します。

▶ 関連項目

- 「映像調整メニュー」 [p.86](#)
- 「設置メニュー」 [p.92](#)
- 「メモリーメニュー」 [p.102](#)

プロジェクターの詳細な映像調整を行います。

▶ 関連項目

- 「色味を調整する (ユニフォーミティー)」 p.71

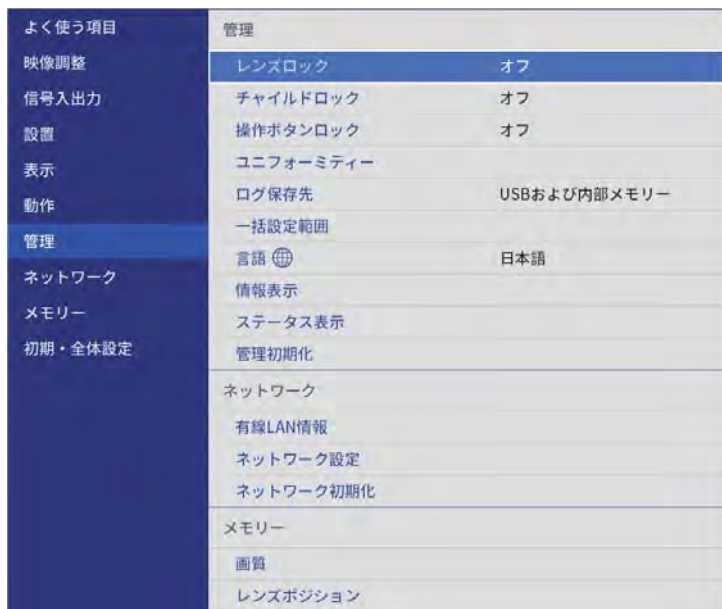
色味を調整する (ユニフォーミティー)

ユニフォーミティー機能を使って、投写画像の色味バランスを手動で調整します。

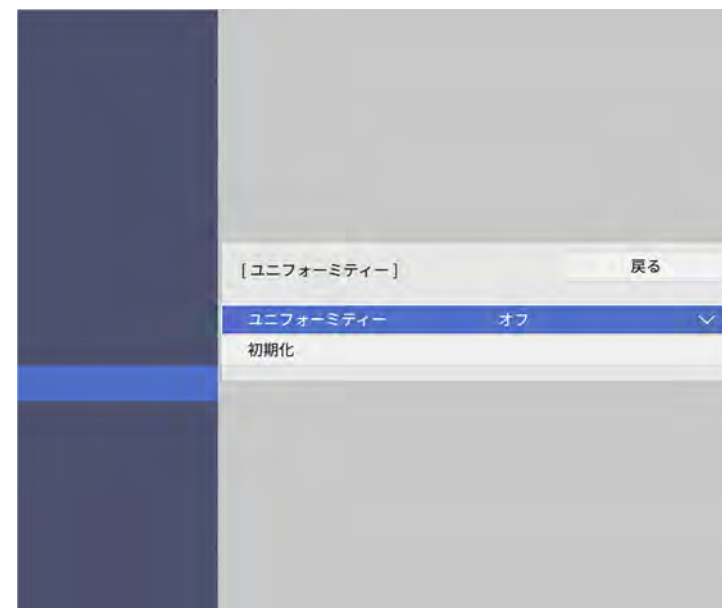


ユニフォーミティーを調整後も、色味が均一にならない場合があります。

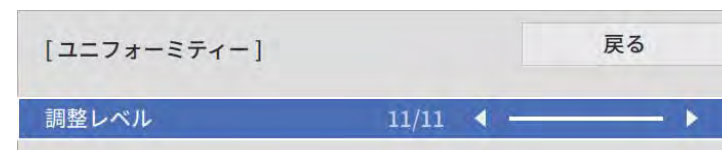
- 1 【Menu】 ボタンを押し、[管理] を選択して【Enter】 ボタンを押します。



- 2 [ユニフォーミティー] を選択して【Enter】 ボタンを押します。
- 3 [ユニフォーミティー] を選択して【Enter】 ボタンを押します。



- 4 [オン] を選択して【Enter】 ボタンを押します。その後、【Esc】 ボタンを押します。
- 5 [調整レベル] を選択して【Enter】 ボタンを押します。
- 6 レベルを選択して【Esc】 ボタンを押します。





白 - グレー - 黒まで11のレベルがあります。それぞれのレベルに対して調整を行います。



調整中に【Enter】ボタンを押すと、調整画面と投写映像を切り替えることができます。

- 7** [調整開始] を選択して【Enter】ボタンを押します。
- 8** 調整するエリアを選択して【Enter】ボタンを押します。



- 10** 【Esc】ボタンを押すと、エリア選択画面に戻ります。
- 11** この手順を繰り返して、すべてのエリアを調整します。
- 12** 手順5に戻り、それぞれのレベルで調整します。
- 13** 終了したら、【Menu】ボタンを押します。



最初に画面の周囲を調整します。最後に [全体] を選択して、画面全体を調整します。

- 9** 必要に応じて、[赤]、[緑]、[青] を選択し、それぞれの色味を調整します。



以下のセキュリティ機能を使用することで、プロジェクターの盗難や誤用・悪用を防止します。

- レンズロック：【Lens】ボタンでズーム、ピント、レンズシフトの調整ができないようにします。
- 操作ボタンロック：プロジェクターのボタン操作をできないようにします。
- セキュリティーケーブル：プロジェクターを固定して盗難を防ぎます。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのレンズとボタンをロックする」 [p.73](#)
- 「セキュリティケーブルを取り付ける」 [p.74](#)

プロジェクターのレンズとボタンをロックする

プロジェクターのボタンをロックして、本機の無断使用を防ぎます。ズーム、ピント、レンズシフトの設定をロックして、変更できないようにすることもできます。

- 1 【Menu】ボタンを押し、[管理] を選択して【Enter】ボタンを押します。

よく使う項目	管理
映像調整	レンズロック オフ
信号入出力	チャイルドロック オフ
設置	操作ボタンロック オフ
表示	ユニフォーミティー
動作	ログ保存先 USBおよび内部メモリー
管理	一括設定範囲
ネットワーク	言語 日本語
メモリー	情報表示
初期・全体設定	ステータス表示
	管理初期化
	ネットワーク
	有線LAN情報
	ネットワーク設定
	ネットワーク初期化
	メモリー
	画質
	レンズポジション

- 2 ロックの種類を選択して【Enter】ボタンを押します。
 - 操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを使って、ズーム、ピント、レンズシフトの設定を変更できないようにするには、[レンズロック] を選択します。
 - プロジェクターの電源ボタンをロックするには、[チャイルドロック] を選択します。
ロック時に電源をオンにするには、電源ボタンを3秒以上押します。



[動作] メニューで [ダイレクトパワーオン] を [オン] に設定しているときは、[チャイルドロック] をオンに設定していても、電源コードを接続するだけでプロジェクターの電源がオンになりますので、ご注意ください。

- プロジェクターのすべてのボタンをロックするときは、[操作ボタンロック] > [全ロック] の順に選択します。



プロジェクターのボタンがロックされていても、リモコンからは操作できます。

- 電源ボタン以外のすべてのボタンをロックするときは、[操作ボタンロック] > [電源以外ロック] の順に選択します。

- 3** 確認メッセージが表示されたら [はい] を選択して、【Enter】ボタンを押します。

[操作ボタンロック] の設定が有効になります。

- 4** [チャイルドロック] の設定を有効にするには、プロジェクターを再起動します。

▶ 関連項目

- 「ボタンロックを解除する」 p.74
- 「動作メニュー」 p.96
- 「管理メニュー」 p.97

ボタンロックを解除する

以下の方法で、操作ボタンロックを解除します。

- [管理] メニューで [レンズロック] を [オフ] に設定します。
- [管理] メニューで [チャイルドロック] を [オフ] に設定します。

- [管理] メニューで [操作ボタンロック] を [オフ] に設定します。



[操作ボタンロック] は、操作パネルの【Enter】ボタンを約7秒間押し続けることでも解除できます。メッセージが表示され、ロックが解除されます。

▶ 関連項目

- 「管理メニュー」 p.97

セキュリティケーブルを取り付ける

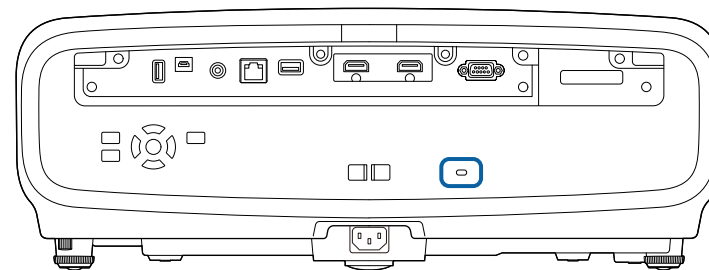
盗難防止のために、セキュリティケーブルを本機に取り付けることができます。

Kensington社製のマイクロサーバーセキュリティシステムを本機のセキュリティスロットに取り付けます。



マイクロサーバーセキュリティシステムの詳細は、Kensington社のWebサイトをご覧ください。

<https://www.kensington.com/>



プロジェクターを監視および制御する

ネットワーク経由でプロジェクターの監視と制御を行う方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「Webブラウザを使ってネットワークプロジェクターを制御する」 [p.76](#)
- 「ESC/VP21コマンドを使用する」 [p.80](#)
- 「PJLinkについて」 [p.81](#)

コンピューターのWebブラウザを使って、ネットワークに接続されたプロジェクターのメニュー設定や制御ができます。遠隔からの操作に適しています。



- コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。
- 以下のWebブラウザを使用できます。
 - Microsoft Edge (Windows)
 - Safari (Mac、iOS)
- お使いのWebブラウザで、接続にプロキシサーバーを使用しないように設定してください。メニュー設定の中には、Webブラウザからは設定できない項目があります。
- [動作] メニューの [待機モード] を [通信オン] に設定すると、本機がスタンバイ状態（電源オフ）のときも、Webブラウザを使って設定や制御ができます。

- 1** 本機の電源がオンになっていることを確認します。
- 2** お使いの機器を、接続先のプロジェクターと同じネットワークに接続します。
- 3** お使いの機器でWebブラウザを起動します。
- 4** ブラウザーのアドレス入力部にプロジェクターのIPアドレスを入力し、[Epson Web Control] 画面に接続します。IPv6アドレスを入力するときは、アドレスを[]で囲んで入力します。
[Epson Web Control] 画面が表示されます。



- 1** 本機をリモート操作します。
- 2** テストパターンを表示します。
- 3** 本機の詳細設定をします。
- 4** 指やマウスで本機のメニューを操作します。

5 操作したい項目を選択します。

[Epson Web Control] 画面のオプション設定をするためにログインを求められる場合があります。あらかじめ以下のパスワードを設定してください。

- [ベーシックコントロール] にアクセスするときは、ユーザー名 **EPSONREMOTE** と [Remoteパスワード] を入力します。(デフォルトのパスワードは設定されていません。)
[ネットワーク] メニューで [ベーシックコントロール] を [オン] にして、パスワードを設定してください。
☛ [ネットワーク] > [ネットワーク設定] > [プロジェクター制御] > [ベーシックコントロール]
- その他の画面にアクセスして設定を保存するときは、ユーザー名 **EPSONWEB** と [Web制御パスワード] を入力します。(デフォルトのパスワードは設定されていません。)
[ネットワーク] メニューでパスワードを設定してください。
☛ [ネットワーク] > [ネットワーク設定] > [Web制御パスワード]

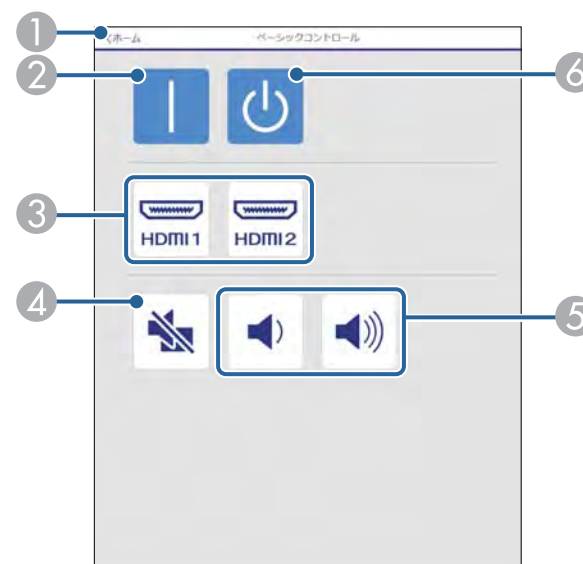
▶ 関連項目

- 「Web Controlの画面一覧」 p.77

Web Controlの画面一覧

ベーシックコントロール

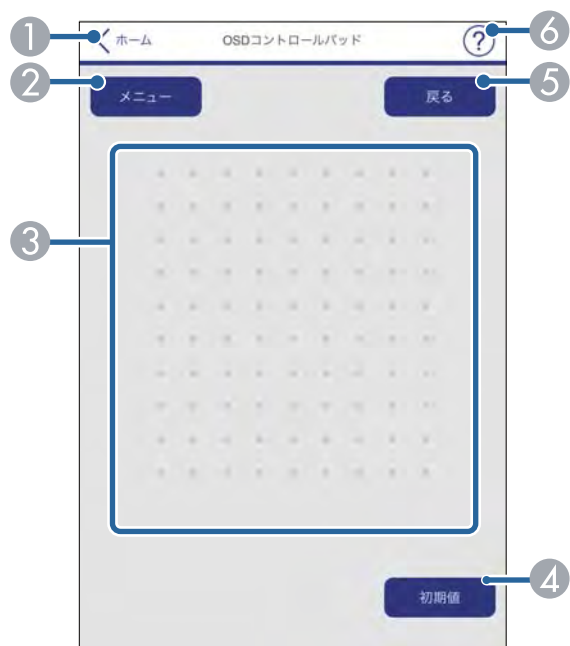
[ベーシックコントロール] 画面では、入力ソースを選択したり、プロジェクターを操作できます。



- ① [Epson Web Control] のホーム画面に移動します。
- ② 本機の電源をオン/オフします。
- ③ 入力ソースを選択します。
- ④ 映像と音声を一時的に遮断します。
- ⑤ スピーカーの音量を調整します。
- ⑥ 本機の電源を切ります。

OSDコントロールパッド

[OSDコントロールパッド] 画面では、指やマウスでプロジェクターのメニューを操作できます。



- ① [Epson Web Control] のホーム画面に移動します。
- ② 表示可能なテストパターン一覧から、表示したいパターンを選択します。
- ③ テストパターンの表示を終了します。

詳細設定

[詳細設定] 画面では、プロジェクターの詳細設定ができます。

- ① [Epson Web Control] のホーム画面に移動します。
- ② 本機のメニューを表示します。
- ③ 指やマウスでメニューを操作します。
- ④ 選択した設定を初期値に戻します。
- ⑤ 前のメニュー項目に戻ります。
- ⑥ ヘルプを表示します。

テストパターン

[テストパターン] 画面では、テストパターンを表示できます。



以下の項目はWebブラウザでは変更できません。

- [EDID]
- [HDMIリンク]
- [言語]
- [ステータス表示]
- [ネットワーク初期化]
- [ファームウェア更新]



以下の項目はWebブラウザでのみ設定できます。

- HTTPポート追加 (Web制御に使用するポート番号で、80 (デフォルト)、843、3620、3621、3625、3629、4352、4649、5357、10000、10001、41794以外の番号)

- ① メニューを開きます。
- ② 選択しているメニュー名を表示します。
- ③ 本機の設定をします。(設定項目は機種により異なります。)
- ④ 本機の設定をロックまたはアンロックします。
- ⑤ 本機の設定を更新します。

ESC/VP21を使用して外部デバイスからプロジェクターを制御できます。

▶ 関連項目

- 「ESC/VP21コマンドリスト」 p.80
- 「ケーブル配線」 p.80

ESC/VP21コマンドリスト

本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後「:」を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に「:」を返信しません。

以下のコマンドを使用できます。

各コマンドの最後に復帰 (CR) コード (0Dh) を追加して送信してください。

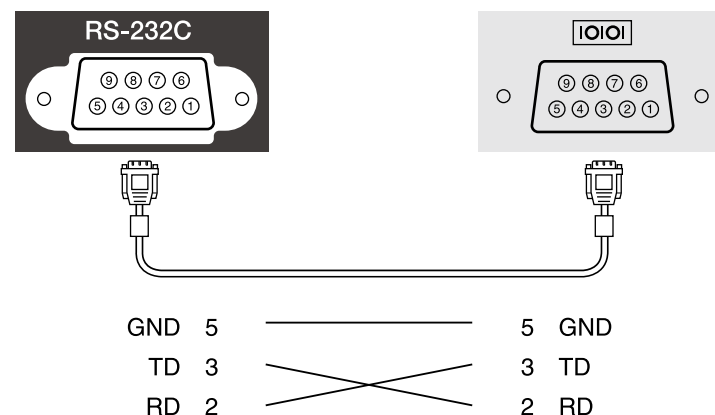
詳細はお買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

ケーブル配線

シリアル接続

- コネクター形状：D-Sub 9pin (オス)
- プロジェクター入力端子名：RS-232C
- ケーブルタイプ：クロスケーブル

以下の図では、左の端子がプロジェクター側、右の端子がコンピューター側を示しています。



信号名	働き
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティ：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

JBMIA（一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLinkが策定されました。

本機はJBMIAによって策定されたPJLink Class2規格に準拠しています。

PJLinkの検索機能で使用するポート番号は4352（UDP）です。

PJLinkを使用するには、事前にネットワーク設定を行う必要があります。

次のコマンドを除く、PJLink Class2によって規定されているすべてのコマンドに対応しており、PJLink規格の適合性を確認しています。

<http://pjlink.jbmia.or.jp/>

- 非対応コマンド

働き		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	音声ミュート設定	AVMT 21

- 入力端子名称および入力ソース番号の対応表

入力端子名称	入力ソース番号
HDMI1	32
HDMI2	33

- 「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名

EPSON

- 「機種情報問合せ」で表示する機種名

- EPSON LS12000B
- EPSON LS11000W

メニューの設定

プロジェクターメニューの機能と設定について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターメニューを操作する」 [p.83](#)
- 「ソフトキーボードを操作する」 [p.85](#)
- 「映像調整メニュー」 [p.86](#)
- 「信号入出力メニュー」 [p.89](#)
- 「設置メニュー」 [p.92](#)
- 「表示メニュー」 [p.94](#)
- 「動作メニュー」 [p.96](#)
- 「管理メニュー」 [p.97](#)
- 「ネットワークメニュー」 [p.99](#)
- 「メモリーメニュー」 [p.102](#)
- 「初期・全体設定メニュー」 [p.103](#)
- 「メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする（一括設定機能）」 [p.104](#)

投写画面に表示されるメニューを使って、本機の各種動作を設定します。

- 1** 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。
メニューが表示されます。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100 %
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート



初期設定では、プロジェクターのメニュー画面は黒で表示されます。本書では断りがないかぎり白い画面を用いて説明しています。メニューのカラーテーマは [表示] メニューの [メニューカラー] で変更できます。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100 %
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

- 2** 上下ボタンを押して、左側に表示されるメニュー項目を選択します。各メニューの設定が右側に表示されます。
- 3** 設定を変更するには、【Enter】ボタンを押します。
- 4** 上下ボタンを押して、設定項目を選択します。
- 5** メニュー設定をすべて初期値に戻すには、[初期・全体設定] を選択します。
- 6** メニューの設定が終わったら、【Esc】ボタンを押します。

- 7** 【Menu】 ボタンまたは【Esc】 ボタンを押してメニューを終了します。

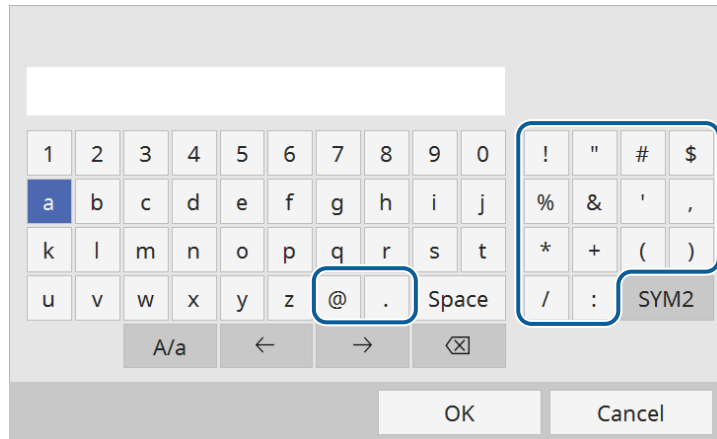


✓が表示される項目には関連するメニューがあります。設定をオンにしたり、特定の値を設定すると、関連するメニューを展開して表示します。



数字や文字の入力が必要なときはソフトキーボードが表示されます。

- 1 リモコンまたは操作パネルの上下左右ボタンを使って、入力する数字や文字を選択し、【Enter】ボタンを押します。



A/aキーを選択すると、大文字小文字が切り替わります。
SYM1/2キーを選択すると、枠に囲まれている記号が変わります。

- 2 テキストの入力後、キーボードのOKを選択して入力を確定します。
Cancelを選択すると、テキストの入力を取り消します。

▶ 関連項目

- 「ソフトキーボードで入力可能な文字」 [p.85](#)

ソフトキーボードで入力可能な文字

ソフトキーボードでは、以下の文字を入力できます。

文字タイプ	詳細
数字	0123456789
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[\\]^_`{ }~

[映像調整]メニューでは、投写映像の画質を調整できます。カラーモードや入力ソースによって設定できる項目が異なります。

よく使う項目	映像調整	
映像調整	カラーモード	ダイナミック
信号入出力	明るさ	50
設置	コントラスト	50
表示	色の濃さ	50
動作	色合い	50
管理	シャープネス	
ネットワーク	ホワイトバランス	
メモリー	フレーム補間	オフ
初期・全体設定	レーザーライト出力	100%
	ダイナミックコントラスト	オフ
	プログレッシブ変換	オフ
	イメージ強調	
	シーン適応ガンマ補正	5
	ガンマ	0
	RGBCMY	
	初期値に戻す	
	入力ソース	HDMI1
	アスペクト	オート

設定	選択肢	説明
カラーモード	カラーモードの一覧を参照	映像の種類や使用環境に応じて、適切なカラーモードを選択します。
明るさ	レベル調整	映像の明るさを調整します。
コントラスト	レベル調整	映像のコントラストを調整します。
色の濃さ	レベル調整	映像の色の濃さを調整します。
色合い	レベル調整	映像の色合いを調整します。

設定	選択肢	説明
シャープネス	スタンダード 高域強調 低域強調	映像のシャープ感を調整します。 [スタンダード]: 投写映像全体の輪郭を強調します。[高域強調]と[低域強調]も連動して調整されます(初期値の5に戻ります)。 [高域強調]: 髪の毛や衣服の模様などの細かい部分を強調します。 [低域強調]: 映像全体の輪郭や背景などを強調します。
ホワイトバランス	色温度	選択したカラーモードに応じて色温度を設定します。値を高くすると青みがかかった映像になり、値を低くすると赤みがかかった映像になります。
	G-M補正	映像の色合いを細かく調整します。値を高くすると緑がかかった映像になり、値を低くすると赤みがかかった映像になります。
	カスタム	オフセット、ゲインをR(赤)、G(緑)、B(青)の成分ごとに調整します。
	グレースケール	選択した調整レベルに対して、赤、緑、青、明るさの補正を行います。
フレーム補間	オフ 弱 標準 強	映像の動きの滑らかさを調整します。以下の場合に表示されます。 • [映像処理]が[きれい]のとき ☛ [信号入出力] > [映像処理]
レーザーライト出力	レベル調整	光源の明るさを設定します。

設定	選択肢	説明
ダイナミックコントラスト	高速 標準 オフ	映像の明るさに合わせて投写時の光量を調整します。
プログレッシブ変換	オフ ビデオ フィルム/オート	インターレース信号をプログレッシブ信号に変換します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [オフ]：動きの速いビデオ映像に適しています。 ・ [ビデオ]：一般のビデオ映像に適しています。 ・ [フィルム/オート]：映画フィルムやCG、アニメーションに適しています。 以下の場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [映像処理] が [きれい] のとき ● [信号入出力] > [映像処理]
イメージ強調	イメージ強調プリセット	[イメージ強調] の設定値をプリセットの値で一括で設定します。
	ノイズリダクション	映像のざらつきを抑えます。以下の場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [映像処理] が [きれい] のとき ● [信号入出力] > [映像処理]
	MPEGノイズリダクション	MPEG形式の映像のざらつきを抑えます。以下の場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [映像処理] が [きれい] のとき ● [信号入出力] > [映像処理]

設定	選択肢	説明
	超解像	解像度の低い映像を投写するときに、解像度を高めて映像のボケを軽減します。
	自動コントラスト強調	映像のコントラストを部分的に自動調整して、鮮やかでメリハリのある映像にします。
	初期化	[イメージ強調] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。
シーン適応ガンマ補正	レベル調整	シーンに応じて階調表現を最適化して、メリハリのある映像にします。コントラストを強調したいときは、大きい値を選択します。
ガンマ	-2~2 カスタム	補正値を選んだり、ガンマグラフを見ながら映像の発色を調整します。
RGBCMY	レベル調整	R (赤)、G (緑)、B (青)、C (シアン)、M (マゼンタ)、Y (イエロー) ごとに色相、彩度、明度を調整します。
初期値に戻す	—	現在のカラーモードで調整したすべての値を初期値に戻します。
入力ソース	—	入力ソースごとに保存されるメニューが表示されます。設定を変更するには、変更したい入力ソースの映像が投写されていることを確認してください。
アスペクト	アスペクト比の一覧を参照	映像のアスペクト比 (縦横比) を設定します。
初期値に戻す	—	現在の入力ソースで調整したすべての値を初期値に戻します。

設定	選択肢	説明
映像調整初期化	—	[映像調整] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

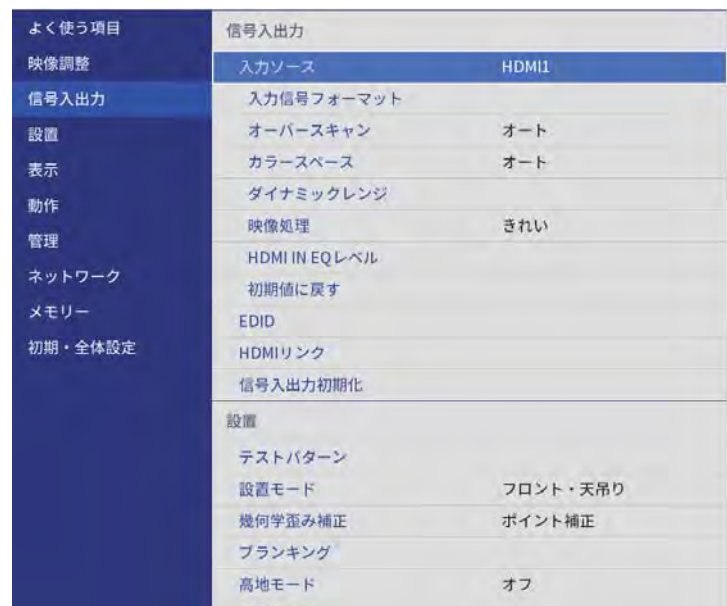


- [明るさ] の設定は光源の明るさには影響しません。光源の明るさを変更するには、[レーザーライト出力] を設定します。

▶▶ 関連項目

- 「映像の画質を調整する」 [p.55](#)
- 「カラーモードの種類」 [p.53](#)
- 「アスペクトモードの種類」 [p.51](#)
- 「映像の色合いを調整する」 [p.60](#)

本機は入力信号方式を自動的に検出し、映像設定を最適化します。詳細な設定が必要なときは、[信号入出力] メニューで設定します。入力ソースによって設定できる項目が異なります。



設定	選択肢	説明
入力信号フォーマット	ビデオレンジ	接続された機器の設定に合わせて、本機のビデオレベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [オート]：入力信号によってビデオレンジを自動的に設定します。 ・ [リミテッド(16-235)]：輝度レンジが16 - 235のときに選択します。 ・ [フル(0-255)]：輝度レンジが0 - 255のときに選択します。
オーバースキャン	オート オフ 4% 8%	出画率（投写する映像の範囲）を変更して、映像がトリミングされる範囲を設定します。
カラースペース	オート BT.709 BT.2020	色空間の変換方式を設定します。
ダイナミックレンジ	ダイナミックレンジ	映像の暗部、明部の表示できる範囲を切り替えます。[オート]（推奨）[SDR] [HDR10/HDR10+] [HLG] から選択します。
	映像信号	映像信号を表示します。

設定	選択肢	説明
入力ソース	—	入力ソースごとに保存されるメニューが表示されます。 設定を変更するには、変更したい入力ソースの映像が投写されていることを確認してください。

設定	選択肢	説明
	HDR10/HDR10+ 設定	<p>HDR PQ方式でのダイナミックレンジのPQ (Perceptual Quantizer) カーブを切り替えます。</p> <p>以下の場合に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ダイナミックレンジ] が [オート]、[映像信号] がHDR10のとき • [ダイナミックレンジ] が [オート]、[映像信号] がHDR10+のとき • [ダイナミックレンジ] が [HDR10/HDR10+] のとき <p>本機は以下の条件でHDR10+の認証を取得しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スクリーンサイズ：80 インチ • 投写距離：239 cm (ワイド) • カラーモード：ナチュラル • HDR10/HDR10+設定：3
	HLG 設定	<p>HDR HLG方式でのダイナミックレンジのHLG (Hybrid Log Gamma) カーブを切り替えます。</p> <p>[映像信号] がHLG、または [ダイナミックレンジ] が [HLG] のときに表示されます。</p>

設定	選択肢	説明
映像処理	きれい 速い	<p>ゲームなどの動きの速い投写映像に対して、応答速度を向上させる処理をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [きれい]：[フレーム補間] を [オフ] にすると、映像処理の速度を改善します。 <ul style="list-style-type: none"> ☛ [映像調整] > [フレーム補間] • [速い]：[フレーム補間]、[プログレッシブ変換]、[ノイズリダクション]、[MPEGノイズリダクション] を無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ☛ [映像調整] > [フレーム補間] ☛ [映像調整] > [プログレッシブ変換] ☛ [映像調整] > [イメージ強調] > [ノイズリダクション] ☛ [映像調整] > [イメージ強調] > [MPEGノイズリダクション]
HDMI IN EQレベル	HDMI1 HDMI2	<p>HDMI入力端子に接続している映像機器に応じてHDMI受信レベルを変更します。映像にノイズが入ったり、映らないときは、設定を変更してください。</p> <p>入力ソースを切り替えることなく、ソースごとに設定できます。</p>
初期値に戻す	—	<p>現在の入力ソースで調整したすべての値を初期値に戻します。</p>

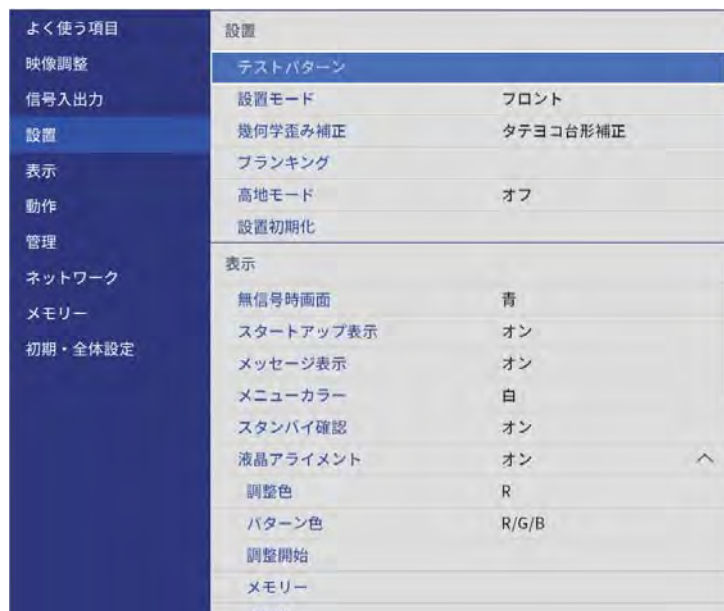
設定	選択肢	説明
EDID	EDID (HDMI1) EDID (HDMI2)	映像機器に通知する本機の解像度情報を設定します。映像が正しく表示されないときは、この設定を変更してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [EDIDモード]：映像の解像度に合わせて、必要に応じて設定を変更してください。 ・ [HDR10+]：映像機器がHDR10+に対応していない場合は、[オフ]にすると映像が正しく表示されることがあります。
HDMIリンク	接続機器一覧	HDMI端子に接続されている機器の一覧を表示します。 [HDMIリンク] が [オン] のときに表示されます。
	HDMIリンク	[オン] にすると、HDMIリンク機能が有効になります。
	電源オン連動	本機または接続機器の電源をオンにしたときの動作を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [オフ]：電源の連動をオフにします。 ・ [双方向]：本機の電源オンに連動して接続機器の電源をオンに、また、接続機器の電源オンに連動して本機の電源をオンにします。 ・ [接続機器→PJ]：接続機器の電源オンに連動して、本機の電源をオンにします。 ・ [PJ→接続機器]：本機の電源オンに連動して、接続機器の電源をオンにします。

設定	選択肢	説明
	電源オフ連動	本機の電源オフに連動して、接続機器の電源をオフにするかしないかを設定します。
信号入出力初期化	—	[信号入出力] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶▶ 関連項目

- ・ 「HDMIリンク機能」 p.66

[設置] メニューでは、プロジェクターの設置環境に合わせた設定ができます。



設定	選択肢	説明
テストパターン	表示位置調整 カラーアイソレーション: R カラーアイソレーション: G カラーアイソレーション: B 表示終了	映像のピントやズーム、映像のゆがみを調整できるように、テストパターンを表示します。([表示終了]を選択するか、【Pattern】ボタンを押すと、パターン表示を終了します。)

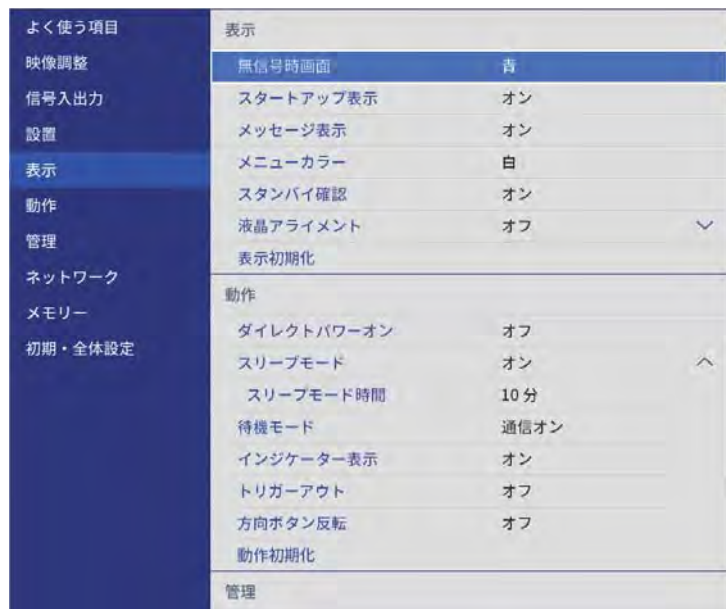
設定	選択肢	説明
設置モード	フロント リア フロント・天吊り リア・天吊り	映像が正しい方向で投写されるように、スクリーンに対する本機の設置方法を選択します。
幾何学歪み補正 (EH-LS12000B)	タテヨコ台形補正	投写映像の縦方向、横方向のゆがみを補正します。 <ul style="list-style-type: none"> [タテ台形補正]: 投写映像の縦方向のゆがみを補正します。 [ヨコ台形補正]: 投写映像の横方向のゆがみを補正します。
	Quick Corner	投写画面のコーナーの形状を個別に補正します。
	ポイント補正	投写映像を格子で区切り、格子の交点を上下左右に移動させることで投写画面のゆがみを補正します。
タテヨコ台形補正 (EH-LS11000W)	タテ台形補正 ヨコ台形補正	投写映像の縦方向、横方向のゆがみを補正します。 <ul style="list-style-type: none"> [タテ台形補正]: 投写映像の縦方向のゆがみを補正します。 [ヨコ台形補正]: 投写映像の横方向のゆがみを補正します。
ブランキング	上 下 左 右	設定した領域の映像を非表示にします。
高地モード	オン オフ	標高約1500 m以上の場所で本機を使用できるように動作を制御します。

設定	選択肢	説明
設置初期化	—	[設置] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶▶ 関連項目

- 「設置モードを選択する」 [p.38](#)
- 「プロジェクターの設置・取り付け」 [p.18](#)
- 「映像の形状を補正する」 [p.43](#)

[表示] メニューでは、プロジェクターの各種表示設定ができます。



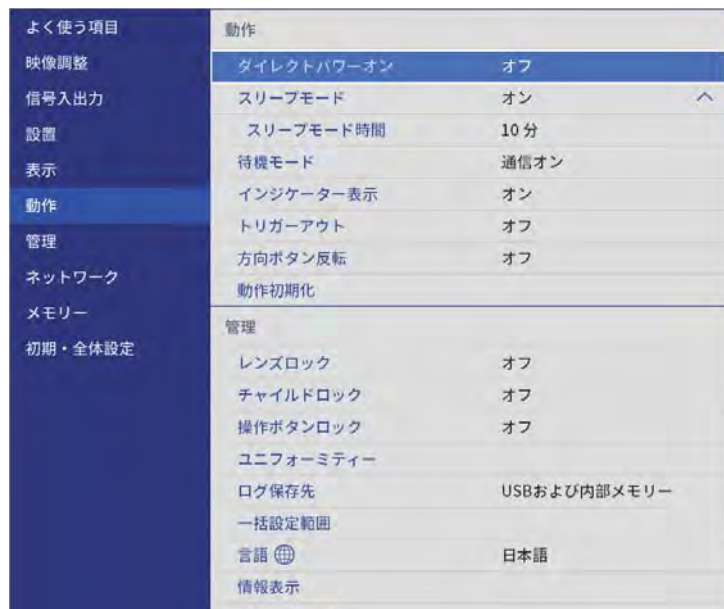
設定	選択肢	説明
無信号時画面	黒 青 ロゴ	映像信号が入力されていないときに投写する画面の背景色、またはロゴ表示を選択します。
スタートアップ表示	オン オフ	[オン] にすると、投写開始時にロゴを表示します。
メッセージ表示	オン オフ	[オン] にすると、入力ソース名、カラーモード名、アスペクト比、映像信号が入力されていないときのメッセージや高温警告などのメッセージが投写画面に表示されます。

設定	選択肢	説明
メニューカラー	黒 白	プロジェクターメニューのカラーテーマを設定します。
スタンバイ確認	オン オフ	[オン] に設定すると、本機の電源を切るときにシャットダウン確認画面を表示します。
液晶アライメント	オン オフ	[オン] にすると、液晶アライメントが調整できます。
	調整色	調整する色を選択します。
	パターン色	調整時の背景パターンの色を選択します。
	調整開始	液晶アライメントの調整を開始します。
	メモリー	液晶アライメントの調整結果を保存します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [メモリー保存]：現在の [液晶アライメント] の設定を本機のメモリーに保存します (3件まで保存できます)。 ・ [メモリー呼出]：保存したメモリーを呼び出して、現在の [液晶アライメント] の設定と置き換えます。 ・ [メモリー名称変更]：保存したメモリーの名称を変更します。 ・ [メモリー削除]：選択したメモリーを消去します。
	初期化	[液晶アライメント] で調整したすべての値を初期値に戻します。
表示初期化	—	[表示] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶▶ 関連項目

- 「映像を一時的に停止する」 [p.68](#)
- 「液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）」 [p.116](#)

[動作] メニューでは、プロジェクターの各種設定ができます。



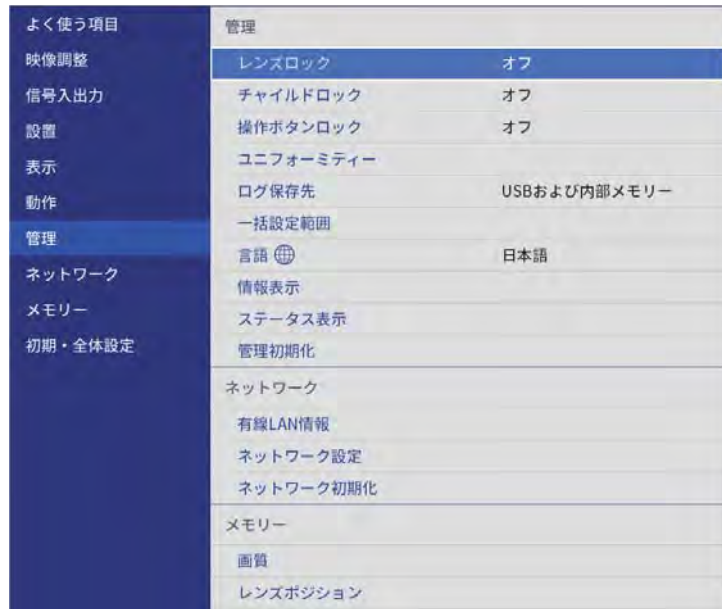
設定	選択肢	説明
ダイレクトパワーオン	オン オフ	[オン] に設定すると、電源プラグを差し込むだけで本機の電源が入ります。
スリープモード	オン オフ	[オン] に設定すると、一定時間映像信号の入力がないとき自動的に本機の電源が切れます。
スリープモード時間	1~30分	[スリープモード] で電源が自動で切れるまでの時間を設定します。
待機モード	通信オン 通信オフ	スタンバイ状態のときにネットワーク経由で本機を監視・制御するときは、[通信オン] に設定します。

設定	選択肢	説明
インジケータ表示	オン オフ	[オフ] に設定すると、異常時や警告時以外は本機のインジケータを消灯します。
トリガーアウト (EH-LS12000B)	オフ 電源連動 アナモフィック連動	外部機器に本機の電源の状態 (オン/オフ) などを伝えるため、電源が入っている間、Trigger Out端子から12Vの信号 (最大200mA) が出力されます。 [アナモフィック連動] を選択すると、Trigger Out端子からは [アスペクト] が [アナモフィック]、または [Hスワイズ] のときに信号が出力されません。
トリガーアウト (EH-LS11000W)	オン オフ	外部機器に本機の電源の状態 (オン/オフ) などを伝えるため、電源が入っている間、Trigger Out端子から12Vの信号 (最大200mA) が出力されます。
方向ボタン反転	オン オフ	本機を天吊り設置しているときは [オン] にして、操作パネルの上下左右ボタンの動作方向を反転させます。
動作初期化	—	[動作] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの電源を入れる」 [p.34](#)

[管理] メニューでは、プロジェクターの管理者向け設定ができます。



設定	選択肢	説明
レンズロック	オン オフ	ズーム、ピント、レンズシフトの設定を変更できないようにします。
チャイルドロック	オン オフ	お子様が誤って電源を入れないように、プロジェクターの電源ボタンをロックします。 [操作ボタンロック] が [電源以外ロック]、または [オフ] のときに表示されます。

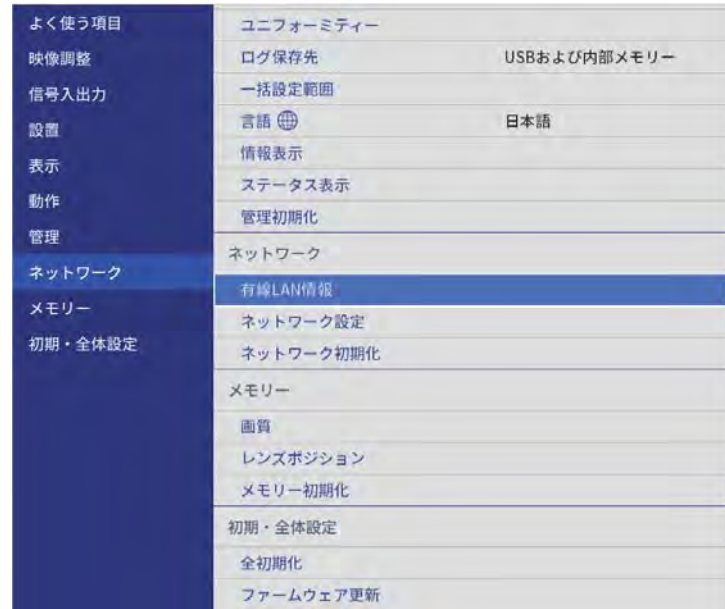
設定	選択肢	説明
操作ボタンロック	全ロック 電源以外ロック オフ	操作パネルのボタン操作制限を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [全ロック]：すべてのボタンをロックします。 • [電源以外ロック]：電源ボタンを除くすべてのボタンをロックします。 • [オフ]：ボタンをロックしません。プロジェクターのボタンがロックされていても、リモコンからは操作できます。
ユニフォーミティ	ユニフォーミティ	[オン] にすると、画面全体の色味のバランスを調整します。
	調整レベル	調整レベルを選択します。
	調整開始	調整するエリアを選択し、赤、緑、青ごとの色味を調整します。
	初期化	[ユニフォーミティ] で調整したすべての値を初期値に戻します。
ログ保存先	内部メモリー USBおよび内部メモリー	エラーログや操作ログの保存先を設定します。
一括設定範囲	すべて 一部	一括設定機能を使って、すべてのメニュー設定をコピーするときは [すべて] を選択します。以下の設定をコピーしたくないときは [一部] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [信号入出力] メニューの [EDID] • [ネットワーク] メニュー

設定	選択肢	説明
言語	言語設定	メニュー、メッセージに表示する言語を選択します。
情報表示	プロジェクター情報	プロジェクターや映像信号の情報を確認します。現在投写している入力ソースによって表示する項目が異なります。
ステータス表示	—	プロジェクターのステータス情報を表示します。
管理初期化	—	[管理] メニューで調整した、以下を除くすべての値を初期値に戻します。 • [言語]

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのレンズとボタンをロックする」 [p.73](#)
- 「色味を調整する (ユニフォーミティー)」 [p.71](#)
- 「メニュー設定を別のプロジェクターにコピーする (一括設定機能)」 [p.104](#)

[ネットワーク] メニューでは、ネットワーク情報の表示、ネットワーク経由で本機を使うための設定ができます。



設定	選択肢	説明
ネットワーク初期化	—	[ネットワーク] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。 注意 初期化を実行すると [ネットワーク] メニューで設定したすべてのパスワードが初期化され、パスワードの再設定が必要になります。

▶▶ 関連項目

- 「ネットワーク設定メニュー」 p.99

ネットワーク設定メニュー

[ネットワーク設定] メニューでは、ネットワークの基本設定ができます。



[Web制御パスワード] が設定されていないときは、ネットワークの設定を保存する際にパスワードの設定を求められます。画面の指示に従ってパスワードを設定してください。

設定	選択肢	説明
有線LAN情報	有線LAN情報	有線LANのステータス、詳細情報を表示します。
ネットワーク設定	—	ネットワーク設定を構成します。詳しくは [ネットワーク設定] メニューをご覧ください。

設定	選択肢	説明
プロジェクター名	16文字以内の半角英数字 (" * + , / : ; < = > ? [\] ` スペースは使用不可)	ネットワーク上で本機を識別するための名前を入力します。

設定	選択肢	説明
Web制御パスワード	32文字以内の半角英数字 (*:スペースは使用不可)	Web制御で本機の設定や操作をするときの認証用パスワードを設定します。(ユーザー名は EPSONWEB です。デフォルトのパスワードは設定されていません。)
Monitorパスワード	16文字以内の半角英数字 (@以外の記号は使用不可)	コマンド通信で平文認証を行うときのパスワードを入力します。
有線LAN	—	[有線LAN] メニューを参照。
プロジェクター制御	—	[プロジェクター制御] メニューを参照。

▶ 関連項目

- 「ネットワーク設定 - 有線LANメニュー」 [p.100](#)
- 「ネットワーク設定 - プロジェクター制御メニュー」 [p.100](#)

ネットワーク設定 - 有線LANメニュー

[有線LAN] メニューでは、有線LANの設定ができます。

設定	選択肢	説明
IP設定	DHCP IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイアドレス	[DHCP] を使用できるネットワークの場合は、[オン] にします。DHCPを使用できないネットワークの場合は、[オフ] にして、プロジェクターの [IPアドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイアドレス] を入力します。0~255の数字を入力します。 0.0.0.0、127.x.x.x、192.0.2.x、224.0.0.0~255.255.255.255のアドレスはIPアドレスに使用できません (xは0~255の数値)。255.255.255.255、0.0.0.0~254.255.255.255のアドレスはサブネットマスクに使用できません。0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255のアドレスはゲートウェイアドレスに使用できません。
IPアドレス表示	オン オフ	ネットワーク情報画面にIPアドレスを表示するときは [オン] にします。

ネットワーク設定 - プロジェクター制御メニュー

[プロジェクター制御] メニューでは、本機をネットワーク経由で設定・制御をするための設定ができます。

設定	選択肢	説明
ベーシックコントロール	オン オフ	[Epson Web Control] の [ベーシックコントロール] で本機の制御をするときは、[オン] に設定します。

設定	選択肢	説明
Remote/パスワード	32文字以内の半角英数字 (*:スペースは使用不可)	[Epson Web Control] の [ベーシックコントロール] にアクセスするための認証用パスワードを設定します。(ユーザー名は EPSONREMOTE です。デフォルトのパスワードは設定されていません。)
PJLink	オン オフ	PJLink通知機能を使うときは、[オン] に設定します。
PJLinkパスワード	32文字以内の半角英数字 (記号は使用不可)	PJLink対応アプリケーションを使って本機を制御するときの認証用パスワードを設定します。
通知先IPアドレス	IPアドレス	PJLink通知機能が有効なとき、プロジェクトのステータスを通知するコンピューターのIPアドレスを入力します。0~255の数字を入力します。 127.x.x.x、224.0.0.0~255.255.255.255のIPアドレスは使用できません (xは0~255の数値)。
AMX Device Discovery	オン オフ	[オン] にすると、AMX Device Discoveryを使用して本機の検出ができます。
Control4 SDDP	オン オフ	[オン] にすると、Control4 SDDP (Simple Device Discovery Protocol) を使って本機の情報を送信します。

[メモリー] メニューでは、プロジェクターの設定を保存できます。

よく使う項目	ユニフォーミティ
映像調整	ログ保存先 USBおよび内部メモリー
信号入出力	一括設定範囲
設置	言語 日本語
表示	情報表示
動作	ステータス表示
管理	管理初期化
ネットワーク	ネットワーク
メモリー	有線LAN情報
初期・全体設定	ネットワーク設定
	ネットワーク初期化
	メモリー
	画質
	レンズポジション
	メモリー初期化
	初期・全体設定
	全初期化
	ファームウェア更新

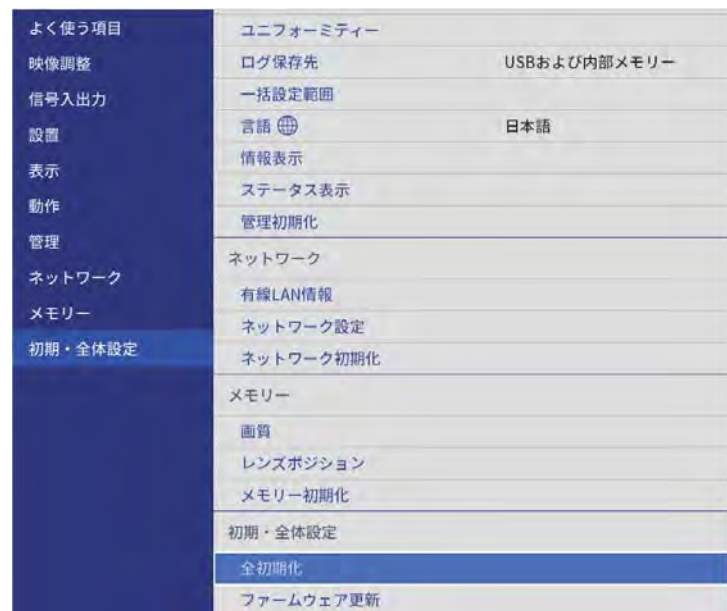
設定	選択肢	説明
	メモリー呼出	メモリーに保存された調整値を呼び出します。
	メモリー名称変更	保存したメモリーの名称を変更します。
	メモリー削除	保存したメモリーを削除します。
	初期化	メモリーを初期化します。
メモリー初期化	—	[メモリー] メニューで調整したすべての値を初期値に戻します。

▶▶ 関連項目

- 「プロジェクターの設定をメモリーに保存する」 [p.69](#)

設定	選択肢	説明
画質	メモリー保存	現在の映像の設定をメモリーに保存します。
	メモリー呼出	メモリーに保存された調整値を投写中の映像に適用します。
	メモリー名称変更	保存したメモリーの名称を変更します。
	メモリー削除	保存したメモリーを削除します。
	初期化	メモリーを初期化します。
レンズポジション	メモリー保存	ピント、ズーム、レンズシフトの設定をメモリーに保存します。

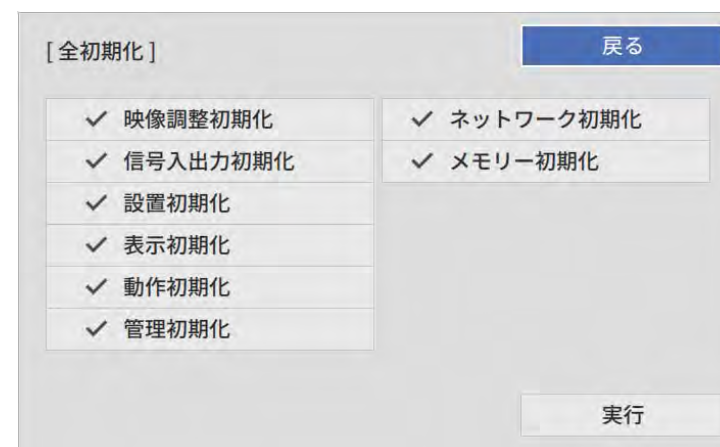
[初期・全体設定] メニューでは、本機の設定を初期化できます。また、プロジェクターのファームウェアを更新できます。



設定	選択肢	説明
全初期化	—	すべての設定を初期値に戻します。
ファームウェア更新	—	ファームウェア更新モードになり、USB-AまたはService端子を使ってファームウェアのアップデートができます。

全初期化項目

[全初期化] を選択すると、次の画面が表示されます。



特定のメニューを初期化しないときは、メニューのチェックボックスを外します。[実行] を選択すると、初期化します。

以下の設定は、初期値に戻りません。

- [言語]

注意

[全初期化] を実行すると、[ネットワーク] メニューで設定したすべてのパスワードが初期化され、パスワードの再設定が必要になります。

▶ 関連項目

- 「ファームウェアを更新する」 p.118

本機で設定したメニューの内容を、以下の方法で他の複数台のプロジェクターにコピーできます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

- USBメモリーを使って設定する
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する



- 台形補正などの投写画面の調整をする前に一括設定機能を実行してください。一括設定機能では、タテヨコ補正などの投写画面の調整値もコピーされます。投写画面の調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。
- 以下の設定をコピーしたくないときは、[一括設定範囲]を[一部]に設定してください。
 - [信号入出力]メニューの[EDID]
 - [ネットワーク]メニュー
 - [管理] > [一括設定範囲]

⚠ 注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、有償修理となることがあります。

▶ 関連項目

- 「USBメモリーを使って一括設定する」 p.104
- 「コンピューターを使って一括設定する」 p.105

USBメモリーを使って一括設定する

USBメモリーを使用して、同じ型番のプロジェクターにメニュー設定をコピーできます。



FAT 16/32形式でフォーマットされ、セキュリティー機能のついていないUSBメモリーを使用してください。また、空のUSBメモリーを使用してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定が正しく保存されません。

- 1** プロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケータが消えていることを確認します。
- 2** 空のUSBメモリーを、コピー元のプロジェクターのUSB-A端子に直接接続します。
- 3** リモコンまたは操作パネルの【Esc】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。
- 4** インジケータがすべて点灯したら、【Esc】ボタンを離します。インジケータが点滅に変わると、一括設定ファイルがUSBメモリーに書き込まれます。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

⚠ 注意

ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

- 5** USBメモリーを取り外します。



一括設定ファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときは、半角英数字のみを使用してPJCONFDATAの後に文字列を追加します。ファイル名のPJCONFDATAの部分を変更すると、ファイルが正しく認識されないことがあります。

- 6** コピー先のプロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。
- 7** 一括設定ファイルが保存されているUSBメモリーを、コピー先のプロジェクターのUSB-A端子に接続します。
- 8** リモコンまたは操作パネルの【Menu】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。
- 9** インジケーターがすべて点灯したら、【Menu】ボタンを離します。インジケーターが点滅に変わると、一括設定の書き込みが始まります。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

注意

ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードやUSBメモリーを取り外さないでください。電源コードやUSBメモリーを取り外すと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

- 10** USBメモリーを取り外します。

コンピューターを使って一括設定する

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して、同じ型番のプロジェクターにメニュー設定をコピーできます。



USBケーブルを使用した一括設定機能は、以下のバージョンで使用できます。

- Windows 8.1以降
- macOS 10.13.x以降

- 1** プロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。
- 2** コンピューターのUSB端子とコピー元のプロジェクターのService端子を、USBケーブルで接続します。
- 3** リモコンまたは操作パネルの【Esc】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。
- 4** インジケーターがすべて点灯したら、【Esc】ボタンを離します。コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。
- 5** リムーバブルディスクを開き、一括設定ファイルをコンピューターにコピーして保存します。



一括設定ファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときは、半角英数字のみを使用してPJCONFDATAの後に文字列を追加します。ファイル名のPJCONFDATAの部分を変更すると、ファイルが正しく認識されないことがあります。

- 6** コンピューター上でUSB機器の取り外し (Windows)、またはリムーバブルディスクの取り出し (Mac) をします。
- 7** USBケーブルを取り外します。プロジェクターがスタンバイ状態になります。
- 8** コピー先のプロジェクターから電源コードを外し、すべてのインジケーターが消えていることを確認します。

- 9 USBケーブルを、コンピューターのUSB端子とコピー先のプロジェクターのService端子に接続します。
- 10 リモコンまたは操作パネルの【Menu】ボタンを押したまま、電源コードをプロジェクターに接続します。
- 11 インジケータがすべて点灯したら、【Menu】ボタンを離します。コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。
- 12 コンピューターに保存した一括設定ファイル（PJCONFDATA.bin）を、リムーバブルディスクの最上位のフォルダーにコピーします。



一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをリムーバブルディスクにコピーしないでください。

- 13 コンピューター上でUSB機器の取り外し（Windows）、またはリムーバブルディスクの取り出し（Mac）をします。
- 14 USBケーブルを取り外します。
インジケータが点滅になると、一括設定の書き込みが始まります。書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

⚠ 注意

ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。

一括設定でエラーが発生したときは

一括設定でエラーが発生したときは、インジケータでお知らせします。インジケータの状態をご確認ください。

インジケータの状態	状態と対処方法
<ul style="list-style-type: none"> • レーザー：橙 速点滅 • 温度：橙 速点滅 	<p>一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーが正しく接続されていない可能性があります。</p> <p>USBメモリーを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 電源：青 速点滅 • ステータス：青 速点滅 • レーザー：橙 速点滅 • 温度：橙 速点滅 	<p>一括設定ファイルの書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。</p> <p>ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。</p>

▶ 関連項目

- 「一括設定でエラーが発生したときは」 p.106

プロジェクターをメンテナンスする

プロジェクターのメンテナンス方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「プロジェクターのメンテナンス」 [p.108](#)
- 「レンズを清掃する」 [p.109](#)
- 「本機を清掃する」 [p.110](#)
- 「エアフィルターと吸排気口をメンテナンスする」 [p.111](#)
- 「液晶パネルの色ずれを補正する（液晶アライメント）」 [p.116](#)
- 「ファームウェアを更新する」 [p.118](#)

プロジェクターのレンズは定期的に掃除する必要があります。また、エアフィルターや吸排気口も掃除して、本機の内部温度が上昇しないようにしてください。

交換が必要な部品は、エアフィルターとリモコンの電池のみです。他の部品を交換する必要があるときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

警告

掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。また、取扱説明書で指示している場合を除き、本機のケースを開けないでください。内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。

プロジェクターのレンズは定期的に掃除し、表面に付着したホコリや汚れに気付いたときにも掃除してください。

- レンズのホコリや汚れは、清潔で乾いた市販のメガネ拭きなどで軽く拭き取ってください。
- ホコリやゴミが多いときは、ブロアーで取り除いてからレンズを拭いてください。

警告

- レンズを掃除するときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてから行ってください。
- レンズに付着したゴミ・ホコリの除去にエアダスターなどの可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機の内部は高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

- 光源消灯後すぐにレンズを拭かないでください。レンズが傷つく原因になります。
- レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。



レンズを掃除するときは、レンズシャッターを手動で開けてください。お手入れ後はレンズシャッターを閉めてください。

本機の掃除をするときは、本機の電源をオフにして電源コードを抜いてください。

- 本機のコリや汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。本機に液体を直接スプレーしないでください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。本機のケースが変質、変色することがあります。また、エアダスターも使用しないでください。

エアフィルターは定期的にメンテナンスしてください。プロジェクターの内部温度が高くなっていることを示すメッセージが表示されたら、エアフィルターを掃除してください。エアフィルターの掃除は5,000時間を目安に行ってください。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除してください。（大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2 mg/m3の環境下での使用を想定しています。）

注意

定期的にメンテナンスをしないと、プロジェクターの内部温度が高くなったときにメッセージが表示されます。内部の温度が上昇すると、故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。

▶ 関連項目

- 「エアフィルターと吸気口を清掃する」 p.111
- 「エアフィルターを交換する」 p.113

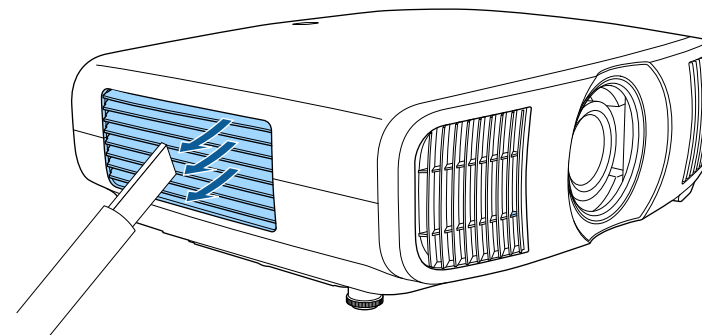
エアフィルターと吸気口を清掃する

以下の場合、エアフィルターを清掃してください。

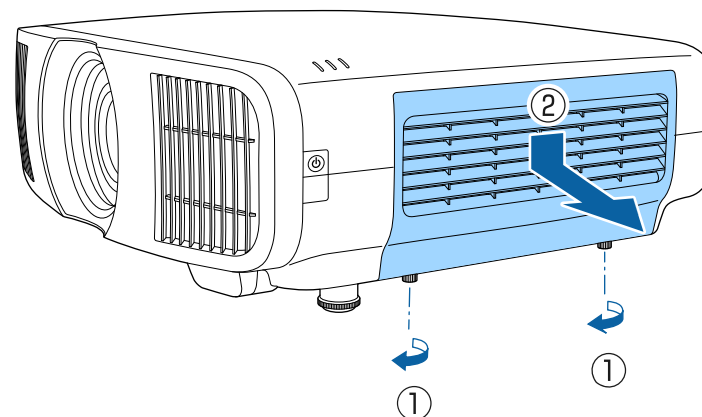
- エアフィルターや吸気口が汚れたとき
- 清掃を促すメッセージが表示されたとき

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

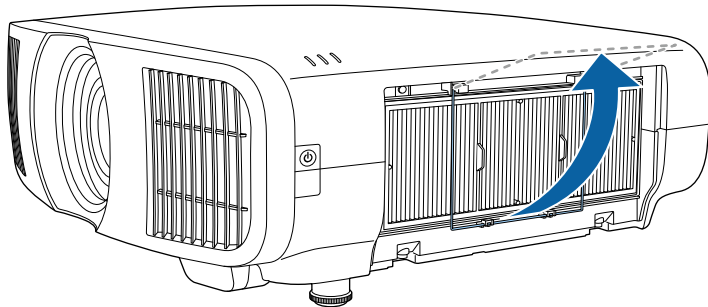
2 掃除機、またはブラシで丁寧にホコリを取ります。



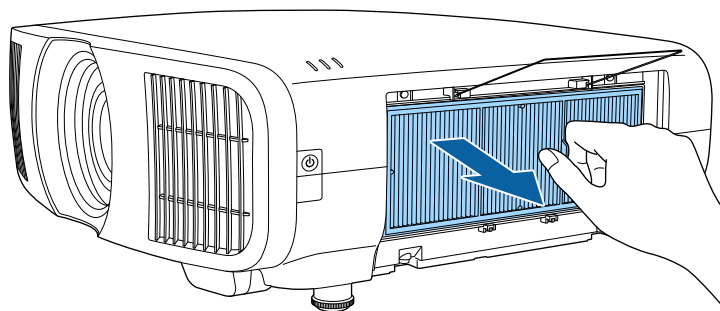
3 固定ネジをゆるめて、エアフィルターカバーを外します。



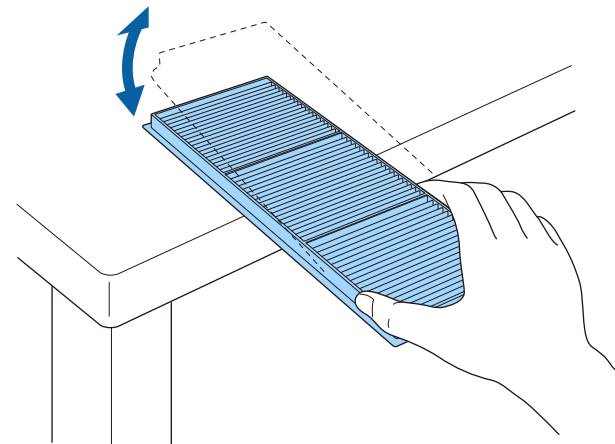
4 留め金を開きます。



5 エアフィルターを取り外します。



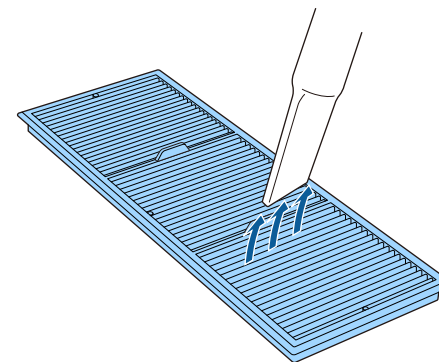
6 エアフィルターの両端を4~5回軽く叩いて、ホコリを落とします。



注意

強く叩きすぎると、エアフィルターが割れて正しく装着できなくなることがあります。

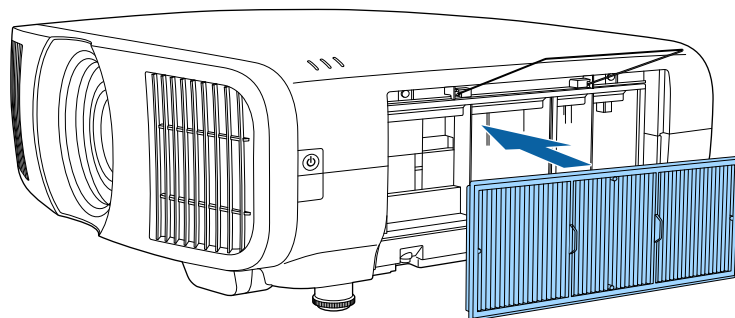
7 掃除機でエアフィルターに残ったホコリを表側（ツメのある面）から吸い取ります。



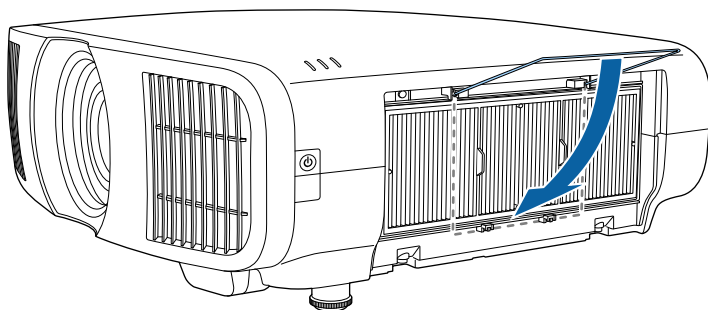
注意

- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。
- エアダスターは使用しないでください。可燃性の物質が残留したり、精密部分にホコリが入り込むおそれがあります。

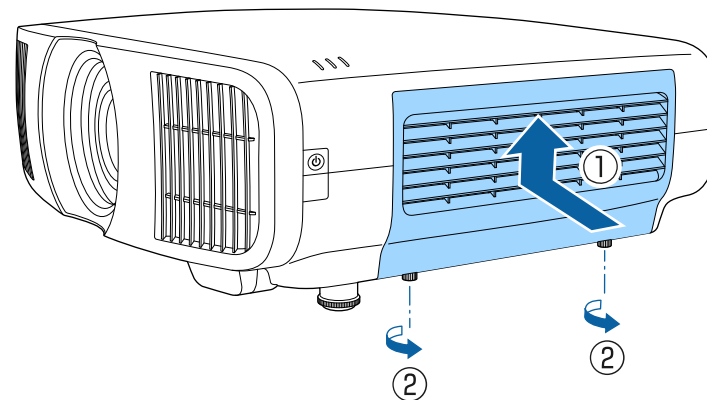
8 エアフィルターを取り付けます。



9 カチッと音がするまで留め金を閉めます。



10 エアフィルターカバーを閉めて、固定ネジを締めます。



エアフィルターを交換する

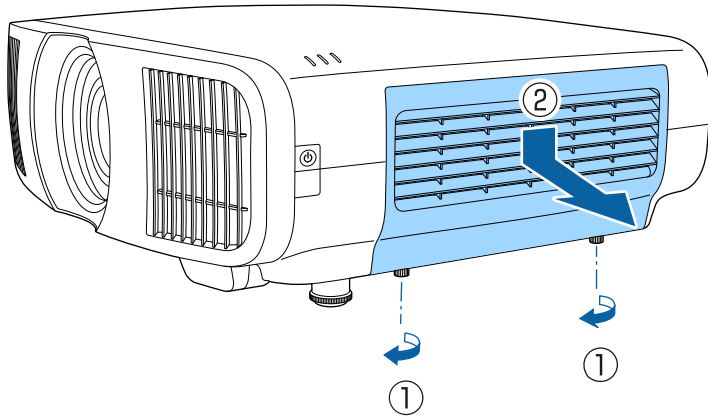
以下の場合、エアフィルターを交換してください。

- エアフィルターの清掃後に、清掃または交換を促すメッセージが表示される
- エアフィルターが破損している

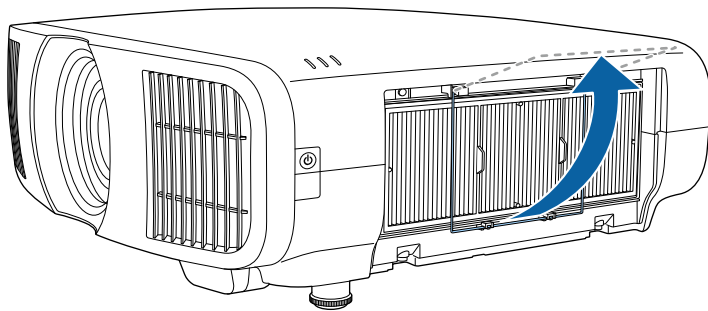
本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

1 本機の電源を切り、電源コードを抜きます。

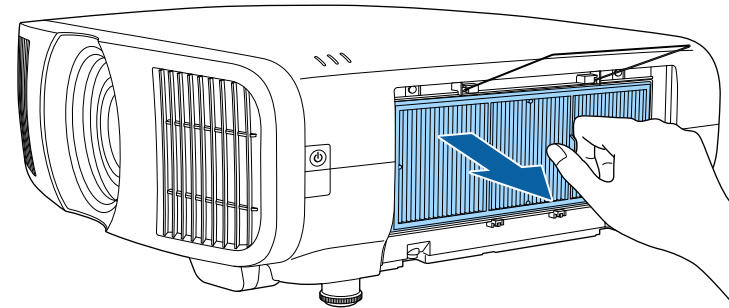
2 固定ネジをゆるめて、エアフィルターカバーを外します。



3 留め金を開きます。



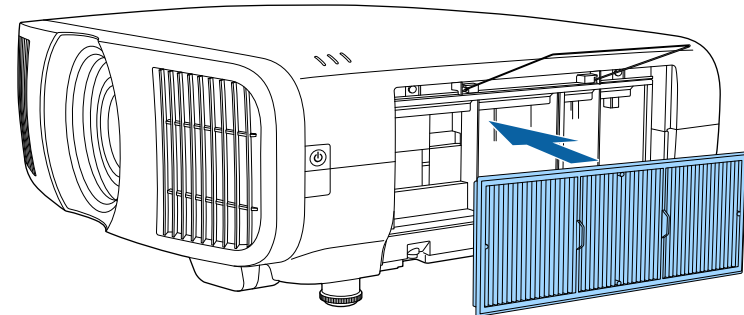
4 エアフィルターを取り外します。



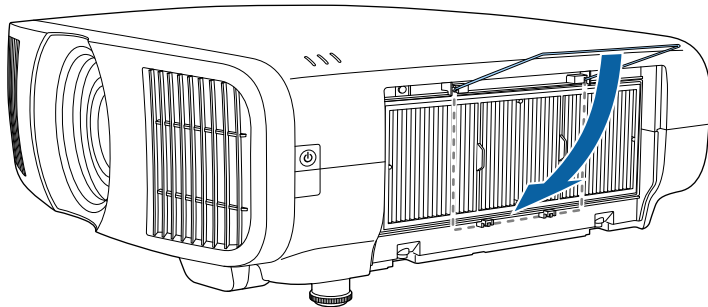
使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。

- フィルターの枠：ポリプロピレン
- フィルター：ポリプロピレン

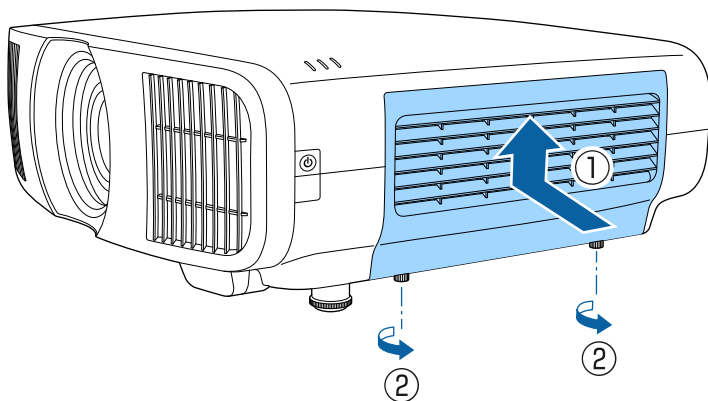
5 新しいエアフィルターを取り付けます。



- 6** カチッと音がするまで留め金を閉めます。



- 7** エアフィルターカバーを閉めて、固定ネジを締めます。



液晶アライメント機能を使って、液晶パネルの画素の色ずれ（赤・青）を補正します。水平・垂直方向に0.125画素ずつ、それぞれ±3画素の範囲内で調整できます。



- 調整できる色は赤と青です。緑は基準色パネルのため、調整できません。
- 液晶アライメントでの調整後は、映像が劣化することがあります。
- 画面からはみ出した画素分の映像は表示されません。

1 【Menu】ボタンを押し、[表示]メニューを選択して【Enter】ボタンを押します。

よく使う項目	表示	
映像調整	無信号時画面	青
信号入出力	スタートアップ表示	オン
設置	メッセージ表示	オン
表示	メニューカラー	白
動作	スタンバイ確認	オン
管理	液晶アライメント	オフ
ネットワーク	表示初期化	
メモリー	動作	
初期・全体設定	ダイレクトパワーオン	オフ
	スリープモード	オン
	スリープモード時間	10分
	待機モード	通信オン
	インジケータ表示	オン
	トリガーアウト	オフ
	方向ボタン反転	オフ
	動作初期化	
	管理	

2 [液晶アライメント] を選択して【Enter】ボタンを押します。

3 [液晶アライメント] を選択して、[オン] に設定します。

よく使う項目	無信号時画面	青
映像調整	スタートアップ表示	オン
信号入出力	メッセージ表示	オン
設置	メニューカラー	白
表示	スタンバイ確認	オン
動作	液晶アライメント	オン
管理	調整色	R
ネットワーク	パターン色	R/G/B
メモリー	調整開始	
初期・全体設定	メモリー	
	初期化	
	表示初期化	
	動作	
	ダイレクトパワーオン	オフ
	スリープモード	オン
	スリープモード時間	10分
	待機モード	通信オン
	インジケータ表示	オン
	トリガーアウト	オフ

4 [調整色] を選択して、以下のいずれかを選択します。

- [R]：赤を調整します。
- [B]：青を調整します。

5 [パターン色] を選択して、調整時に表示するグリッドの色を選択します。[調整色] の設定によって選択できる色は異なります。

- [R/G/B]：グリッドは白で表示されます。
- [R/G]：グリッドは黄色で表示されます。
- [G/B]：グリッドはシアンで表示されます。

6 [調整開始] を選択して【Enter】ボタンを押します。

- 7** 次のいずれかを選択します。
- 液晶パネル全体の調整をするときは [画面全体をシフトする] を選択して、手順8に進みます。
 - より詳細な調整をするときは [4隅を調整する] を選択して、手順10に進みます。

- 8** リモコンの矢印ボタンを使って [調整色] で選択した色を調整し、【Enter】ボタンを押します。



調整結果が画面全体のグリッドに反映されます。

- 9** 次のいずれかを選択します。
- より詳細な調整をするときは [4隅を調整する] を選択します。
 - 終了するときは [終了] を選択します。

- 10** リモコンの矢印ボタンを使って、オレンジの四角で表示されたコーナーの色を調整し、【Enter】ボタンを押します。

- 11** 4隅の調整が終わったら【Enter】ボタンを押します。

- 12** 次のいずれかを選択します。
- さらに調整が必要なときは [交点を選択して調整] を選択します。リモコンの矢印ボタンを使って、調整が必要な交点を選択し、【Enter】ボタンを押します。調整を行い、もう一度【Enter】ボタンを押します。同様の手順で他の交点を調整します。
 - 終了するときは [終了] を選択します。

- 13** 調整結果を保存するときは、[メモリー] > [メモリー保存] を選択します。

[初期・全体設定] メニューの [ファームウェア更新] を選択すると、プロジェクターがファームウェア更新モードになります。USB-A、または Service 端子を使用してファームウェアを更新します。

▶ 関連項目

- 「USBストレージを使ってファームウェアを更新する」 p.118
- 「コンピューターとUSBケーブルを使ってファームウェアを更新する」 p.119

USBストレージを使ってファームウェアを更新する

USBストレージを使って、プロジェクターのファームウェアを更新します。



ファームウェアの更新は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因でファームウェアの更新に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

- 1** エプソンのホームページからお使いのプロジェクター用のファームウェアファイルをダウンロードします。

- 2** ダウンロードしたファームウェアファイルを、USBストレージのルート（最上位のフォルダー）にコピーします。



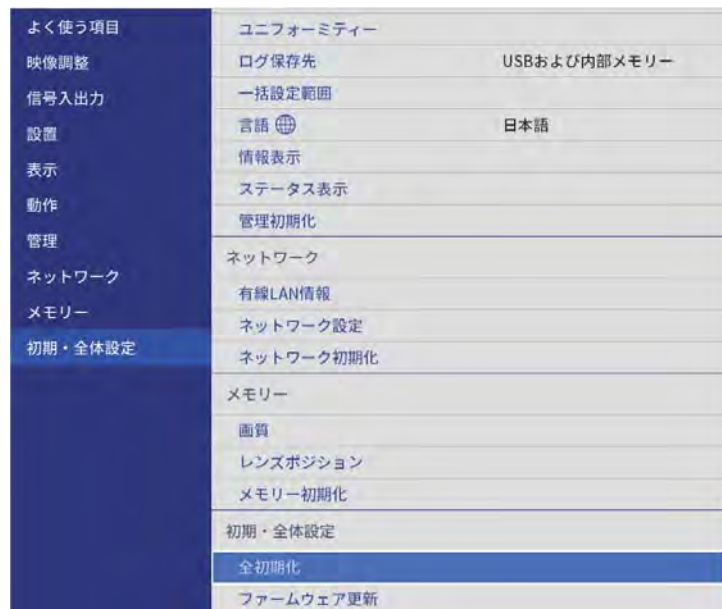
- USBストレージはFAT形式でフォーマットしたものを使用してください。
- USBストレージ内に、ファームウェアファイル以外のファイルをコピーしないでください。
- ファームウェアファイルのファイル名は変更しないでください。ファイル名を変更すると、ファームウェアの更新が開始されません。
- ダウンロードしたファームウェアファイルが、お使いのプロジェクター用のファイルであることを確認してください。ファームウェアファイルが正しくないときは、ファームウェアの更新は始まりません。

- 3** 本機のUSB-A端子にUSBストレージを接続します。



USBストレージは、プロジェクターに直接接続してください。USBハブを介してUSBストレージを接続すると、ファームウェアの更新が正常に行われなかったりすることがあります。

- 4** 【Menu】ボタンを押し、[初期・全体設定] を選択して【Enter】ボタンを押します。



プロジェクターのインジケータがすべて点灯から点滅に変わり、ファームウェアの更新が始まります。更新が正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。[動作]メニューの[ダイレクトパワーオン]が[オン]に設定されているときは、更新後に自動で電源が入ります。

更新が終わったら、[管理]メニューの[情報表示]を選択し、[バージョン]が正しく更新されているかを確認します。



すべてのインジケータが高速で点滅するときは、ファームウェアの更新が失敗した可能性があります。プロジェクターから電源コードを抜いて、もう一度差し直してください。電源コードを差し直しても点滅するときは、コンセントから電源プラグを抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

- 5** [ファームウェア更新] を選択して【Enter】ボタンを押します。

- 6** [はい] を選択して、ファームウェア更新を開始します。



- ファームウェアの更新中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。
- ファームウェアの更新中は、プロジェクターからUSBストレージを外さないでください。USBストレージを取り外すと、ファームウェアの更新が正常に行われなくなることがあります。

コンピューターとUSBケーブルを使ってファームウェアを更新する

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して、プロジェクターのファームウェアを更新します。



- ファームウェアの更新は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因でファームウェアの更新に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。
- ファームウェアを更新するには、お使いのコンピューターのOSが以下のいずれかである必要があります。
 - Windows 8.1 (32/64ビット)
 - Windows 10 (32/64ビット)
 - Windows 11 (64ビット)
 - macOS 10.13.x (64ビット)
 - macOS 10.14.x (64ビット)
 - macOS 10.15.x (64ビット)

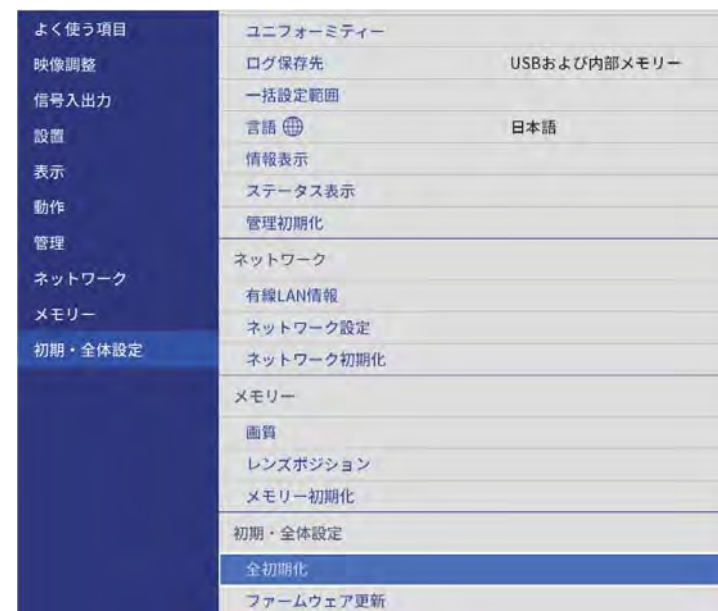
1 エプソンのホームページからお使いのプロジェクター用のファームウェアファイルをダウンロードします。



- ファームウェアファイルのファイル名は変更しないでください。ファイル名を変更すると、ファームウェアの更新が開始されません。
- ダウンロードしたファームウェアファイルが、お使いのプロジェクター用のファイルであることを確認してください。ファームウェアファイルが正しくないときは、ファームウェアの更新は始まりません。

2 USBケーブルを、コンピューターのUSB端子とコピー先のプロジェクターのService端子に接続します。

3 【Menu】 ボタンを押し、[初期・全体設定] を選択して【Enter】 ボタンを押します。



4 [ファームウェア更新] を選択して【Enter】 ボタンを押します。

5 [はい] を選択して、ファームウェア更新を開始します。



ファームウェアの更新中は、プロジェクターから電源コードを外さないでください。電源コードを外すと、プロジェクターが正常に起動しないことがあります。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯し、ファームウェア更新モードになります。コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

- 6** コンピューター上で、リムーバブルディスクのルート（最上位のフォルダー）にファームウェアファイルをコピーします。



- ファームウェア以外のファイルやフォルダーをリムーバブルディスクにコピーしないでください。ファイルやフォルダーが失われる可能性があります。
- ファームウェアファイルがリムーバブルディスクにコピーされていない状態でUSBケーブルまたは電源ケーブルが抜けたときは、自動的に電源がオフになります。はじめから操作をやり直してください。

- 7** コンピューター上で、USBデバイスの取り外しを行い、プロジェクターからUSBケーブルを外します。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯から点滅に変わり、ファームウェアの更新が始まります。更新が正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。[動作]メニューの[ダイレクトパワーオン]が[オン]に設定されているときは、更新後に自動で電源が入ります。

更新が終わったら、[管理]メニューの[情報表示]を選択し、[バージョン]が正しく更新されているかを確認します。



- すべてのインジケーターが高速で点滅するときは、ファームウェアの更新が失敗した可能性があります。プロジェクターから電源コードを抜いて、もう一度差し直してください。電源コードを差し直しても点滅するときは、コンセントから電源プラグを抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- ファームウェア更新モードのまま20分間操作が行われないと、自動的に電源がオフになります。はじめから操作をやり直してください。

困ったときに

想定されるトラブルと、その対処方法について説明します。

▶ 関連項目

- 「トラブルの対処方法」 [p.123](#)
- 「インジケータの見方」 [p.124](#)
- 「ステータス表示を確認する」 [p.126](#)
- 「電源に関するトラブル」 [p.129](#)
- 「映像に関するトラブル」 [p.130](#)
- 「音声に関するトラブル」 [p.134](#)
- 「リモコン操作に関するトラブル」 [p.135](#)
- 「HDMIリンクに関するトラブル」 [p.136](#)
- 「ネットワークに関するトラブル」 [p.137](#)

プロジェクターが正しく動作しないときは、一度電源を切り、電源コードを差し直してから再度電源を入れます。

問題が解決しないときは、以下を確認します。

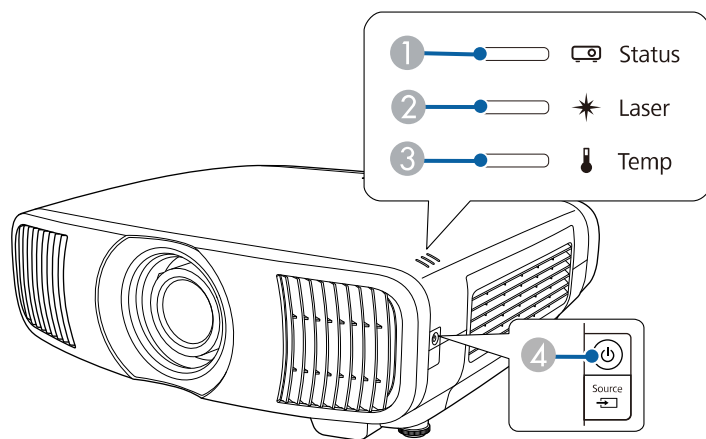
- インジケーターで本機の状態を確認する。
- 本書のトラブル一覧で対処方法を確認する。

問題が解決しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

インジケータは、本機の状態をお知らせします。インジケータの色と状態を確認し、以下の表から対処方法を確認してください。



- 各インジケータがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
- [動作]メニューの[インジケータ表示]が[オフ]に設定されている場合は、正常な投写中にインジケータがすべて消灯しています。



- ステータスインジケータ
- レーザーインジケータ
- 温度インジケータ
- 電源インジケータ

プロジェクターの状態

インジケータの状態	状態と対処方法
電源：青点灯 ステータス：青点灯 レーザー：消灯 温度：消灯	投写中の状態です。
電源：青点灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：消灯	ウォームアップ中、シャットダウン中、またはクールダウン中です。 ウォームアップ中の場合は、約30秒たつと映像が表示されます。 ウォームアップ中、シャットダウン中、またはクールダウン中は、すべてのボタン操作が無効になります。
電源：消灯 ステータス：消灯 レーザー：消灯 温度：消灯	スタンバイ状態またはスリープモードです。 電源ボタンを押すと、投写を開始します。
電源：青点滅 ステータス：消灯 レーザー：消灯 温度：消灯	ネットワーク監視の準備状態のため、すべての操作が無効になります。
電源：青点灯 ステータス：消灯 レーザー：消灯 温度：消灯	ネットワーク監視中です。

インジケータの状態	状態と対処方法
電源：青点滅 ステータス：状態依存 レーザー：状態依存 温度：橙点滅	内部温度が高くなっています。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 高温にならない環境で使用するようにします。
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：橙点灯	内部高温異常（オーバーヒート）状態です。自動的に消灯し、投写できなくなります。電源を切った状態で5分間待ち、温度を下げます。 <ul style="list-style-type: none"> エアフィルターや排気口がふさがれていないか、周辺の物や壁で通気が妨げられていないか確認します。 高温にならない環境で使用するようにします。 エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換します。 標高1,500m以上の場所でお使いのときは、「設置」メニューの「高地モード」を「オン」にします。 問題が解決しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源：青点滅 ステータス：状態依存 レーザー：橙点滅 温度：状態依存	レーザー警告です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

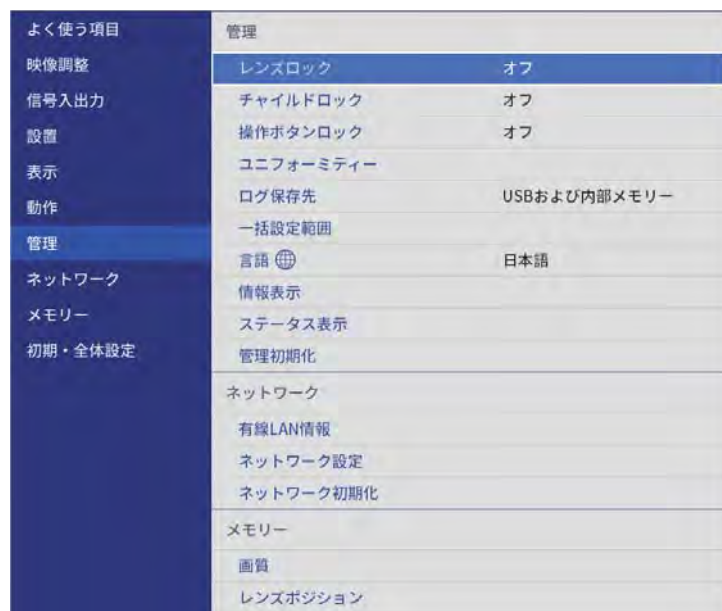
インジケータの状態	状態と対処方法
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：橙点灯 温度：消灯	レーザー異常です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：消灯 温度：橙点滅	ファン異常またはセンサー異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。
電源：消灯 ステータス：青点滅 レーザー：橙点滅 温度：消灯	内部異常状態です。 ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.96](#)
- 「設置メニュー」 [p.92](#)
- 「エアフィルターと吸気口を清掃する」 [p.111](#)
- 「エアフィルターを交換する」 [p.113](#)

本機の状態やエラーをステータス表示で確認できます。

- 1** 本機の電源を入れます。
- 2** 操作パネルまたはリモコンの【Menu】ボタンを押します。
- 3** [管理] メニューを選択して【Enter】ボタンを押します。



- 4** [ステータス表示] を選択して【Enter】ボタンを押します。
- 5** 左右ボタンを押して、カテゴリごとの情報を表示します。

▶ 関連項目

- 「ステータスに表示されるメッセージ」 p.126

ステータスに表示されるメッセージ

プロジェクターの詳細な情報をカテゴリごとに確認できます。詳しくは『ステータス表示ガイド』をご覧ください。



ステータスは英語で表示されます。

Systemカテゴリ：本機のシステム状態を表示します。

情報	説明
<1/3>	本機の主要な状態を表示します。
System Status	システムの動作状態を表示します。
Laser Status	光源の点灯状態を表示します。
Last Event	最新の警告またはエラーを表示します。
Intake Air Temp	吸気温度を表示します。
Internal Temp Lv	内部温度レベルを5段階で表示します。
<2/3>	使用時間および光源情報を表示します。
Operation Time	累積使用時間を表示します。
Laser Op. Time	レーザー光源の累積使用時間を表示します。
<3/3>	選択された入力ソースの状態を表示します。
Source	選択された入力ソースを表示します。
Signal Status	信号の判別結果を表示します。
Resolution	解像度を表示します。
Refresh Rate	リフレッシュレートと走査方式を表示します。
ColorSamp./Depth	カラーサンプリングとビット深度を表示します。
Color Space	色空間を表示します。

情報	説明
Dynamic Range	ダイナミックレンジを表示します。
Video Range	ビデオレンジを表示します。
Frame Interp.	フレーム補間機能の状態を表示します。

Versionカテゴリー：本機の製造番号とファームウェアのバージョンを表示します。

情報	説明
Serial Number	製造番号を表示します。
Main	ファームウェアのメインバージョンを表示します。
Video2	ソフトウェアのバージョンを表示します。
Sub	ソフトウェアのバージョンを表示します。
HDMI	ソフトウェアのバージョンを表示します。
Pixel Shift	ソフトウェアのバージョンを表示します。

Network Wiredカテゴリー：本機の有線LANの状態を表示します。

情報	説明
Projector Name	ネットワーク上で本機を識別するための固有の名前を表示します。
Connection Mode	有線LANの接続経路の設定を表示します。
DHCP	DHCPの設定を表示します。
IP Display	IPアドレス表示の設定を表示します。
IP Address	IPアドレスを表示します。
MAC Address	MACアドレスを表示します。

Input Signalカテゴリー：本機で選択された入力ソース信号の状態を表示します。

情報	説明
<1/3>	-
Sync Detect(5V)	信号の検出結果を表示します。
Signal Status	信号の判別結果を表示します。
Resolution	解像度を表示します。
Refresh Rate	リフレッシュレートと走査方式を表示します。
ColorSamp./Depth	カラーサンプリングとビット深度を表示します。
Color Space	色空間を表示します。
Dynamic Range	ダイナミックレンジを表示します。
Video Range	ビデオレンジを表示します。
HDCP Status/Ver	HDCPの状態とバージョンを表示します。
Trans. Type	伝送方式を表示します。
Stable Time	信号変化を起点に、現在までの使用時間を表示します。
<2/3>	-
Signal Mode	信号モードを表示します。
AVI VIC/Chk.Sum	AVI InfoFrameのVICコードとチェックサムを表示します。
CLK-MHz/Frame-Hz	ピクセルクロック周波数とリフレッシュレートの実測値を表示します。
Total-H/V	有効ピクセル数とブランキングを含めたトータルのピクセル数・ライン数を表示します。
Sync Polarity	水平・垂直同期信号の極性を表示します。
EDID Mode	EDIDのモードを表示します。
EDID HDR10+	EDID (HDR10+) のモードを表示します。
Equalizer Level	イコライザーレベルを表示します。
<3/3>	-

情報	説明
Audio Type	HDMI端子からソース機器へ送信する音声信号の種類を表示します。
Audio Freq/Depth	HDMI端子からソース機器へ送信する音声信号の周波数・ビット深度を表示します。
GCP A/V Mute	GCPパケットのA/Vミュートの状態を表示します。
DDC Status	ソース機器とのDDC通信の状態を表示します。

▶▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

電源に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶▶ 関連項目

- 「電源が入らない」 [p.129](#)
- 「予期せず電源が切れる」 [p.129](#)

電源が入らない

電源ボタンを押しても本機の電源が入らないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 電源コードが本機とコンセントに確実に接続されていることを確認します。
- 2** リモコンの電池を確認します。
- 3** 本機のボタンはセキュリティ上の目的でロックされていることがあります。[管理] メニューで [操作ボタンロック]、または [チャイルドロック] を解除するか、リモコンを使用して本機の電源を入れます。
- 4** 電源コードが故障している可能性があります。電源コードを抜いて、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

▶▶ 関連項目

- 「管理メニュー」 [p.97](#)

予期せず電源が切れる

本機の光源が予期せず消えるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 一定時間操作が行われなかったため、スリープモードになっている可能性があります。いずれかのボタンを押して、スリープモードから復帰します。スリープモードを無効にするには、[動作] メニューの [スリープモード] を [オフ] にします。
- 2** 本機の光源が消え、ステータスインジケータが点滅して温度インジケータが点灯しているときは、本機の内部高温異常（オーバーヒート）で電源がオフになっています。

▶▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.96](#)

投写映像に関するトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「映像が表示されない」 [p.130](#)
- 「映像がゆがむ」 [p.131](#)
- 「映像がぼやける」 [p.131](#)
- 「映像の一部が表示されない」 [p.131](#)
- 「映像にノイズが入る、乱れる」 [p.132](#)
- 「映像の明るさや色合いが違う」 [p.132](#)
- 「映像が上下反転して表示される」 [p.133](#)
- 「映像と音声がずれる」 [p.133](#)

映像が表示されない

映像が表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機の状態を確認します。
 - リモコンの【Blank】ボタンを押して、映像が一時的に消されていないか確認します。
 - インジケーターの色と状態を確認します。
 - スタンバイ状態、スリープモードから復帰するには、本機の電源ボタンを押します。また、接続されたコンピューターがスリープ状態でないか、黒一色のスクリーンセーバーが表示されていないか確認します。
スリープモードを無効にするには、[動作]メニューの[スリープモード]を[オフ]にします。
- 2** ケーブルの接続を確認します。
 - 必要なケーブルがすべて接続されていること、本機の電源が入っていることを確認します。
 - 本機とビデオ機器を直接接続してください。

- HDMIケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- [信号入出力]メニューで、[入力信号フォーマット]や[EDID]を正しく設定します。

- 3** ビデオ機器の状態を確認します。
 - ビデオ機器の電源が入っていることを確認し、再生ボタンを押してコンテンツを再生してみます。
 - メディアストリーミング端末から投写するときは、USB給電ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
 - 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
 - ノートパソコンから投写するときは、コンピューターの画面出力を切り替えて、プロジェクターに映像を表示します。
- 4** 次の点を確認します。
 - 本機、および接続されたビデオ機器の電源を一度切ってから、再度電源を入れます。
 - ビデオ機器のCEC電源連動機能を有効にして、電源を入れ直します。
 - コンピューターのディスプレイ解像度が本機の対応解像度、周波数と合っているか確認します。必要に応じて、コンピューターのディスプレイ解像度を変更します。(詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。)
 - 問題が解決しないときは、[初期・全体設定]メニューの[全初期化]で本機のすべての設定を初期化します。

▶ 関連項目

- 「動作メニュー」 [p.96](#)
- 「初期・全体設定メニュー」 [p.103](#)

映像がゆがむ

投写画面がゆがむときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 投写面に対してプロジェクターを平行に設置します。
- 2 [設置]メニューの[幾何学歪み補正] (EH-LS12000B)、または[タテヨコ台形補正] (EH-LS11000W) を使って、映像のゆがみを補正します。
 - [タテヨコ台形補正] を使って、映像のゆがみを補正します。
 - ☛ [設置] > [幾何学歪み補正] > [タテヨコ台形補正]
 - ☛ [設置] > [タテヨコ台形補正]
 - [Quick Corner] を使って、コーナーの形状を個別に補正します (EH-LS12000B)。
 - ☛ [設置] > [幾何学歪み補正] > [Quick Corner]
 - [ポイント補正] を使って、部分的に発生するわずかなゆがみを補正します (EH-LS12000B)。
 - ☛ [設置] > [幾何学歪み補正] > [ポイント補正]

▶ 関連項目

- 「設置メニュー」 [p.92](#)

映像がぼやける

投写映像がぼやけるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを押してピントを調整します。
- 2 投写距離の推奨範囲内に設置します。

- 3 本機のレンズを掃除します。



寒い場所から暖かい場所に持ち込んだときは、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に本機を設置するようにします。

- 4 [映像調整]メニューの[シャープネス]を調整して、投写映像の画質を向上させます。
- 5 コンピューターから映像を投写しているときは、解像度を下げるか、本機の解像度に合わせて解像度を変更します。

▶ 関連項目

- 「映像のピントを調整する」 [p.49](#)
- 「映像調整メニュー」 [p.86](#)

映像の一部が表示されない

映像が部分的にしか表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1 操作パネルまたはリモコンの【Lens】ボタンを押して、映像のサイズを調整します。
- 2 リモコンの【Aspect】ボタンを押して、アスペクト比を変更します。
- 3 正しい設置モードを選択していることを確認します。[設置]メニューの[設置モード]で選択できます。

- 4** コンピューターから投写している場合は、コンピューターのディスプレイ設定でデュアルディスプレイが無効になっているか、本機の対応解像度に合った設定がされているか確認します。(詳しくはお使いのコンピューターの取扱説明書をご覧ください。)

▶ 関連項目

- 「映像の大きさを調整する」 p.48
- 「設置メニュー」 p.92
- 「映像のアスペクト比を切り替える」 p.51

映像にノイズが入る、乱れる

投写映像に電子的な干渉（ノイズ）や妨害が入るときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ機器を接続しているケーブルの状態を確認します。ケーブルが以下の状態であることを確認してください。
- 干渉を受けないように、電源コードから離れている
 - ケーブルの両端が確実に接続されている
 - 延長ケーブルを使用していない
- 2** [映像調整] メニューの [ノイズリダクション]、[MPEGノイズリダクション]、[プログレッシブ変換] を設定します。
- ☛ [映像調整] > [イメージ強調] > [ノイズリダクション]
 - ☛ [映像調整] > [イメージ強調] > [MPEGノイズリダクション]
 - ☛ [映像調整] > [イメージ強調] > [プログレッシブ変換]
- 3** 映像のゆがみを補正したときは、[映像調整] メニューの [シャープネス] を低い値に設定して、投写映像の画質を向上させます。

- 4** [信号入出力] メニューで [入力信号フォーマット] や [EDID] を正しく設定します。
- 5** [信号入出力] メニューの [HDMI IN EQレベル] を変更します。
- 6** 延長ケーブルを使用して電源に接続しているときは、延長ケーブルを使わずに投写して、映像にノイズが入らないか確認します。
- 7** コンピューターから投写しているときは、コンピューターのディスプレイ解像度やリフレッシュレートが、本機の対応解像度やリフレッシュレートと合っているか確認します。
- 8** eARC/ARC非対応のAVアンプをHDMI2 (eARC/ARC)端子に接続すると、映像が乱れることがあります。

▶ 関連項目

- 「映像調整メニュー」 p.86
- 「信号入出力メニュー」 p.89

映像の明るさや色合いが違う

投写映像が暗すぎるとき、明るすぎるとき、また色合いが正しく表示されないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** リモコンの【Color Mode】ボタンを押して、映像と投写環境に合うカラーモードを選択します。
- 2** お使いのビデオ機器の設定を確認します。
- 3** [映像調整] メニューで [明るさ]、[コントラスト]、[色合い]、[色の濃さ]、[RGBCMY]などを設定します。

- 4** [信号入出力] メニューで [ダイナミックレンジ] を正しく設定します。
- 5** [信号入出力] メニューで [入力信号フォーマット] や [EDID] を正しく設定します。
- 6** 必要なケーブルが本機とビデオ機器に確実に接続されていることを確認します。ケーブルが長いときは、短いケーブルで接続します。
- 7** 投写距離の推奨範囲内に設置します。

▶ 関連項目

- 「映像調整メニュー」 [p.86](#)
- 「信号入出力メニュー」 [p.89](#)

- 2** [信号入出力] メニューの [映像処理] を [速い] に設定します。
- 3** 接続機器の音声出力の設定を変更してください。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

映像が上下反転して表示される

正しい設置モードを選択します。

☛ [設置] > [設置モード]

▶ 関連項目

- 「設置メニュー」 [p.92](#)

映像と音声がずれる

投写映像と音声がずれるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** [信号入出力] メニューの [映像処理] が [きれい] のときは、[映像調整] メニューの [フレーム補間] を [オフ] に設定します。

音が出ない、小さすぎるなどの問題があるときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** 本機とビデオ/オーディオ機器のケーブルが正しく接続されているか確認します。
- 2** ビデオ/オーディオ機器の音量が大きくなっているか、音声出力が正しく設定されているか確認します。
- 3** eARC/ARC対応のAVアンプやスピーカーをお使いのときは、以下をご確認ください。
 - 本機のeARC/ARC対応端子に接続されているか確認します。
eARC/ARCの対応音声形式について詳しくは、『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。
 - お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
 - お使いの機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

本機がリモコン操作に反応しないときは、次の対処方法を確認してください。



リモコンを紛失した場合は、新たにリモコンをお買い求めいただけます。

- 1** リモコンの電池が正しくセットされていること、電池が切れていないことを確認します。必要に応じて、電池を交換します。
- 2** リモコンのボタンが押し込まれた状態になっていないか確認します。その状態ではリモコンが操作できないことがあります。ボタンを元の状態に戻してください。
- 3** リモコン信号が届く距離、角度からリモコンを操作します。
- 4** インジケータの色と状態を確認します。
- 5** 蛍光灯の強い光、直射日光、赤外線機器の信号が、本機のリモコン受光部に干渉することがあります。照明の明るさを落とす、または直射日光や赤外線干渉を避けられる場所に本機を移動してください。

▶ 関連項目

- 「リモコンを操作する」 [p.32](#)
- 「リモコンに電池を取り付ける」 [p.31](#)
- 「インジケータの見方」 [p.124](#)

HDMIリンクで接続機器を操作できないときは、次の対処方法を確認してください。

- 1** お使いのケーブルがHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。
- 2** 接続機器がHDMI CEC規格に準拠しているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 3** 接続機器が「接続機器一覧」に表示されているか確認します。
HDMI CEC規格に準拠していない機器は「接続機器一覧」に表示されません。HDMI CEC規格に準拠した機器をお使いください。
☛ 「信号入出力」 > 「HDMIリンク」 > 「接続機器一覧」
- 4** HDMIリンクを使うために必要なケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 5** 接続機器の電源がスタンバイ状態になっているか確認します。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- 6** 新しく機器を接続したり、接続を変更した後に操作できないときは、接続機器のCEC機能を設定し直して、再起動します。

▶ 関連項目

- 「信号入出力メニュー」 [p.89](#)
- 「HDMIリンク機能を使って接続機器を操作する」 [p.66](#)

ネットワーク経由でプロジェクターを使用するときに想定されるトラブルの対処方法を確認してください。

▶ 関連項目

- 「Webブラウザを使って設定を変更できない」 [p.137](#)

Webブラウザを使って設定を変更できない

Webブラウザを使って本機の設定を変更できないときは、正しいユーザー名とパスワードを確認します。

- ユーザー名を確認してください。(ユーザー名は変更できません。)
 - [ベーシックコントロール] にアクセスするときのユーザー名：**EPSONREMOTE**
 - その他の画面にアクセスするときのユーザー名：**EPSONWEB**
- パスワードには、[ネットワーク] メニューで設定しているパスワードを入力します。デフォルトのパスワードは設定されていません。
- お使いのWebブラウザで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、[Epson Web Control] 画面を表示できません。プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。
- [動作] メニューの [待機モード] が [通信オン] のスタンバイ状態のとき、接続しているネットワーク機器の電源が入っていることを確認します。ネットワーク機器の電源を入れた後、プロジェクターを再起動してください。



ユーザー名、パスワードの大文字小文字は区別されます。

付録

お使いの製品の仕様や使用上の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「オプション・消耗品一覧」 [p.139](#)
- 「スクリーンサイズと投写距離」 [p.140](#)
- 「対応解像度」 [p.142](#)
- 「本機仕様」 [p.143](#)
- 「外形寸法図」 [p.145](#)
- 「安全規格対応シンボルマークと説明」 [p.146](#)
- 「レーザー製品を安全にお使いいただくために」 [p.148](#)
- 「用語解説」 [p.150](#)
- 「一般のご注意」 [p.152](#)

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。

これらのオプション品は2024年7月現在のものです。

予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

▶ 関連項目

- 「設置用金具」 [p.139](#)
- 「外付けオプション」 [p.139](#)
- 「消耗品」 [p.139](#)

設置用金具

天吊金具 **ELPMB22**

薄型天吊金具 **ELPMB30**

天井に取り付けるときに使用します。

セーフティーワイヤーセット **ELPWR01**

落下防止のため、本機と天吊り金具をつなぐときに使用します。

パイプ**450 (450mm)** **ELPFP13**

パイプ**700 (700mm)** **ELPFP14**

高天井および化粧天井に取り付けるときに使用します。



天吊り設置には特別な技術が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

外付けオプション

Android TV™ 端末 **ELPAP12**

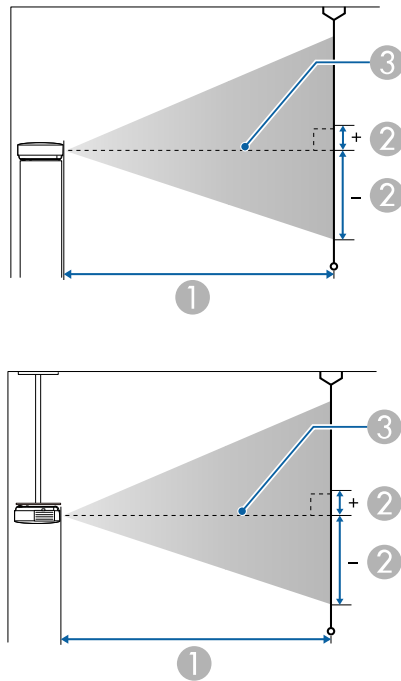
メディアストリーミング端末です。オンラインコンテンツを視聴するときに使います。

消耗品

エアフィルター **ELPAF62**

使用済みエアフィルターと交換します。

この表に従って、スクリーンからプロジェクターまでの距離を、投写映像の大きさに応じて決めます。



- ① 投写距離 (cm)
- ② レンズ中心からスクリーン下端までの高さ (上下レンズシフトの設定により変わります) (cm)
- ③ レンズの中心

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	上下レンズシフト 最下~最上
50型	111 × 62	148 - 313	-91 - 29
60型	133 × 75	178 - 376	-109 - 35

16:9スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	上下レンズシフト 最下~最上
80型	177 × 100	239 - 503	-146 - 46
100型	221 × 125	300 - 630	-182 - 58
150型	332 × 187	452 - 947	-273 - 86
200型	443 × 249	604 - 1264	-364 - 115
250型	553 × 311	756 - 1582	-455 - 144
300型	664 × 374	908 - 1899	-547 - 173

4:3スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	上下レンズシフト 最下~最上
50型	102 × 76	182 - 384	-111 - 35
60型	122 × 91	219 - 462	-134 - 42
80型	163 × 122	293 - 617	-178 - 56
100型	203 × 152	368 - 772	-223 - 71
120型	244 × 183	442 - 927	-268 - 85
150型	305 × 229	554 - 1160	-334 - 106
200型	406 × 305	740 - 1548	-446 - 141
220型	447 × 335	814 - 1704	-491 - 155
244.8型	497 × 373	906 - 1896	-546 - 173

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短 (ワイド) ~ 最長 (テレ)	上下レンズシフト 最下~最上
50型	108 × 67	160 - 339	-98 - 31

16:10スクリーンサイズ		①	②
		最短（ワイド）～最長（テレ）	上下レンズシフト 最下～最上
60型	129 × 81	193 - 407	-118 - 37
80型	172 × 108	259 - 544	-158 - 50
100型	215 × 135	324 - 682	-197 - 62
120型	258 × 162	390 - 819	-236 - 75
150型	323 × 202	489 - 1024	-295 - 93
200型	431 × 269	653 - 1367	-394 - 125
250型	538 × 337	817 - 1710	-492 - 156
277.2型	597 × 373	907 - 1897	-546 - 173

映像信号ごとのリフレッシュレートと解像度についての詳細は『Supplemental A/V Support Specification』をご覧ください。

▶▶ 関連項目

- 「ドキュメント類の最新バージョンを入手する」 [p.8](#)

商品名	EH-LS12000B/EH-LS11000W
外形サイズ	幅520×高さ169×奥行き447 mm (突起部を含まず)
液晶パネルサイズ	0.74型
表示方式	3LCD
有効画素数	Full HD (横1,920×縦1,080ドット) ×3
スクリーン解像度	4,147,200ピクセル*
フォーカス調整	電動
ズーム調整	1.0~2.1 (光学ズーム)
レンズシフト	電動 上下方向最大約±96.3% 左右方向最大約±47.1%
光源	レーザーダイオード
光源出力	EH-LS12000B : 最大80 W EH-LS11000W : 最大72 W
波長	449 - 461nm
レーザークラス (内部のレーザー光源)	クラス4
光源使用時間**	最大約20,000時間
スピーカー	なし
電源	EH-LS12000B : 100-240V AC±10% 50/60Hz 3.2 - 1.5 A EH-LS11000W : 100-240V AC±10% 50/60Hz 3.2 - 1.5 A

動作時消費電力 (100-120Vエリア)	明るさが100%のとき：311 W 明るさが50%のとき：204 W
動作時消費電力 (220-240Vエリア)	明るさが100%のとき：302 W 明るさが50%のとき：198 W
待機時消費電力	通信オン：2.0 W 通信オフ：0.4 W
動作高度	標高 0~3,048 m
動作温度範囲	標高0~2,286 m：+5~+35°C (湿度20~80%、結露しないこと) 標高2,287~3,048 m：+5~+30°C (湿度20~80%、結露しないこと)
保存温度範囲	-10~+60°C (湿度10~90%、結露しないこと)
質量	約12.7 kg

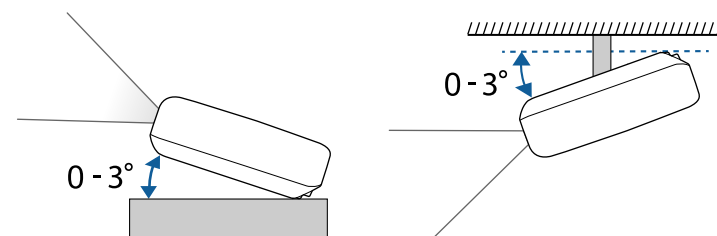
* ピクセルシフト技術により、4K相当の解像度を実現しています。

** 光源の明るさが半減するまでの目安時間です。(大気中に含まれる粒子物質が0.04~0.2mg/m³の環境下での使用を想定しています。使用条件や使用環境によって目安時間は変動します。)

定格ラベルは本機の底面に貼り付けられています。

傾斜角度

下図で示す角度以上に傾けてお使いになると、故障や事故の原因となることがあります。



▶ 関連項目

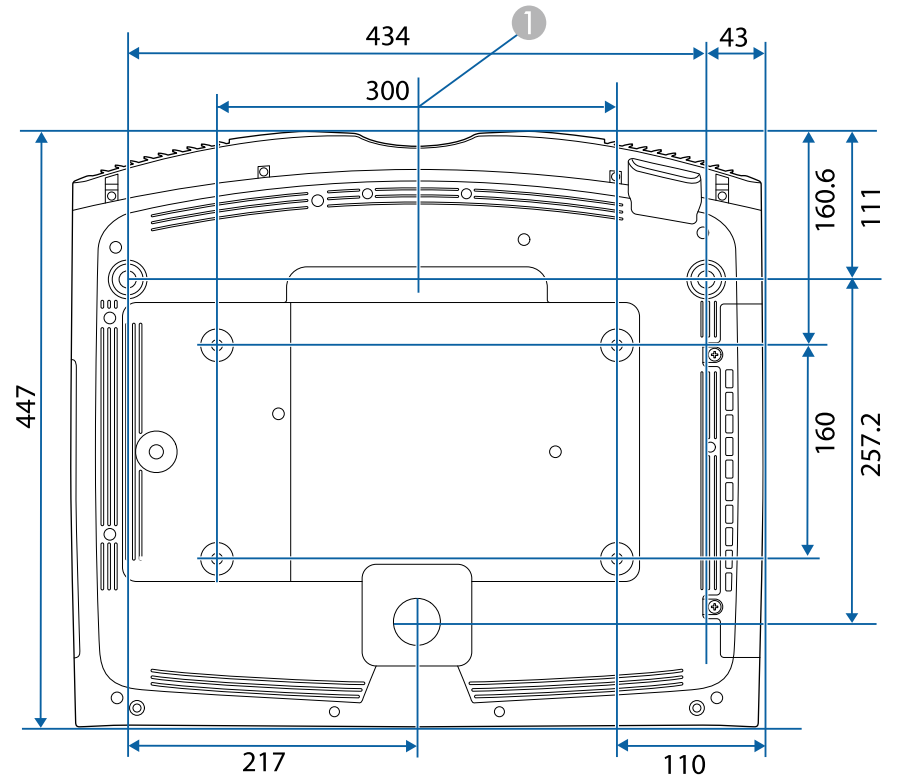
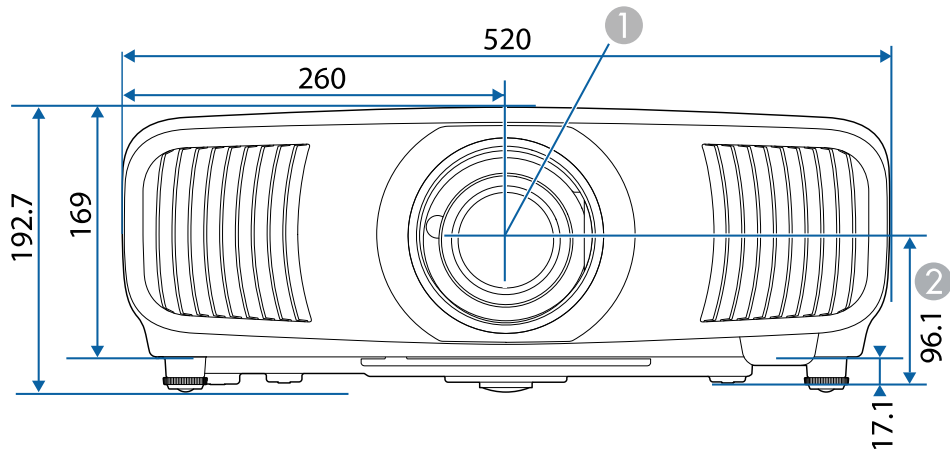
- 「接続端子」 p.144

接続端子

USB-A端子	1系統	USBコネクタ (Aタイプ)
Service端子	1系統	USBコネクタ (Mini-B)
Trigger Out端子	1系統	ステレオミニピンジャック
LAN端子	1系統	RJ-45
Opt.HDMI (300mA)端子	1系統	光HDMIケーブル用給電端子
HDMI1端子	1系統	HDMI
HDMI2 (eARC/ARC)端子	1系統	HDMI
RS-232C端子	1系統	ミニD-Sub 9pin (オス)



USB-A端子とService端子はUSB 2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。







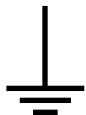



- ① レンズの中心（レンズが中心位置にあるとき）
- ② レンズの中心から天吊り固定部までの寸法

単位：mm

製品上にシンボルマークが表示されている場合は、それぞれ以下の意味を持っています。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
①		IEC60417 No. 5007	電源ON 電源への接続を示す。
②		IEC60417 No. 5008	電源OFF 電源からの切り離しを示す。
③		IEC60417 No. 5009	スタンバイ 機器・装置の一部だけを通電状態にし、機器・装置を待機状態にするためのスイッチまたはその位置を示す。
④		ISO7000 No. 0434B, IEC3864-B3.1	注意 製品取扱時の全般的な注意を示す。
⑤		IEC60417 No. 5041	注意（高温） 高温の可能性があり、不注意に触れない方がよい箇所であることを示す。
⑥		IEC60417 No. 6042 ISO3864-B3.6	注意（感電危険） 感電（電撃）の危険性がある機器・装置であることを示す。
⑦		IEC60417 No. 5957	屋内専用 屋内使用専用を目的とする電気機器・装置であることを表す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
⑧		IEC60417 No. 5926	直流電源コネクタ極性 直流電源を接続してもよい機器のプラスおよびマイナス電極の接続を示す。
⑨		—	No. 8と同じ
⑩		IEC60417 No. 5001B	電池（一般） 電池を電源とする機器・装置に使用する。電池装着部分のカバーまたは接続端子を示す。
⑪		IEC60417 No. 5002	電池の向き 電池ケース本体および電池ケース内での向きを示す。
⑫		—	No. 11と同じ
⑬		IEC60417 No. 5019	保護接地 障害発生時の電撃（感電）保護用外部導体への接続端子または保護接地極の端子であることを示す。
⑭		IEC60417 No. 5017	アース No. 13の使用が明示的に要請されない場合の接地（アース）端子であることを示す。
⑮		IEC60417 No. 5032	交流 交流専用の機器・装置であり、交流に対応する端子であることを示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
16		IEC60417 No. 5031	直流 直流専用の機器・装置であり、直流に対応する端子であることを示す。
17		IEC60417 No. 5172	クラスII 機器 JIS C 9335-1/JIS C 8105-1でクラスII 機器と規定した安全性要求事項に適合する機器・装置であることを示す。
18		ISO 3864	一般的な禁止 特定しない一般的な禁止通告を示す。
19		ISO 3864	接触禁止 機器の特定の場所に触れることによって傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。
20		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止を示す。
21		—	プロジェクターの上に物を置いたはならないことを示す。
22		ISO3864 IEC60825-1	注意（レーザー放射） 製品上に注意が必要なレベルのレーザー放射部があることを示す。
23		ISO 3864	分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止通告を示す。

No.	シンボルマーク	対応規格	説明
24		IEC60417 No. 5266	待機、一部待機 機器・装置の一部が準備状態であることを示す。
25		ISO3864 IEC60417 No. 5057	注意（可動部品） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
26		IEC60417 No. 6056	注意（可動ファンのブレード） 保護規定上、可動部品から離れなければならないことを示す。
27		IEC60417 No. 6043	注意（鋭利な角） 保護規定上、鋭利な角には触れてはいけないことを指示する。
28		—	プロジェクター動作中の投写レンズ覗きこみ禁止。
29		ISO7010 No. W027 ISO 3864	警告、光放射（UV、可視光、IRなど） 光放射の近くにいるときは、目や肌に負傷を与えないように注意してください。
30		IEC60417 No. 5109	居住区域使用禁止 居住区域での使用に適さない電気機器・装置であることを示す。

本機はJIS C 6802:2014に適合したクラス1レーザー製品です。

以下の注意事項を必ず守ってご使用ください。

⚠ 警告

- 本機のケースを開けないでください。内部に高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 本機の光源を直接見ないでください。強い光が視力障害などの原因となります。
- 投写中は、光源から放射される光をのぞかないでください。(RG2 IEC/EN 62471-5:2015に準拠)

⚠ 注意

本機を廃棄する場合は分解しないでください。国や地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。



本機的光源はレーザーを使用しています。レーザーには以下のような特性があります。

- 使用環境によって、光源の輝度が低下します。温度が高くなるほど、輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間の経過にともない、光源の輝度が低下します。使用時間と輝度低下の関係は明るさ設定で変更できます。

▶ 関連項目

- 「レーザー警告ラベル」 [p.148](#)

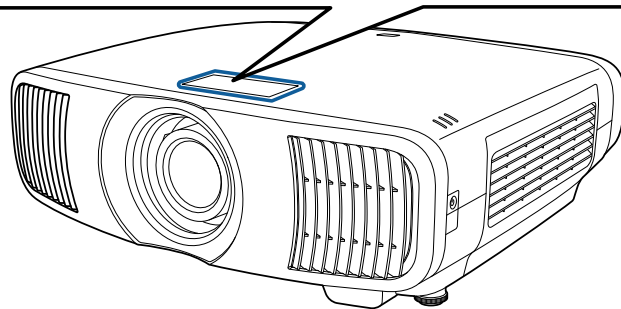
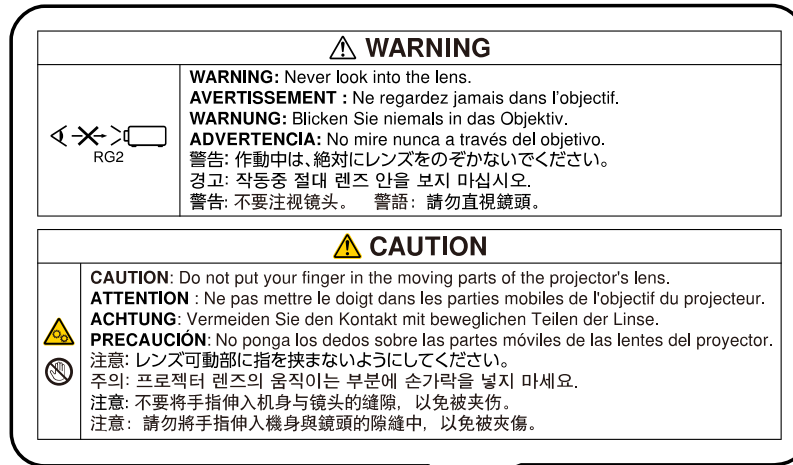
レーザー警告ラベル

本機には以下のレーザー警告ラベルが貼られています。

内部



上面



- 投写中はレンズをのぞきこまないでください。また、ルーペや望遠鏡などの光学機器を用いてレンズをのぞかないでください。視覚障害の原因になることがあります。

- 投写中は本機のレンズをのぞき込まないでください。目に損傷を与えるおそれがあります。特にお子様やペットの行動にご注意ください。
- 本機から離れた場所でリモコンを使って電源を入れるときは、レンズをのぞいている人がいないことを確認してください。
- 小さなお子様には操作させないでください。操作する可能性がある場合は、必ず保護者が同伴してください。

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。詳細は市販の書籍などでご確認ください。

アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横：縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といっています。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がはっきり見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といっています。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、IPアドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
Full HD	画面サイズの規格で、横1,920ドット×縦1,080ドットのことを呼びます。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスクによって分割したネットワーク（サブネット）を超えて通信するためのサーバー（ルーター）のことです。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略です。 DVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。 本機のHDMI端子はHDCPに対応しているため、HDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。 ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDMI™	High Definition Multimedia Interfaceの略で、デジタル家電やコンピューター向けの規格です。HD映像とマルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送できます。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送できます。デジタル信号の暗号化機能もあります。

HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> 垂直解像度720p、1080i以上（pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査） 画面のアスペクト比は16:9
インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。 1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき（フリッカー）が出やすくなります。
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。 そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。 そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。 その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ（Hz）で表します。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム（OS）やインターネットで簡単に扱うために規定された、色空間に関する国際標準です。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。

サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク（サブネット）のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
----------	---

本機をお使いの際の注意事項については、以下の項目をご確認ください。

▶ 関連項目

- 「使用限定について」 p.152
- 「本機を日本国外へ持ち出す場合の注意」 p.152
- 「瞬低（瞬時電圧低下）基準について」 p.152
- 「JIS C 61000-3-2適合品」 p.152
- 「表記について」 p.152
- 「商標について」 p.153
- 「ご注意」 p.153
- 「著作権について」 p.153

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

- 日本国内向けの本製品を海外で利用した場合は、保証の対象外となります。国内で販売する本製品は、日本国内使用を意図した安全規格基準のみ対応しているため、日本国以外でのご使用は違法となる場合があります。また、国や地域によっては電波使用制限があるため、ネットワーク機能を海外で使った場合、罰せられることがあります。

- 電源コードは日本国内向けの電源仕様に基づき同梱されています。本機を日本国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低（瞬時電圧低下）基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

- Microsoft® Windows® 8.1 operating system
- Microsoft® Windows® 10 operating system
- Microsoft® Windows® 11 operating system

本書では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 8.1」、「Windows 10」、「Windows 11」と表記しています。また、これらを総称する場合は「Windows」と表記します。

- macOS 10.13.x
- macOS 10.14.x
- macOS 10.15.x
- macOS 11.0.x


- macOS 12.0.x
- macOS 13.0.x

本書では、上記各オペレーティングシステムを総称する場合は「Mac」と表記します。

商標について

Mac、OS X、macOSは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標、または登録商標です。

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標、または登録商標です。 

PJLinkは、日本、米国、その他の国や地域における商標、または登録商標です。

Intel®は、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの登録商標です。

Android TV™はGoogle LLC.の商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

(5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

著作権について

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2022 Seiko Epson Corporation

2026.03 414171808a JA